

# コロナ禍における子育てに関する 援助要請行動についての実態調査Ⅱ

## 【 調 査 報 告 書 】

### 【第一部】

保護者に対する調査

### 【第二部】

相談専門職に対する調査

2023 年（令和 5 年）3 月

公益財団法人 いきいき岩手支援財団

# 【第一部】 保護者に対する調査

## 目 次

I.	調査背景	1
II.	保護者に対する調査【調査Ⅰ】	3
1.	調査テーマ	3
2.	調査の目的	3
3.	調査の企画および設計	3
4.	調査方法	3
5.	調査対象	3
6.	調査材料	3
7.	結果の公表	4
III.	調査の分析結果	5
1.	調査対象者の属性	5
1-1.	調査対象者の居住地域	
1-2.	調査対象者の続柄	
1-3.	調査対象者の年代	
1-4.	家族構成	
1-5.	祖父母の同居の有無	
1-6.	本調査の対象となる未就学児の情報	
1-7.	子どもからみた父親と母親の就労状況	
2.	子育て支援に関する認知度	14
2-1.	居住地域の子育て支援の認知	
2-2.	未就学児の出生順位と居住地域の子育て支援の認知	
3.	コロナによる子育てへの影響	23
3-1.	コロナによる子育てへの影響	

3-2. コロナによる子育てへの影響に関する自由記述	
4. 子育ての悩みの多さと深刻度	32
4-1. 子育ての悩みの多さ	
4-2. 子育ての悩みの深刻さ	
4-3. 子育ての悩みに関する自由記述	
5. 育児不安	45
5-1. 育児不安の傾向	
5-2. 育児不安に影響を与える要因	
6. 子育てに関する援助要請	48
6-1. 専門職等への相談のしやすさ	
6-2. 子育ての悩みに対する援助要請行動	
6-3. 援助要請行動に影響を与える要因	
7. マインドフルな子育て	58
7-1. マインドフルな子育て尺度	
IV. 考察	60

謝辞

引用・参考文献

本調査で使⽤した調査票

## I. 調査背景

平成 27 年版厚生労働白書によると、0～15 歳の子どもを持つ保護者の 72.4%が子育てに負担や悩みがあり、母親の 77.3%、父親の 67.4%で子育てが負担・不安に思うことがあると報告している。また母親が出産や育児に関わる相談をする場合にどのような相手（夫、親、きょうだい、非親族、その他）に相談するかについて、夫よりも親を頼りにしているというと報告している。しかし核家族化や雇用形態の多様化が進む現代において、実際に相談しているかどうかは不明であり、育児不安や育児ストレスの軽減が急務となっているといえる。

国では、「健やか親子 21」として母子の健康水準を向上させるさまざまな取り組みを行っており、健やか親子 21（2001 年度～2014 年度）の最終評価および次期計画の検討を基に、健やか親子 21（第 2 次）を開始している。健やか親子 21（第 2 次）では「すべての子どもが健やかに育つ社会」の実現を目指し、関係するすべての人々、関係機関・団体が一体となって取り組む国民運動として、2015 年度から 2024 年度までの期間の中で 3 つの基盤課題と 2 つの重点課題が掲げられている。この中でも特に基盤課題 C 「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」における“環境整備の指標として育児不安の親のグループ活動を支援している市区町村の割合”が明記されており、5 年後目標値 50.0%、10 年後目標値 100%としている。しかし、「健やか親子 21（第 2 次）」中間評価等に関する検討会報告書（2018）によると、2017 年度では 37.0%と低く、現状にあわせた支援体制の構築や支援内容が求められる。また、本報告書においても育児不安の背景には、少産少子化や核家族化、雇用形態の多様化など母子を取り巻く環境の変化に伴って生じた育児に取り組む親、特に母親の孤立から仕事と子育ての過剰な負担等が挙げられている。また、基盤課題 C 以外においても、育児不安に関する言及がなされており、育児不安の背景にあわせ、出産後から切れ目ない支援の重要性が求められている。

育児不安や育児ストレスに関連する要因としてソーシャルサポートが挙げられる。育児に関するソーシャルサポートとは、育児の援助そのものを指す手段的サポートや、悩みや相談を聞いてくれるなどの情緒的サポートがあり、特に情緒的サポートが育児不安に有効であると指摘されている。しかし育児中の保護者は、子育てに関する悩みを抱えても援助を求めたり、相談をしたりしないという援助要請能力自体が低い可能性や、相談できる相手がいない可能性、さらには家族や保育士、専門家などの対象（サポート源となる者）によっても求めるサポートが異なっていることも想定される。育児中の母親は他者や社会とのつながりの欠如により孤独感を感じやすいことが指摘されており（馬場・村山・田口・村嶋, 2013）、それに加え昨今の COVID-19 の影響により、子育て支援につながる場が閉鎖されていたり、祖父母や親せき等と出会う機会が減り、ソーシャルサポートを得られにくかったり、支援を受けたくても受けられない状況である可能性もあることから、現状を把握することが重要である。

また、令和 3 年度厚生労働白書では、調査対象である 2020 年（令和 2 年）は新型コロナ



ウイルスの感染拡大に伴い、新型コロナウイルス感染症と社会保障に着目している。これによると、特に子育て女性の雇用形態の不安定さが顕著であることや、家事や育児時間の増加により、就労と家庭生活の両面で女性に集中的な負荷がかかり、それが精神面に大きな影響を及ぼしていることを示唆している。

これらのことから、2021 年度から継続している本調査において、子育てをしている保護者の援助要請行動の実態を明らかにすることにより、今後の子育て支援の体制づくりや虐待予防などに寄与する要因が明らかになると考える。

## Ⅱ. 保護者に対する調査【調査Ⅰ】

### 1. 調査テーマ

本調査のテーマは『コロナ禍における子育て中の保護者の援助要請行動についての実態調査』とした。

### 2. 調査の目的

本調査は、子育てをしている保護者の援助要請行動の実態およびコロナ禍における影響を明らかにすることを目的とした。これらを検討することにより、2021年度からの実態の変化が明らかとなり、今後の子育て支援の体制づくりや虐待予防などに寄与する要因が明らかになると考えられる。

### 3. 調査の企画および設計

調査の企画は、公益財団法人いきいき岩手支援財団が行い、調査の設計、実施および分析を岩手県立大学に委託した。調査の設計、実施、分析および報告書の執筆は瀧井美緒（社会福祉学部・講師）が担当した。

### 4. 調査方法

- (1) 実施時期：令和4年10月～令和5年3月
- (2) 実施方法：質問紙調査。回答後は個別に郵送で提出いただいた。

### 5. 調査対象

調査対象は岩手県内に在住しており、調査実施時点で未就学児の子どもを持つ保護者とした。

調査協力依頼については、2021年度調査と同様に、令和2年岩手県人口移動報告年報（令和2年10月1日現在）から0～4歳の人口が概ね300人以上いる市町村を対象にし、該当市町村の担当部署に協力依頼を行った。協力の申し出があった市町村は担当部署を通して調査対象者へ配布、また盛岡市、滝沢市の保育所へ配布、そのほか縁故法を用いて調査対象者に配布を行った。

市町村担当部署へ1,564部配布、盛岡市、滝沢市の保育所へは約1,200部配布し、905部の回答が得られた（回収率 約32.7%）。なお、調査票は10月下旬に配布し、11月下旬を期限として提出いただいた。

### 6. 調査材料

調査項目は以下の通りである。

- ・回答者に関する情報（居住地、回答者の子どもからみた属性、回答者の年齢）

- ・対象児に関する情報（年齢，性別，出生順位）
- ・家族に関する情報（家族構成，祖父母と同居の有無，父母の就労形態）
- ・居住市町村の子育て支援の把握の有無
- ・コロナによる子育ての影響
- ・子育ての悩みの多さ，深刻度に関する尺度（本田・新井，2010）
- ・子育ての悩みの内容
- ・育児不安尺度（牧野，1982）
- ・子育ての悩みを相談できる相手について
- ・子育ての悩みに関する援助要請行動尺度（本田・新井，2010）
- ・マインドフルな子育て尺度（水崎・仲嶺・佐藤・尾形，2018）

なお，自由記述による質的データのテキストマイニングには，KH Coder 3（樋口，2020）および，UserLocal 社が提供する AI 技術を用いたオンラインテキストマイニングツールである AI テキストマイニング（<https://textmining.userlocal.jp/>）を用いて分析を行った。

## 7. 結果の公表

調査結果は，報告書を作成のうえ，財団ホームページでの公表，学術発表や学術論文として公表するとともに，協力いただいた関係者へ提供することとし，今後の関連施策にも反映されるものとする。

### Ⅲ. 調査の分析結果

#### 1. 調査対象者の属性

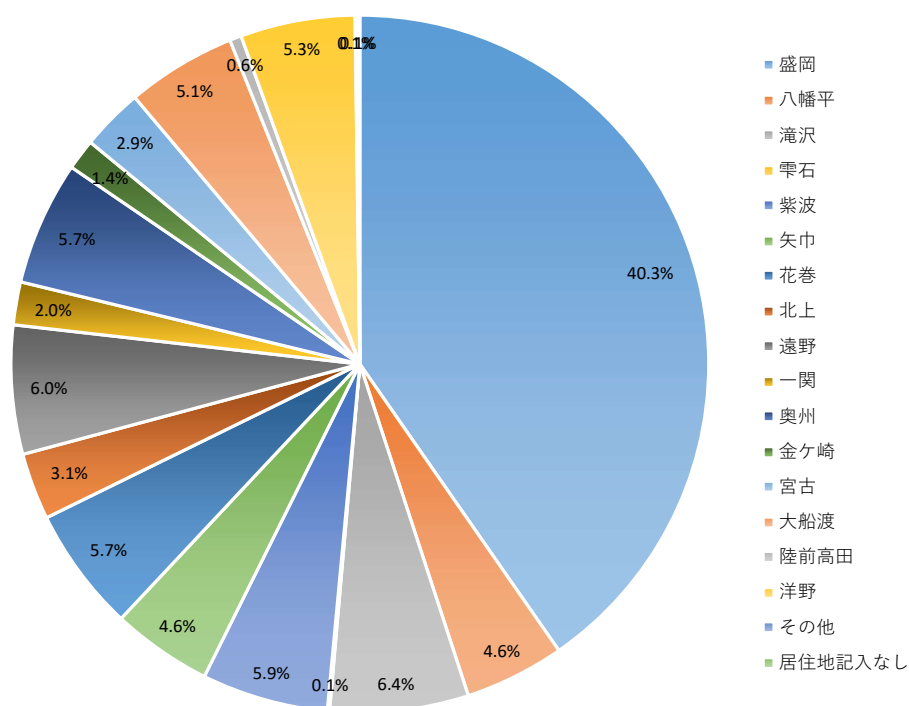
##### 1-1. 調査対象者の居住地域

調査対象者の居住地域別人数（表 1）と居住地域の割合は図 1 の通りである。

市町村	人数	市町村	人数
盛岡市	365	奥州市	52
八幡平市	42	金ヶ崎町	13
滝沢市	58	宮古市	26
雫石町	1	大船渡市	46
紫波町	53	陸前高田市	5
矢巾町	42	洋野町	48
花巻市	52	その他	1
北上市	28	居住地記入なし	1
遠野市	54		
一関市	18		

表 1 調査対象者の居住地域別人数

図 1 調査対象者の居住地域の割合



## 1-2. 調査対象者の続柄

2021 年度調査よりご回答いただいた人数は増加したものの、調査対象者の 90%以上が「母親」が回答しており、次いで「父親」が回答していた（図 2）。

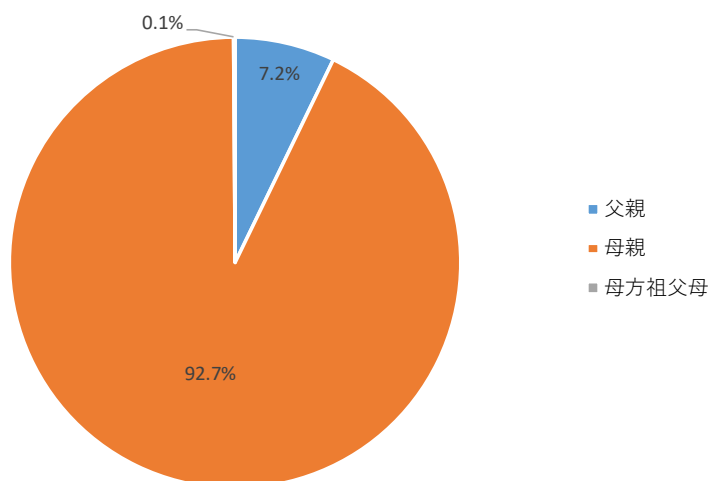


図 2 調査対象者の続柄の割合

さらに、居住地域別での調査対象者の続柄の割合は図 3 の通りである。

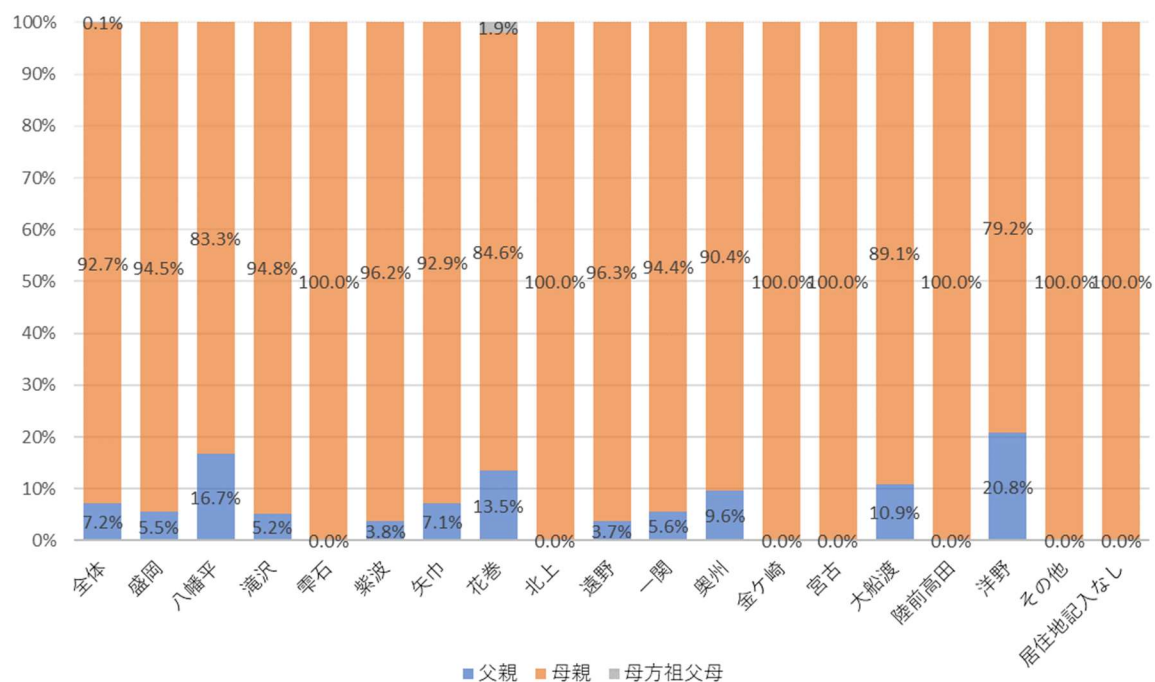


図 3 調査対象者の居住地別続柄の割合

### 1-3. 調査対象者の年代

調査対象者の年代を図4に示す。

全体の傾向でみると、調査対象者の年代は「30歳以上35歳未満」がもっとも多く、次いで「35歳以上40歳未満」が多かった。回答が20名以上の市町村の中でみると、滝沢市、花巻市、北上市、宮古市、洋野町は全体の傾向よりも低い年代の方が回答していることがわかる（図4）。

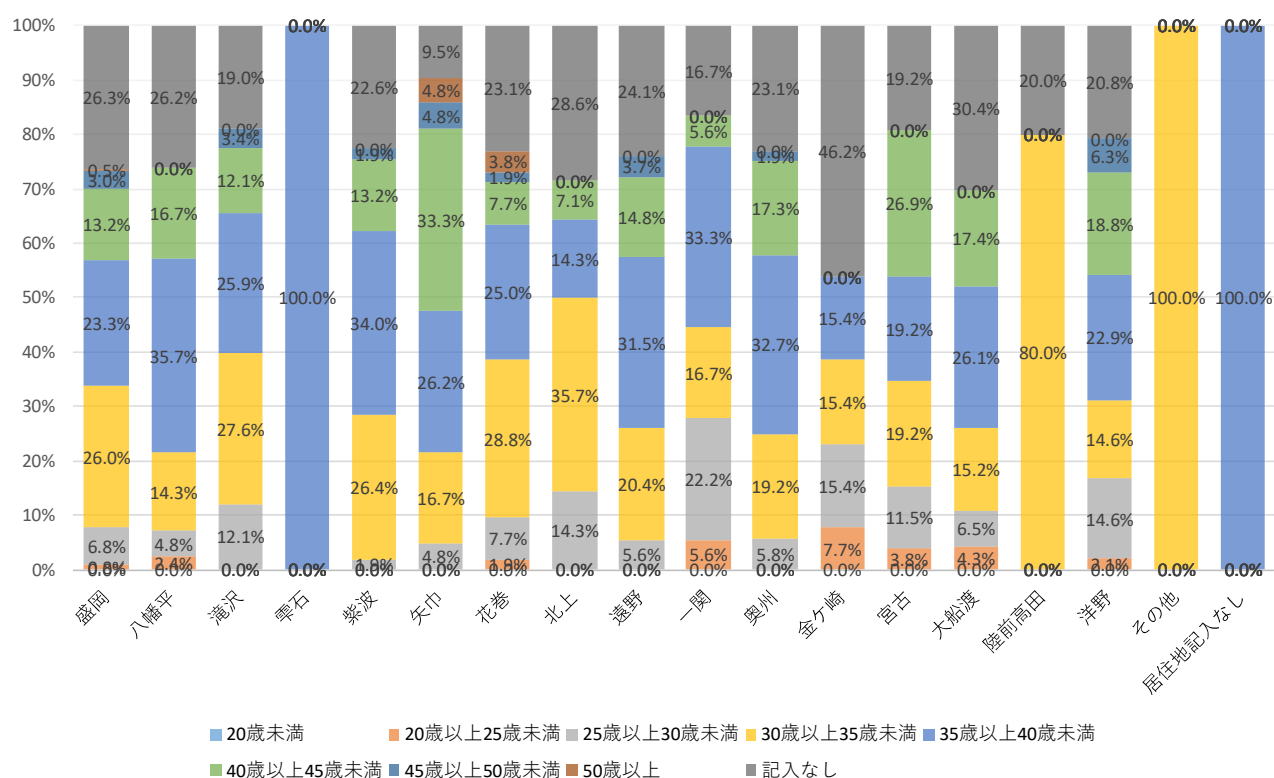


図4 調査対象者の居住地別年代の割合

## 1-4. 家族構成

家族構成の割合を図5に示す。家族構成は「4人家族」がもっとも多く、次いで「3人家族」、「5人家族」とつづいていた。しかし、居住地域によって傾向は異なっていることがわかる。

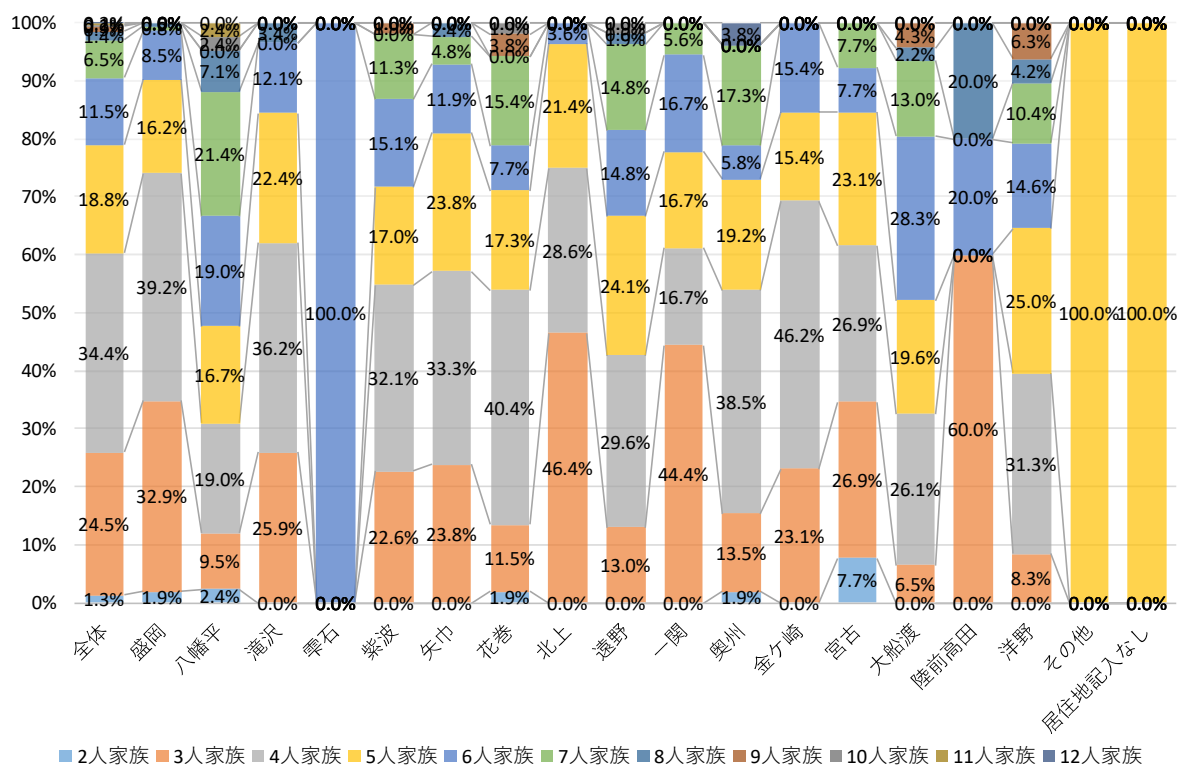


図5 調査対象者の家族構成の割合

さらに、家族構成の中で子どもの人数を図6に示した。6人家族までは、子どもの人数に比例した家族構成となっている割合が高く、核家族である可能性が高いといえる。

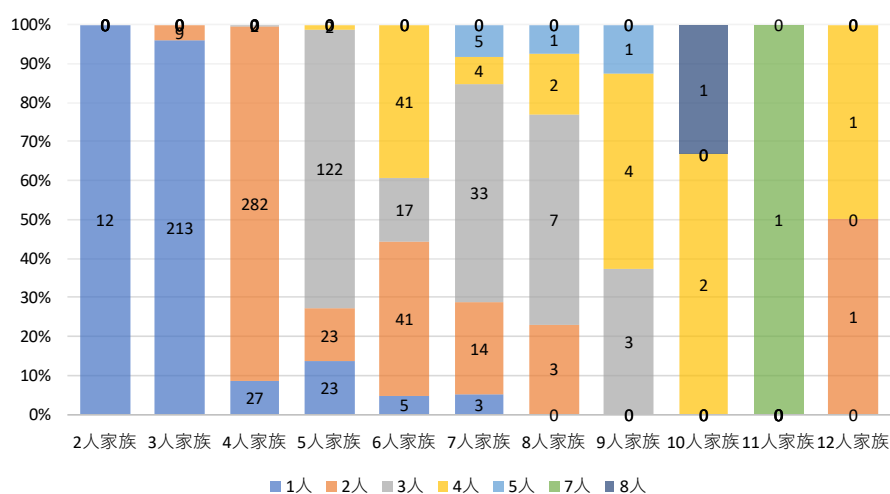


図6 家族構成における子どもの数

### 1-5. 祖父母の同居の有無

祖父母との同居（実父母，義父母問わず）の有無について，図7に示す。

全体の傾向としては7割が祖父母と同居していないことがわかる。特に，盛岡市や滝沢市では8～9割近くが祖父母と同居していないが，八幡平市，洋野町では逆転しており，居住地域による傾向には違いがみられる。

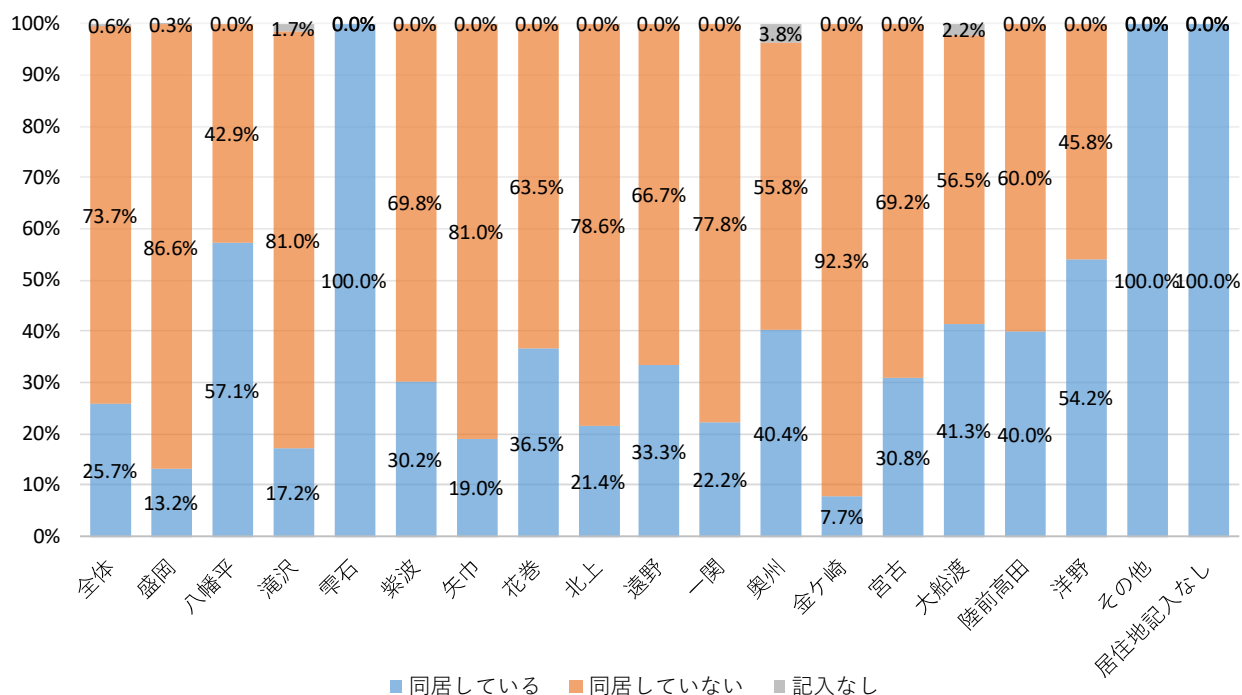


図7 祖父母との同居の割合



### 1-6. 未就学児の情報

本調査において回答いただいた家庭の未就学児の年齢（図 8）、性別（図 9）、出生順位（図 10）を示す。

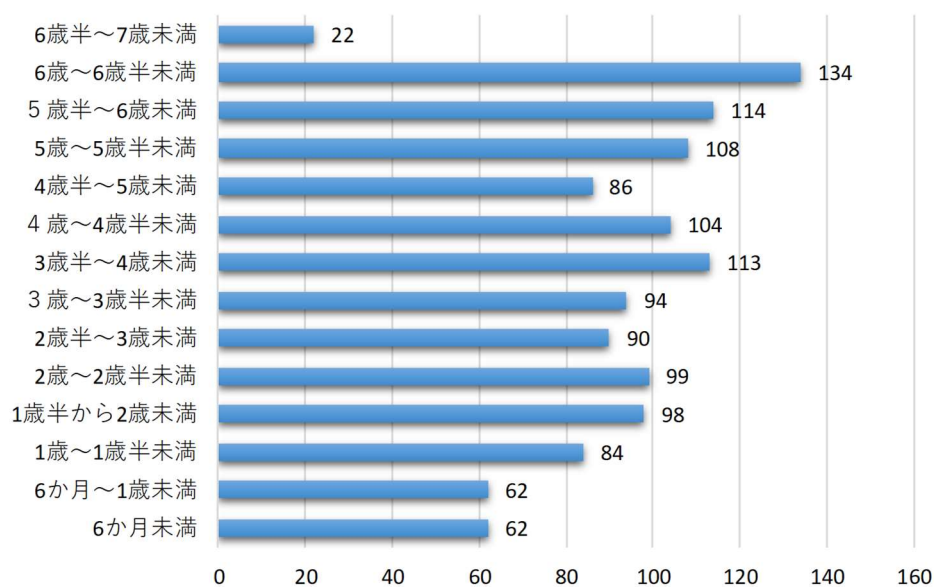


図 8 未就学児の年齢別人数

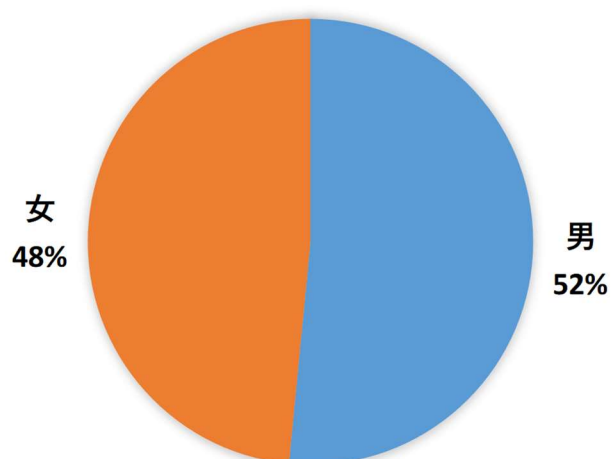


図 9 未就学児の性別の割合

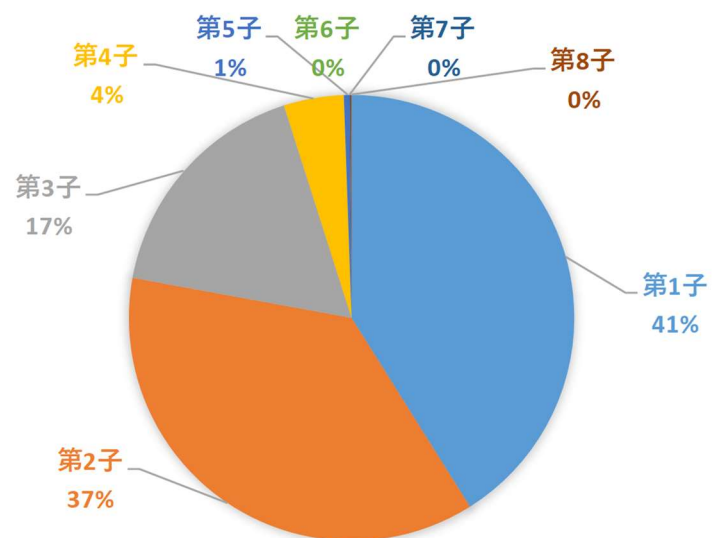


図 10 未就学児の出生順位の割合

### 1-7. 子どもからみた父親と母親の就労状況

父親と母親の就労状況を図 11 に示す。

父親の 83.4%が「正規」で雇用されており、「非正規・パート」、「自営」、「その他有職」を合わせると 94%が何らかの就労を行っている。

母親は 53.4%が「正規」雇用であるが、34.1%が「非正規・パート」であり、父親に比べると母親の「正規」の割合が低いことがわかる。「非正規・パート」、「自営」、「その他有職」を合わせると 92.8%が何らかの就労を行っている。

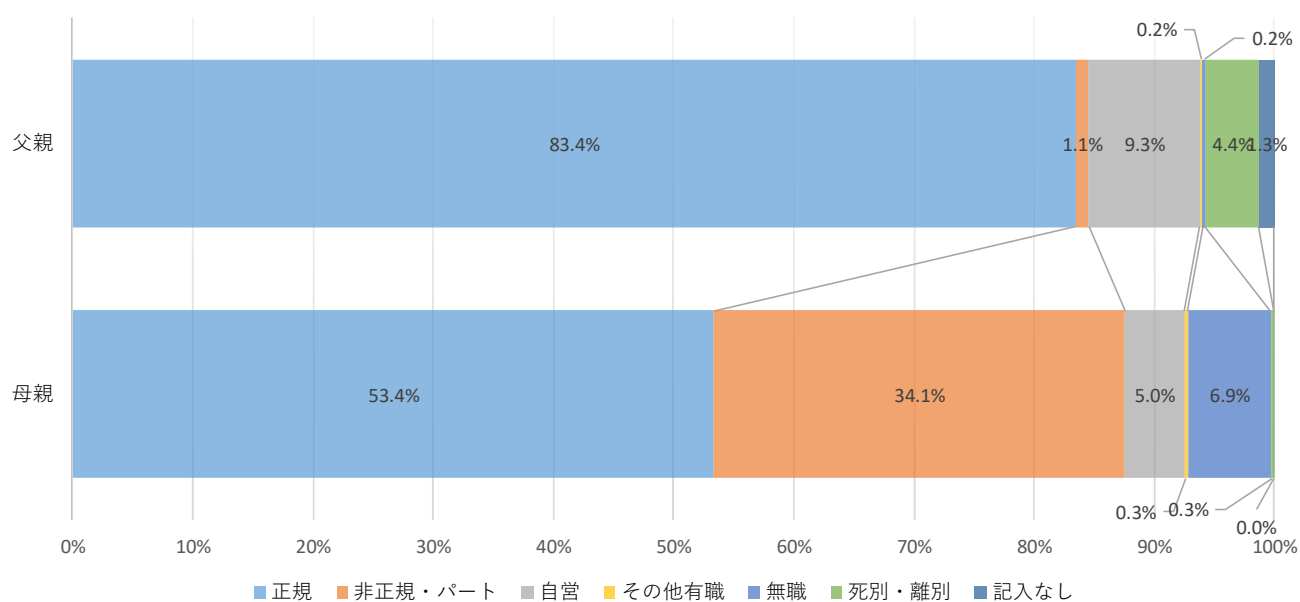


図 11 父親・母親の就労状況

さらに、2021 年度との比較を父親（図 12）、母親（図 13）に示す。なお、父親について、2022 年度は未記入があったため、図 12 の比較においては未記入を除いた数を総数とし、割合を算出した。

父親、母親ともに正規雇用の割合が増え、「非正規・パート」、「自営」、「その他有職」を合わせると何らかの就労をしている割合が増えていることがわかる。

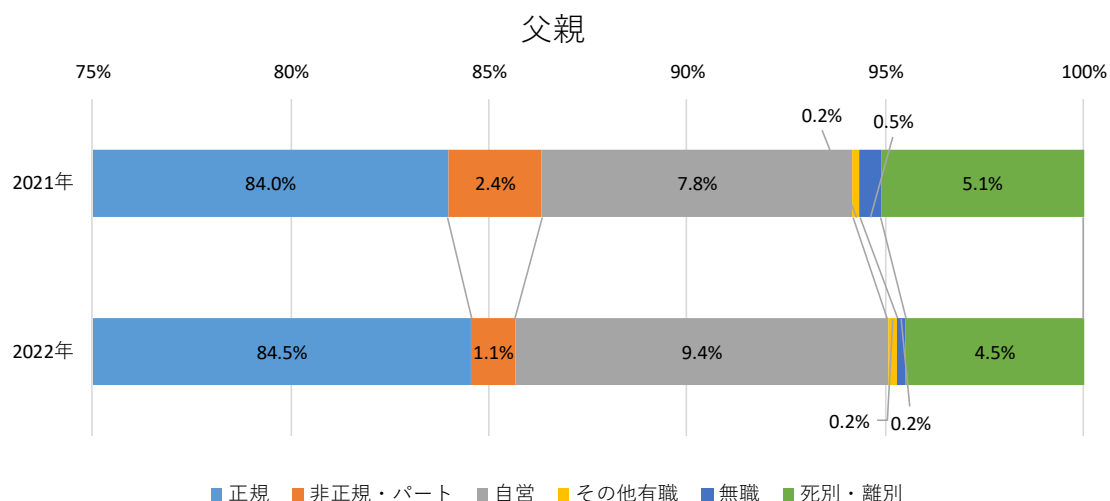


図 12 2021 年度と比較した父親の就労状況

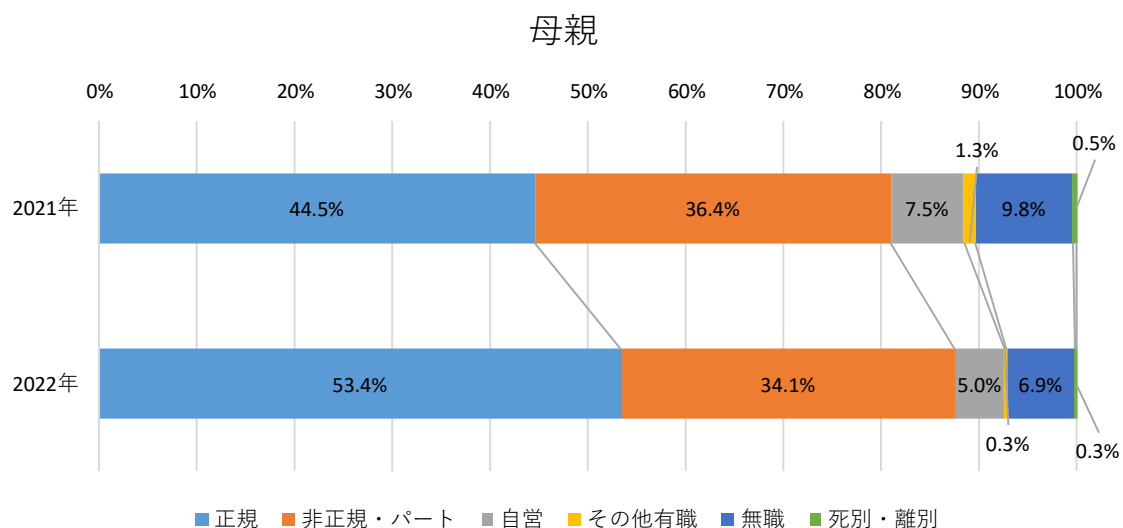


図 13 2021 年度と比較した母親の就労状況

## 2. 子育て支援に関する認知度

### 2-1. 居住地域の子育て支援の認知

居住地域の市町村が行なっている子育て支援について知っているかどうかについて図 14 に示す。全体でみると「知っている」が 50.3%であり、約半数が知らないという状況であることがわかる。さらに、具体的に知っている支援内容の記述については、「知っている」と回答した 441 名中 334 名から回答があったが、回答いただいた「具体的に知っている」とした内容は市町村独自の取り組みというよりも一般的な子育て支援と思われる内容や具体的な記述とは言い難い内容も含まれており、居住地域の具体的な子育て支援の認知には至っていない可能性がある。

知っている子育て支援の内容について、具体的な記述のあった居住地域別割合（表 2）と市町村ごとの自由記述で得られた内容について、回答の多い盛岡市は AI テキストマイニングを行い、重要度が高い単語を用いたワードクラウド（図 15）を示す。その他の市町村については代表的な内容（表 3）を示す。

なお、表 3 において、重複した回答内容であっても、市町村独自の取り組みや施設の名称などが具体的に記述されている場合は、そのまま記載をしている。

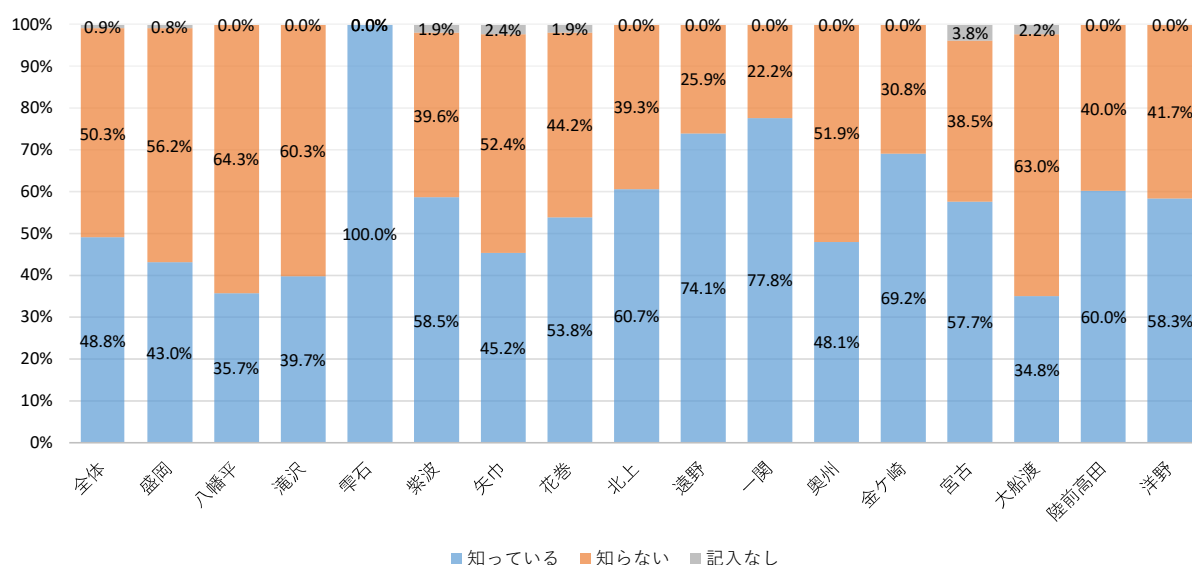


図 14 居住地域の子育て支援の認知割合

表2 具体的記述のあった居住地域別割合

市町村	割合	市町村	割合
盛岡市	76.4%	遠野市	70.0%
八幡平市	86.7%	一関市	78.6%
滝沢市	87.0%	奥州市	68.0%
雫石町	100.0%	金ヶ崎町	44.4%
紫波町	80.6%	宮古市	66.7%
矢巾町	78.9%	大船渡市	62.5%
花巻市	78.6%	陸前高田市	66.7%
北上市	88.2%	洋野町	75.0%

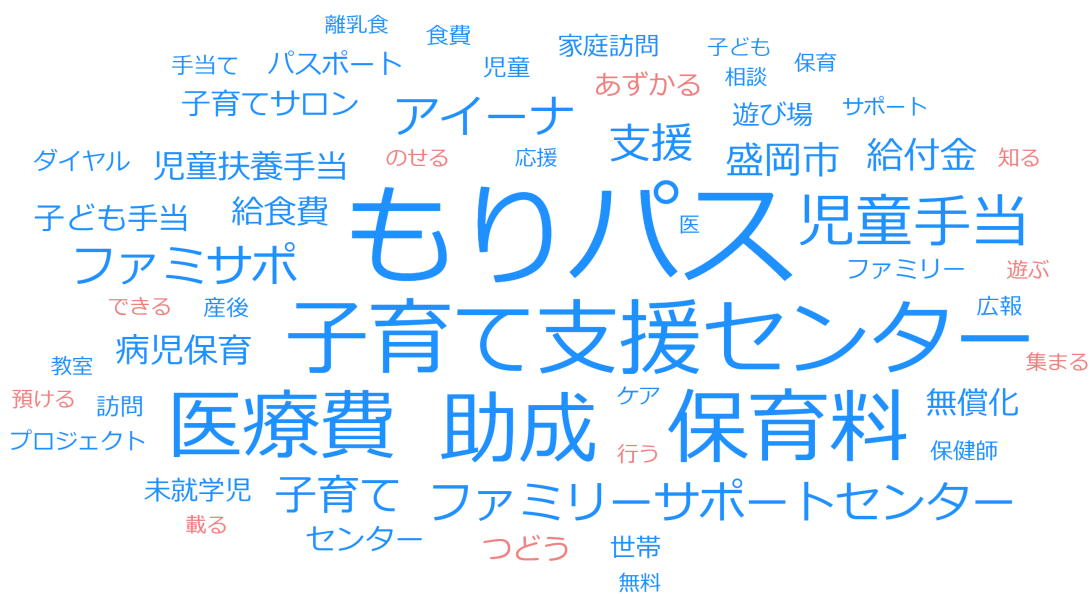


図 14 盛岡市における回答のワードクラウド

表3 知っていると回答した対象者の記述内容

居住地	記述内容
八幡平市	あそびの広場、出産祝金
	あそぼう会、ヘルパー事業
	出産祝い金（※同様の回答が複数）
	医療費無料（※同様の回答が複数）
	子育て支援センター、産後6か月までの親子サポートする施設
	たからっこ広場
	たからっこ広場、森の子子育て支援センター
	子育て支援センター、出産祝金、産後ヘルパー
	児童手当
滝沢市	一時預かり
	支援センター（※同様の回答が複数）
	母親・両親学級etc
	病児保育事業
	びよびよ広場
	ファミリーサポート（※同様の回答が複数）
	電話相談
雫石町	給付金、センター施設、イベント
紫波町	医療費助成、子育て手当
	カフェ（※同様の回答が複数）
	子育て広場（※同様の回答が複数）
	しわっせ
	しわっせ
	紫波っせ、子育て支援カフェ
	ひろば、支援センター、医療費助成
	ファミリーサポート（※同様の回答が複数）
	育児相談、一時預かり保育、健診
	子育て支援センター（※同様の回答が複数）
	支援センター、なかよしひろばなど
	児童手当、特別給付金
矢巾町	あいあいひろば、一時保育
	あいあい広場、どんぐりっ子
	遊びの広場、ファミサポ、子育て講習会、子育て相談
	子育て相談、一時預り
	どんぐりっこ、さくらんぼ広場、役場のあいあい広場
	どんぐりっこ、さわやかハウス
	産後の訪問
	ファミリーサポート（※同様の回答が複数）
	医療費助成
	子育て支援センター（※同様の回答が複数）

居住地	記述内容
花巻市	アプリがある・支援センター・育児相談
	一時預かり、ファミサポ、医療費助成、地域子育て支援センター、育児相談
	医療費の公的補助、保育料の軽減など
	子育て支援センター、あずかりおねがい会員、ファミリーサポート
	産後ケア事業
	産後デイサービス
	第3子以降保育料等負担軽減
	病後児保育（※同様の回答が複数）
	ファミリーサポート（※同様の回答が複数）
	支援センター（※同様の回答が複数）
	まんまるぽっと
	まんまるぽっと、こどもセンター
	まんまるぽっと、子育て支援センター、保育料の引き下げ
	まんまるぽっと、支援センター、あずかりサポート
	児童手当、特別給付、支援センター、ファミリーサポートなど
	第3子以降保育料等負担、3歳児未満の保育料引き下げ
北上市	hokkoがある
	医療費6歳まで無料、hokko、多子世帯の金銭的支援
	医療費無料
	様々な子育てに関する教室を実施している（※同様の回答が複数）
	ファミリーサポート（※同様の回答が複数）
	ふれあいベビー教室
	保健師への育児相談
	子育て支援センター（※同様の回答が複数）
	第三子以降に子一人につき10万給付
	病児保育
遠野市	応援券
	おむつの支給支援（※同様の回答が複数）
	妊産婦通院助成、保育料無償化、保育所等副食費助成など
	妊産婦通院費助成・誕生応援事業
	病児保育（※同様の回答が複数）
	ファミリーサポート（※同様の回答が複数）
	副食費負担ゼロ（※同様の回答が複数）
	保育料の無料化（※同様の回答が複数）
	まなざし
	まなざし、わらすっこセンター、わらっぺホーム（病児保育）、ファミサポ
	わらっぺホーム
	元気わらすっこセンターの利用
	短時間の預りサービス



居住地	記述内容
一関市	親の体調不良時、子供を預かってくれる
	お手伝い支援や保健センターでの遊べるスペースの解放など
	子育て経験のあるボランティアの人に定額で子供を短時間預けることができる
	子育て支援センターの遊ぶ施設の開放
	産後サポート、ひよっこクラブ
	出産祝い金
	認定こども園 利用料無償化
	ファミリーサポート、子育てひろば
	ふれあい場（※同様の回答が複数）
	ふれあいひろば、両親学級、産後支援
奥州市	赤ちゃん広場
	子育て支援センター（※同様の回答が複数）
	こっころ、ファミリーサポート
	病児保育
	子育て相談
	保育園で行われている子育て支援広場
	医療費補助、給付金、支援センター
	奥州市ファミリーサポートセンター、子どもの遊び場を提供
	各地区ごとの支援センター開設、子ども食堂
	子育て支援センター（※同様の回答が複数）
	児童手当
金ケ崎町	医療費助成、離乳食教室、金ケ崎赤ちゃん駅などなど
	インフルエンザ助成、保育料2人目より半額
	ファミサポ
	第3子保育料無料
宮古市	月齢に合わせたあそび・相談（つどいの広場）、助産師訪問相談など
	子育て給付など
	つどいの広場「すくすくランド」、家庭訪問型子育て支援ホームスタート
	ファミサポ（※同様の回答が複数）
	保育料無料（※同様の回答が複数）
	医療費、保育料無償化
	一時保育など
	産前・産後ケア

居住地	記述内容
大船渡市	SNS,子育て支援センター、病児後保育、医療費無料
	預かり保育等
	子育ての悩み相談
	子育て用品貸与
	子どもが生まれると金券。子育て支援センター
	つどいの広場
	母子支援センターの運営
	幼保での副食費無料
	医療費助成
	給食費（保）、保育費無償、医療費無償（何歳までかは知らない）
陸前高田市	子育て支援センター（※同様の回答が複数）
洋野町	子育て支援センター（※同様の回答が複数）
	子育て支援センター スマイルハグ
	児童手当
	すこやか広場
	乳幼児健診
	保育園の1室でやっているすこやかさん
	未就園児への保育所の開放、児童館の開放、母親と幼児への手工芸行事、母親への講演会
	医療費負担なし（※同様の回答が複数）
	支援支給金、園に入っていない子の一時預かり等
	出産祝金（※同様の回答が複数）
	相談、ワークショップ
	保育料第3子以降無料化（※同様の回答が複数）

さらに、子育て支援の認知度について「知っている」と回答した者の 2021 年度と 2022 年度の割合を図 15 に示す。

全体の割合で見ると「知っている」と回答した割合は減少しており、特に 2021 年度、2022 年度ともに 20 名以上の回答がある盛岡市、八幡平市、矢巾町、花巻市、遠野市、宮古市、大船渡市、洋野町で見てみると、花巻市と遠野市を除いて、2021 年度よりも認知割合が減少しているのがわかる。

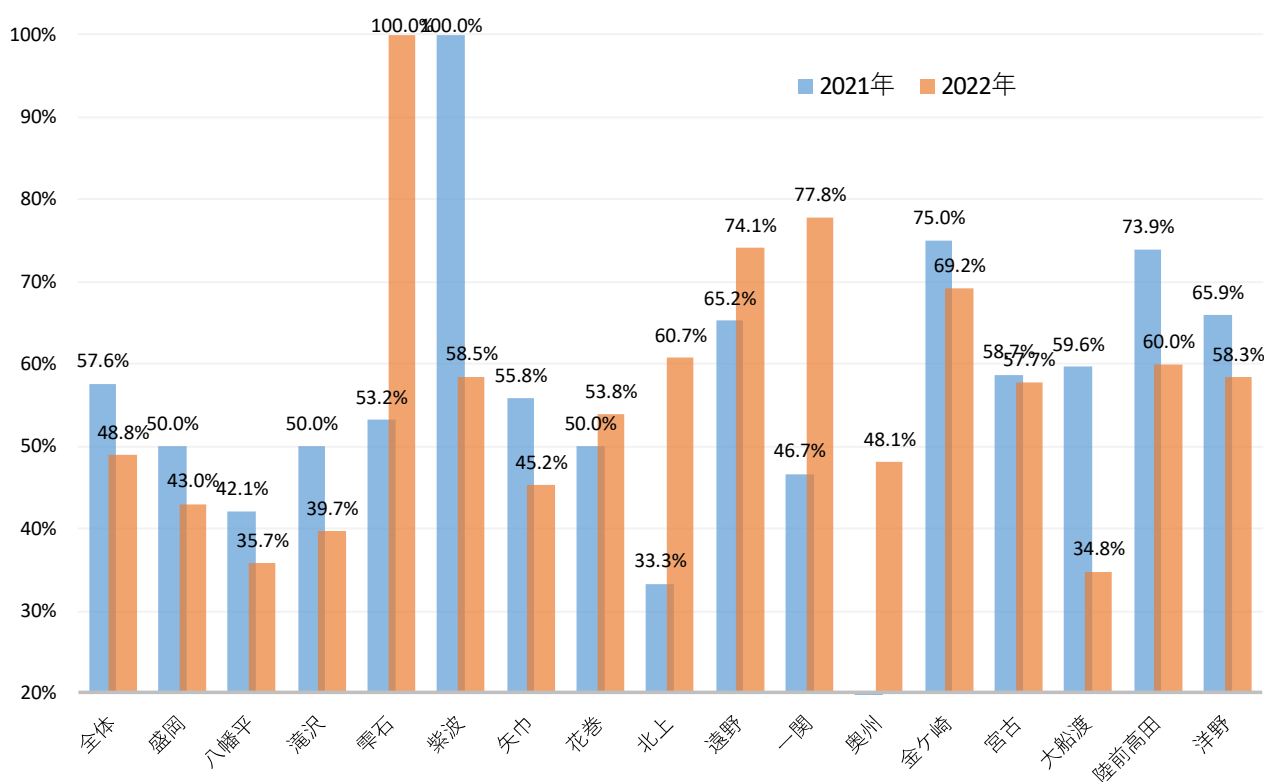


図 15 2021 年度と 2022 年度の子育て支援の認知割合

## 2-2. 未就学児の出生順位と居住地の子育て支援の認知

居住地の市町村が行なっている子育て支援について知っているかどうかについて、未就学児の出生順位別の割合を図 16 に示す。

回答者が多い第 4 子までに着目すると、未就学児の出生順位に関わらず、子育て支援に認知は 50%程度であった。

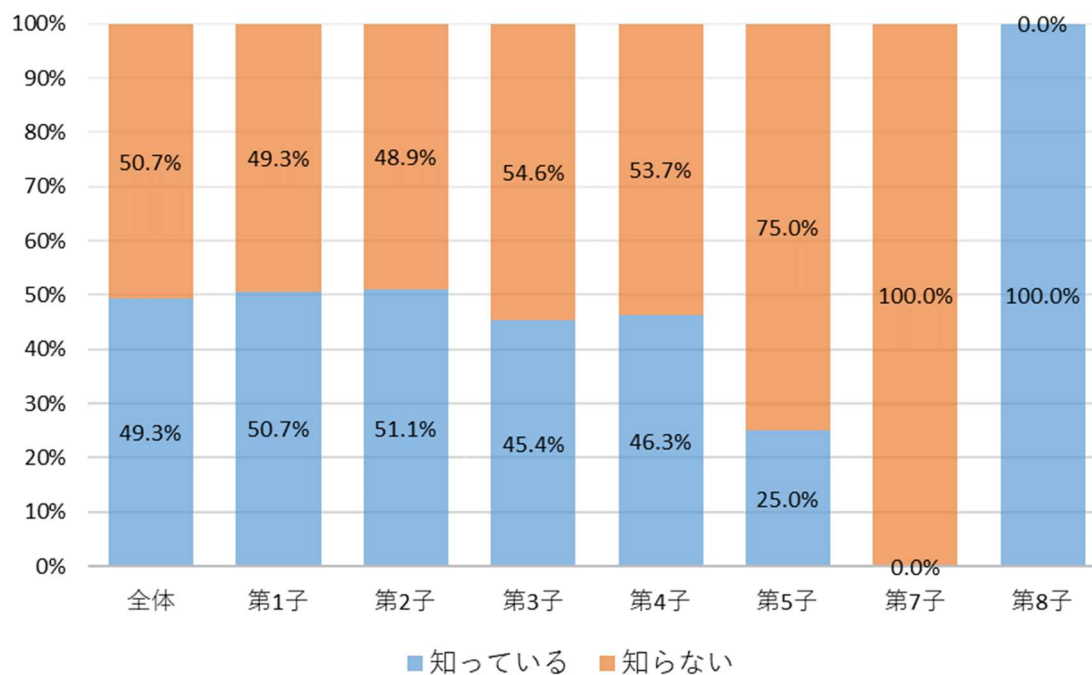


図 16 未就学児の出生順位別の居住地の子育て支援の認知割合  
(第 6 子は回答がなかったため省略)

さらに、第4子までの回答者における子育て支援の認知について2021年度、2022年度の割合を比較すると（図17）、2021年度は出生順位が上がるにつれて「知っている」と回答した割合が増加していたが、2022年度ではそのような傾向は見られなかった。さらに、第1子から第4子すべてにおいて、2021年度よりも2022年度の方が認知割合が減少していることがわかる。

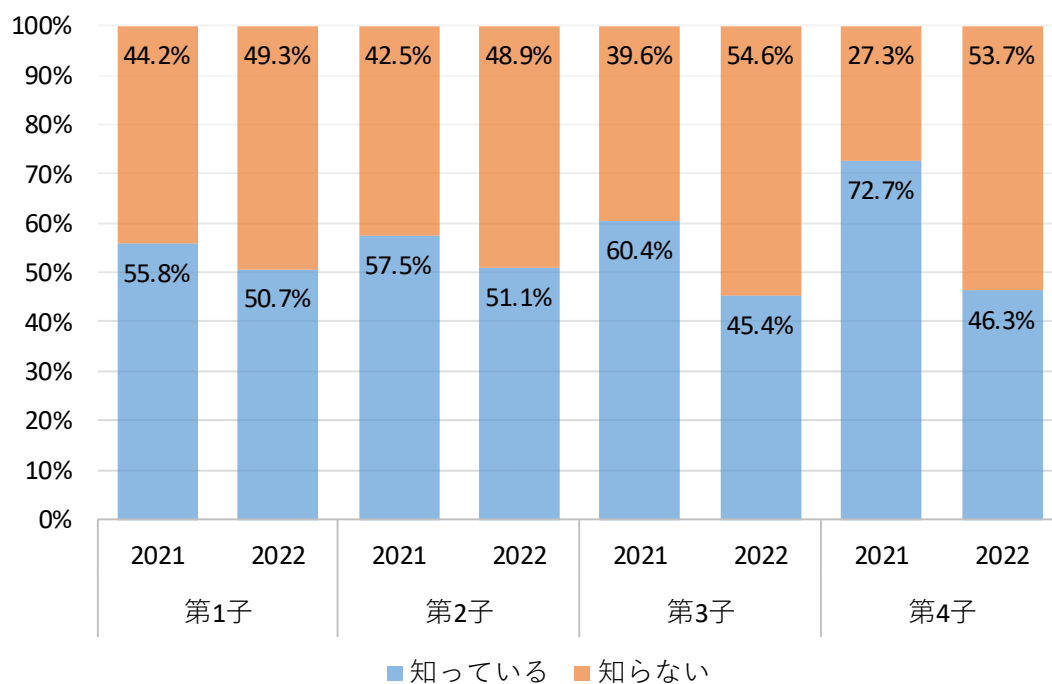


図17 未就学児の出生順位（第4子まで）別の子育て支援の認知割合

### 3. コロナによる子育てへの影響

#### 3-1. コロナによる子育てへの影響

コロナによる子育てへの影響について、「0(全く影響がない)から6(とても影響がある)」で回答を求めた。

居住地域別の割合を図18に示す。全体でみると「3」「4」の回答がそれぞれ20%前後と多く、40.5%を占めていた。

さらに、地域別でみていくと盛岡市、花巻市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、洋野町では、全体と比較し「4以上」の回答の割合が高くなっている。特に大船渡市、陸前高田市、釜石市、洋野町は本調査の回答者数も多い地域であり、少数のデータで割合に変動が起きているのではなく、コロナによる子育てへの影響を感じている保護者が多かったといえる。

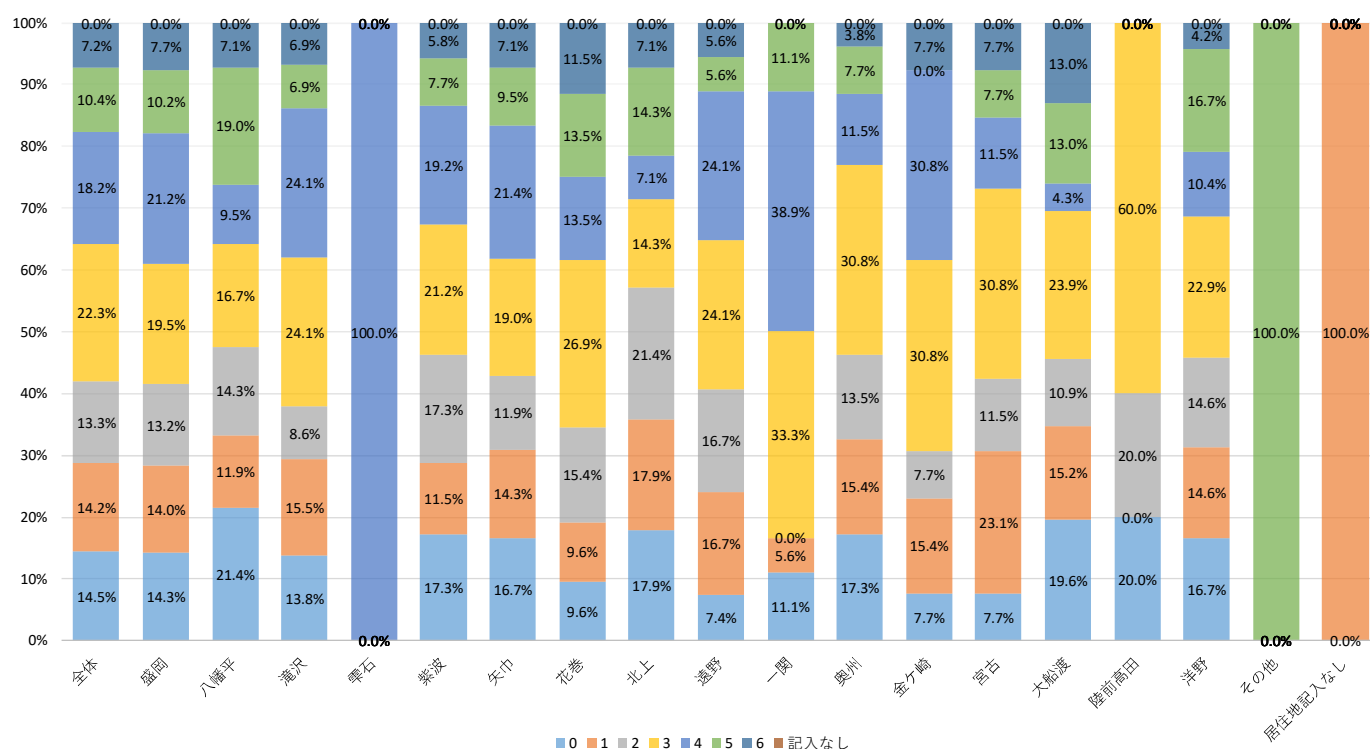


図18 コロナによる子育てへの影響の割合

また、コロナによる子育てへの影響について、2021 年度と 2022 年度の回答割合を図 19 に示す。2021 年度と比較し、2022 年度の方が「3」～「6」の回答者の割合が増加しており、子育てへの影響が大きいと考えている者の割合が増えているのがわかる。

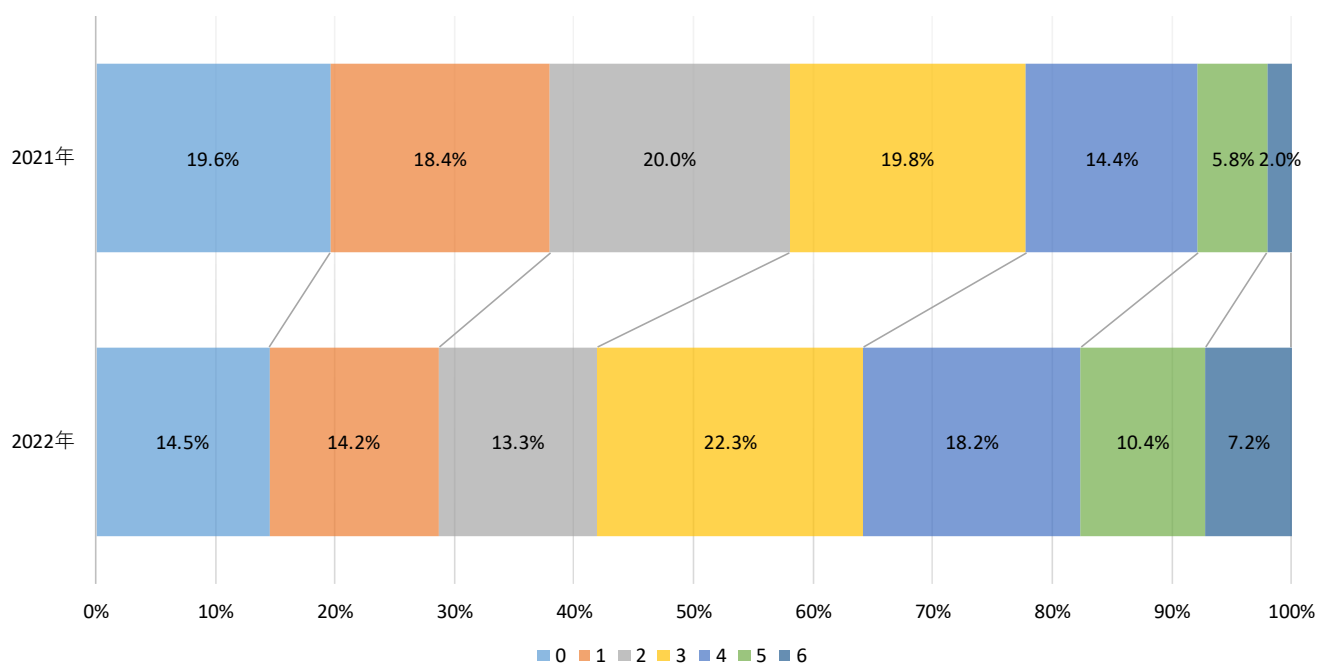


図 19 2021 年度，2022.年度におけるコロナによる子育てへの影響の割合

### 3-2. コロナによる子育てへの影響に関する自由記述

コロナによる子育てへの影響について、「コロナの影響によってご自身の子育てがうまくいっていないと感じている場合、どのようなことで影響を感じますか。」と問い、自由記述による回答を求めた。自由記述による質的データを、KH Coder 3 (樋口, 2020) を用いてテキストマイニングを行った。形態素解析の結果、15,538 語、884 文を分析対象とし、頻出語 150 語を抽出した (表 4)。「子供」、「外出」、「仕事」などの語が上位に挙げられ、子どもが外出できないことや保護者自身の仕事への影響などを感じていたことが見受けられる。

表 4 コロナによる子育てへの影響に関する自由記述 上位 150 語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
コロナ	102	色々	26	クラス	12	急	8
子供	88	気	25	学校	12	検査	8
行く	86	会う	24	自宅待機	12	見せる	8
外出	85	休み	24	遊び場	12	言う	8
仕事	74	県外	24	兄弟	11	行動	8
人	73	濃厚接触者	24	集まる	11	自粛	8
子ども	72	不安	24	出掛ける	11	自身	8
多い	66	いろいろ	23	長い	11	収入	8
連れる	66	参加	22	同士	11	成長	8
制限	65	増える	22	怖い	11	動物園	8
保育園	65	中止	22	たくさん	10	避ける	8
行ける	61	休日	17	コロナ感染	10	必要	8
減る	58	考える	17	遊び場	12	不足	8
休む	57	心配	17	活動	10	母	8
感じる	54	保育	17	関わり	10	友人	8
ストレス	49	園	16	関わる	10	頼る	8
機会	48	家族	16	限る	10	禍	7
経験	46	自分	16	今	10	見える	7
イベント	45	親	16	場	10	好き	7
子	45	登園	16	情報	10	小さい	7
遊ぶ	43	公園	15	職場	10	症状	7
場所	42	自宅	15	親子	10	人数	7
行事	41	上	15	接触	10	特に	7
感染	40	他	15	前	10	悩む	7
思う	39	表情	15	熱	10		
少ない	39	遠い	14	ママ	9		
時間	38	控える	14	一緒	9		
マスク	35	施設	14	外出先	9		
旅行	35	自由	14	外遊び	9		
家	32	祖父母	14	持つ	9		
体験	31	難しい	14	実家	9		
遊び	31	イライラ	13	受診	9		
外	29	ゲーム	13	人混み	9		
交流	29	会える	13	対応	9		
出かける	29	見る	13	対策	9		
休園	28	生活	13	発熱	9		
出る	28	閉鎖	13	風邪	9		
出来る	27	遊べる	13	テレビ	8		
影響	26	利用	13	我慢	8		



また、上位 60 語を使用し、共起ネットワーク分析を行った結果を図 20 に示す。

共起ネットワーク分析は、テキストデータの語と語のつながりや、文章における出現パターンが類似している語を視覚化することができる。出現数の多い語ほど円が大きくなり、語と語のつながりが強いほど語をつないでいる線は太く表示されるため、出現パターンの似通った語のグループを探すことで、データ中に多く現れたテーマやトピックを読み取ることができる分析である。

図 20 の結果、および自由記述の内容から、【コロナに感染】したり、【濃厚接触者】になることで【仕事を休まなくてはならない】ことや、【保育園の休園】により、【仕事を休む】ことや【行事が中止になったり制限がかかること】などの保護者自身の社会生活に関わる内容がみられている。さらに、さまざまな【機会が減る】、【マスクで表情がわからない】などが単語同士のまとまりとしてみられ、子どもが就学前に経験してほしいと考えるようなことが経験できていないことなどがみられている。

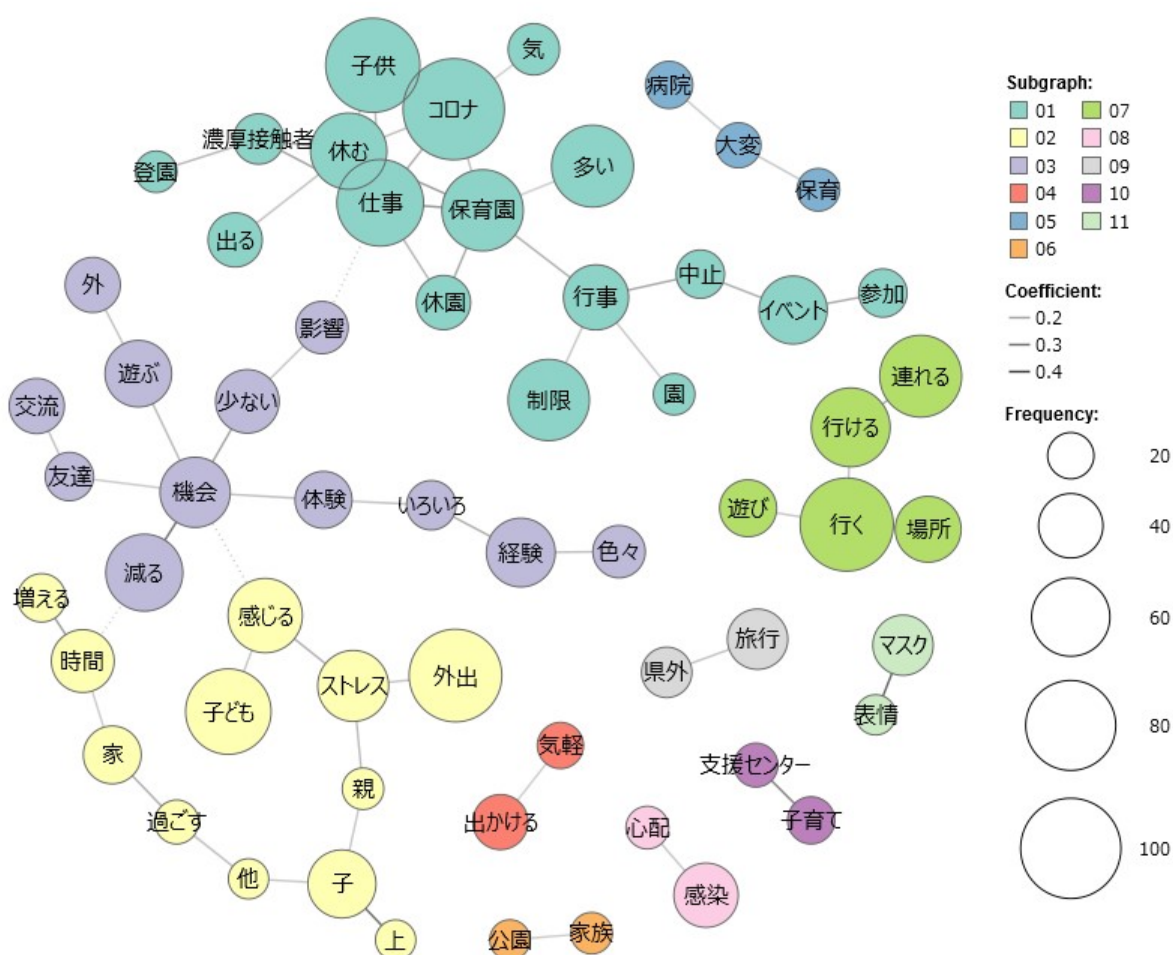


図 20 コロナによる子育てへの影響に関する共起ネットワーク

次に、コロナによる子育てへの影響の評価において、「0（全く影響がない）」以外の評価「1 から 6（とても影響がある）」別の共起ネットワークを図 21 に、それぞれの特徴語を表 5 に示す。これは、評価別の自由記述内容の記載傾向を読み取ることができる分析である。

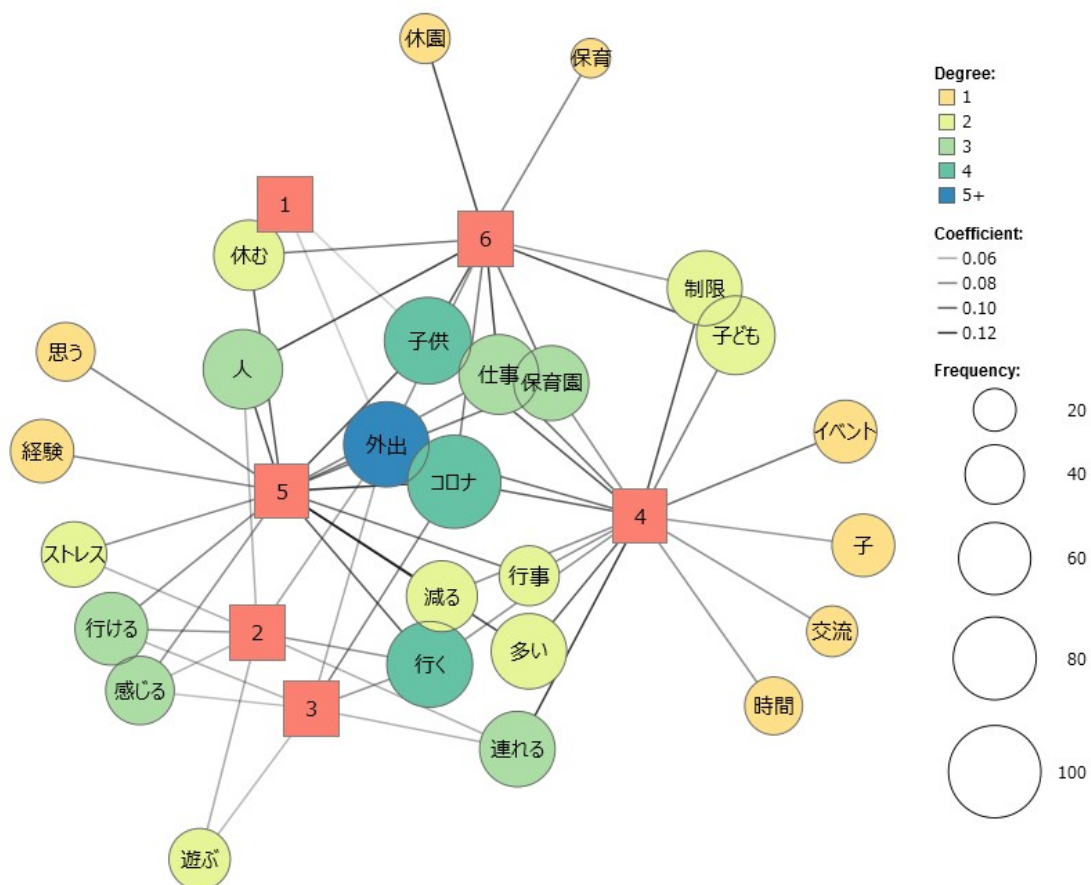


図 21 コロナによる子育てへの影響度別の記述に関する共起ネットワーク

表 5 コロナによる子育てへの影響度別の記述に関する特徴語

1		2		3	
旅行	.032	行ける	.073	コロナ	.082
場合	.028	行く	.071	行く	.070
外	.027	外出	.064	行ける	.057
休園	.026	遊ぶ	.060	連れる	.056
祖父母	.022	連れる	.058	遊ぶ	.052
休日	.021	ストレス	.057	感じる	.050
参加	.021	人	.057	気	.042
いろいろ	.021	感じる	.056	家	.040
伝える	.016	遊び	.049	旅行	.040
行う	.015	制限	.047	遊び	.036
4		5		6	
連れる	.113	減る	.124	人	.110
制限	.105	コロナ	.115	仕事	.109
子供	.101	多い	.107	休園	.107
多い	.098	人	.103	子ども	.105
コロナ	.094	子供	.103	子供	.101
イベント	.091	休む	.099	保育園	.091
仕事	.090	行く	.097	休む	.085
外出	.089	行事	.089	コロナ	.083
子ども	.082	保育園	.088	保育	.079
減る	.075	外出	.087	外出	.074

次に AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>) を用いたワードクラウド (図 21)、および 2021 年度、2022 年度の 5 行要約 (表 5) を行った。5 行要約は自由記述の中から重要な分のみ抜粋されたものである。子どもの経験や外出に関する記述に加え、2022 年度は休園による仕事の影響が抜粋されていることがわかる。

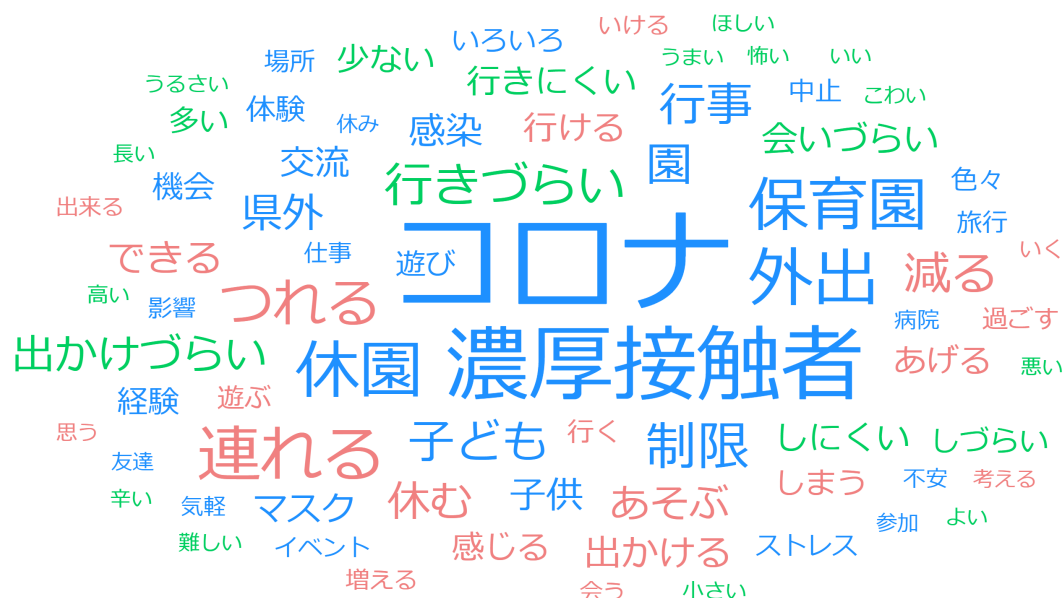


図21 コロナによる子育てへの影響に関するワードクラウド

表5 コロナによる子育てへの影響に関する5行要約

2021 年度	2022 年度
遊びに連れて行ってあげられない（遠方に）	あまりいろいろな経験をさせてあげられていない。
遠くへ出かけられないのでいろんな体験ができない。	どこにも連れて行けないから思い出ができない。
自由に出かけられない、楽しいイベントに参加できない	外出できず、いろいろな場所へ連れていけないこと
連れていきたいところに思うようにつれていけない	子供にいろいろな体験をさせてあげられない
いろんな体験・経験をもっとさせてあげたい。	保育園がお休みになると仕事ができない。

そのほか、回答の一部を表6に示す。なお、個人情報や居住地情報が限定されないものを抜粋し、一部のみ示している。

表6 コロナによる子育てへの影響に関する自由記述（抜粋）

保護者同士の交流。子供達同士での遊びが制限されてしまい、遊びから得られる学びが不足しているのではと感じている（自己中心的な性格になっていないか心配）
子育て支援センターへ気軽に行けない。予約制や人数制限があり、面倒で引き込もる事がある。
旅行や買い物などの外出、外食がはばかれストレスが溜まったり、体験、経験不足で貴重な時期を無駄に過ごさせてしまっている。人と疎遠になり情報不足。孤独を感じる。モチベーションが持ちにくくストレスばかり。
イベントなど経験や体験をさせる機会があまりない事や公園や支援センターなども密にならないように気をつけたりなどがあり、なかなかのびのび遊ばせてあげられなかったりする。
保育園でコロナの陽性者が出るたび、濃厚接触者として登園ができず、仕事を長く休むことに。熱はなくても風邪などの症状があると登園を控えてほしいといわれて休むことに。仕事を休むことが増えると、少し鼻水が出て病院に連れていきたいと思って、休みがとりづらい状況になっている。
閉園等で自宅待機になると、私自身は在宅勤務になるので仕事と育児の両立が非常に厳しい。テレビをつけばなしにしたり、子供が寝てから仕事をしたりと、子も親もあまりよくない影響が生じます。
体調管理をしっかりしなくては…と思ひすぎる。強く言いすぎているような気がする。出かける範囲の狭さ。もっと色々のびのび経験させてあげたい。
保育園や学校がコロナで休みになると母も休まなくてはいけない。パートのため、給料が減る。
妊娠中から楽しみにしていたババママ教室が中止になったり、立ち合い出産もできなかった。産後、入院中の面会も短時間で、子育て中の今もコロナにならないよう外出の際気を張っている。
保育園の閉園による仕事を休み、給料減。よって食生活と衣類等、買え控えが今年が多い。
休園、登園退園時の対応がコロコロ変わる 会社を休まないといけない（給料が減る）
保育参観等が中止になり、園での生活が全く分からない。
保育園の休園等多く、仕事と育児の両立がむずかしい。
コロナ前はよく公園を利用していたが、流行しあまり行かなくなった。遊ぶ場所がなくて困っています。
自由に出かけることができない。体験させてやりたいことができず、もどかしく感じる。子どもの成長（運動会や発表会等）を見せたい人に見せられない。
園で感染者や濃厚接触者が出たときに、登園させるかどうか悩む。実際、長期で休ませてしまうとサイクルが乱れ、子供を登園させるときに登園を嫌がり一苦労である。
家の中で過ごす時間が増え、子ども同士のかかわりや親同士の関りが減った。
母子で参加できるイベントが減ったり中止になってること。電話で確認や予約しなくてはならない手間がある。
・旅行やお祭り、行事など子どもと一緒に楽しめるイベントが制限されている。 ・マスクの着用が当たり前になり表情が見えない
保育園でコロナの陽性者が出た場合、親が仕事を休まざる得ない。子供も家で過ごすのにあきてしまい、子供も親もイライラしてしまう。
友達との交流が減った。いろいろな経験をさせたいが、出かけづらかった。遊び場が混雑している場合は利用しなかった 発熱がよくあったが、病院にかかるのに苦労した。
色々な人に抱っこしてもらえない 外出できないストレス 母親同士のふれあいの場が少ない
・クラスの子がコロナになり学級閉鎖になると仕事にも影響がでくるのでピリピリしてしまう。
子ども向けのイベントが少ない、あっても人数制限等あってなかなか参加できない。家での保育時間が多いと思う。外出先の大人がみんなマスクなので表情が見えず、その保育への影響が心配です。
外遊びや外出をひかえるようになった。子供の外遊びが減り、テレビ、ゲームなどが増えている。
休園・休校・外出機会の減少により、家で過ごす時間が多くなり、兄弟げんかは増えました。はじめは落ちついて対応できるのですが、だんだんイライラしてきて感情的に叱ってしまい、その結果子ども達も感情的になり、ヒートアップしてしまいます。私自身が無職で家にいる時間が長いこともあり、気持ちのきりかえが上手くできず、上記のようなことが続くとうまくいっていないと感じます。
外であそぶ（お友達）ことが少ないため、ストレスがあるのではないかと不安。家の中でユーチューブやゲームで、コミュニケーション能力に不安。
同世代の子を持つ友達同士の交流ができず、子育ての情報交換をする場がない。連れて行きたい場所があってもあきらめてしまう。

出産後、友達に会えずLINEで相談するも会って相談したい。ネットばかりで不安になる。
保育園の閉鎖などがあり、仕事や通常保育に影響があった。季節や集団の行事などが制限された。
子育てについて学んだり相談する場の減少、子どもの遊び場に制限があること（県外往来した場合はしばらく使用を控える、定員制等のイベントが増えた）外食が気軽にできないため、家事負担が増えた、外出先ではマスクで子どもに表情を見せることができない
外出を控えるようになり、子供が経験不足で、社会のマナーなどをおしえてあげられていない気がする
発熱した時など子供全員を休ませなくてはならないので病院につれていくことも大変で出来ない。
毎週のように学級閉鎖になり、仕事に行けず給料が減った。自宅待機は子供にとってとても辛いと思いました（我慢ばかりさせる）
・子どもの遊びに行きたい場所も感染のリスクから我慢させてしまっていること。・子ども達が楽しみにしている保育園行事が中止・形が変わってしまっていること。・園内に入れない事で普段の保育園での過ごし方を把握できていないこと。
急に保育園がお休みになったり、（園内でコロナ感染者がでたり）少しの咳や鼻水で保育園へ連れて行けず、仕事を休むことも多くなり、給料の減少で、好きな物を沢山買ってあげたりできない。感染が怖くて遊びに連れて行くのもためらう。
リハビリ等利用するのに規制が厳しかった為キャンセル等（療育センターなど）しなければならなかった。
他のお母さんとほとんど話が来ていないので、みんながどのように過ごしているのか等知れず、自分とのひかくができない。
生活面、金銭面にとくに影響を感じる。コロナによって、保育園の感染拡大で仕事を休まなければいけなくなり、収入が減ってしまいきつくなったり。家族が多いので次から次と感染が広がってしまった。
通常のカゼ、カゼ症状の場合、兄弟どちらかだけであれば今までは元気な方は保育園に預けられたが、コロナ禍により、症状がない方の兄弟も登園を控えなければならないこと（コロナの検査が陰性でも）。感染拡大で神経質になり、外出の機会が減って親も子もストレスが増えたこと。
コロナの影響で外遊びが減り、家での遊びやゲームが多くなっている。体を動かしていないので体力がなくなると心配である。ゲームでの目への影響もある。
運動会やクリスマス会のイベントで、保護者1名までと制限があり、イベントに参加できない。下の子の兄弟を誰が見るか、など悩みが多い！また、カメラ撮影で見てる側も、精一杯になったりしてイベントに参加するのも大変さを感じる。応援などで子供に声をかけたいが、かけてあげられないのも、見てて悲しい。
希望する療育が十分に受けられない。保育所等訪問支援は園側のコロナ対策として園外の方の立入りを制限されている（入れない）ため受けられない。マスク着用のため言語療法等口や表情が見えず非常にもったいない。
外出控えているため、活動が制限されているため、いろいろな体験ができていない。（プール、集団活動など）マスクが普通になっているため、表情をよめているか分からない。（似顔絵にマスクを書いていた時もあった）
コロナがなければ、家族や友人などと距離をとらず、何も気にせずたくさん会って遊んだりできる。人によってコロナに対する価値観が違う為、メンタル面に少し影さようがある。もっと実母も頼りたいと思うことがたくさんある。
休園になった時、濃厚接触者等で仕事を休まなければならない。有休もないので苦しい。
・外出が思うようにできていない　・病院の受診に時間を要す（非対面での受診）
・運動会や入園式などで、参加者1人と言われてしまうと参加する方も家庭保育する方も大変。せめてパパとママは可にしてほしい。自分の子供の成長をみれないのは辛い。
・外出をためらってしまうため、夫以外の人との会話や交流を得にくく、ストレスをためてしまう。
保育園の休園や少しの体調不良でも子どもを預けづらく、収入が減った分子どもに使える金額が減って、肌着などの購入が出来なくなった。子どもの外遊びの回数がすごく少なくなって、体力面が落ちてしまった。マスクの着用で人の表情が分かりづらそうにしている事が多く発達面もすごく心配です。
人と会えない、色々な場所に行けない、金銭的負担、仕事と保育園を休まなければならない期間が増えた。親のストレス増加しているのに解消もできなくなった。
出産前は周りを頼って育児をしていこうと考えていたが、出産と同時くらいにコロナ禍となり、人との接触が怖くなり誰にも頼れなくなった。産後、実母に来てもらう予定だったがそれもキャンセルして、一時保育なども使わず、ずっと子どもと2人きりの毎日を過ごしていた。子どもを支援センターなどの遊び場へ連れて行ってたくさんいろいろな経験をさせたい思いと、コロナ感染の不安で毎日葛藤していた。自分が友人と会うのもコロナが心配で、息抜きの方法を見つけられなかった。子育てで心配なことがあるとインターネットやSNSで調べて、他の子と比べて心配になることもあった。誰にも会えない、子どもが感染したら自分のせいという責任感、孤独な毎日でうつ状態になっていた。

#### 4. 子育ての悩みの多さと深刻度

##### 4-1. 子育ての悩みの多さ

子育ての悩みの多さに関する 5 項目について、「1（全くない）から 4（よくあった）」で回答を求めた。居住地域別、および全体の平均値と標準偏差を表 7 に示す。なお、回答漏れがある者を除いた対象者による算出を行っているため、回答総数および表 1 の地域別回答者数とは相違がある。

表 7 子育ての悩みの多さ

	盛岡 (n=363)		八幡平 (n=42)		滝沢 (n=57)		雫石 (n=1)		紫波 (n=53)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	2.19	0.98	2.05	0.87	2.30	0.88	3	-	2.15	0.96
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	2.11	1.02	2.14	0.99	2.11	0.85	2	-	1.98	0.98
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	2.43	0.96	2.50	1.05	2.54	0.92	3	-	2.36	0.89
子どもの学習や就学についての悩み	2.06	0.92	2.00	0.93	1.96	0.77	2	-	1.79	0.76
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	2.18	1.01	2.14	0.97	2.25	0.88	2	-	1.96	0.87

	矢巾 (n=40)		花巻 (n=51)		北上 (n=28)		遠野 (n=54)		一関 (n=18)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	2.25	0.89	2.29	0.91	2.14	0.95	2.15	0.91	2.17	0.83
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	2.00	0.89	2.22	0.91	2.00	1.00	2.04	0.92	2.28	0.87
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	2.2	0.87	2.43	0.93	2.39	0.90	2.50	0.88	2.72	0.87
子どもの学習や就学についての悩み	1.95	0.89	2.08	0.88	1.93	0.92	2.22	0.81	1.89	0.74
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	1.85	0.79	2.12	0.83	1.89	0.86	1.87	0.94	2.33	1.15

	奥州 (n=52)		金ヶ崎 (n=13)		宮古 (n=26)		大船渡 (n=46)		陸前高田 (n=5)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	2.00	0.88	1.92	0.73	2.04	0.94	2.26	0.94	2.20	0.75
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	1.96	0.98	1.77	0.80	1.96	1.02	2.35	1.15	1.60	0.80
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	2.37	0.81	2.38	1.08	2.65	0.96	2.37	0.99	2.40	0.49
子どもの学習や就学についての悩み	2.02	0.80	1.92	0.92	1.85	0.86	1.91	0.88	3.40	0.49
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	2.10	0.93	2.31	0.99	1.85	0.91	1.93	0.96	2.20	0.75

	洋野 (n=48)		その他 (n=2)		全体 (n=899)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	2.31	0.82	3.00	0.00	2.19	0.93
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	2.10	0.94	2.00	1.00	2.09	0.99
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	2.58	0.98	3.00	0.00	2.44	0.94
子どもの学習や就学についての悩み	2.17	0.85	2.50	0.50	2.03	0.88
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	2.25	0.95	2.00	0.00	2.11	0.96

さらに、2021 年度と 2022 年度のそれぞれの項目の回答割合を示す（図 22～図 26）。

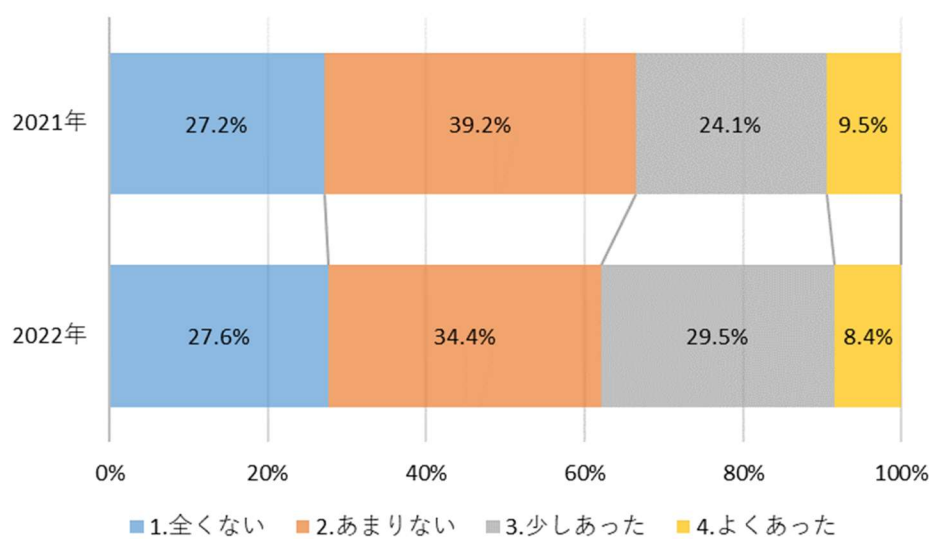


図 22 子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）  
についての悩みの回答割合の比較

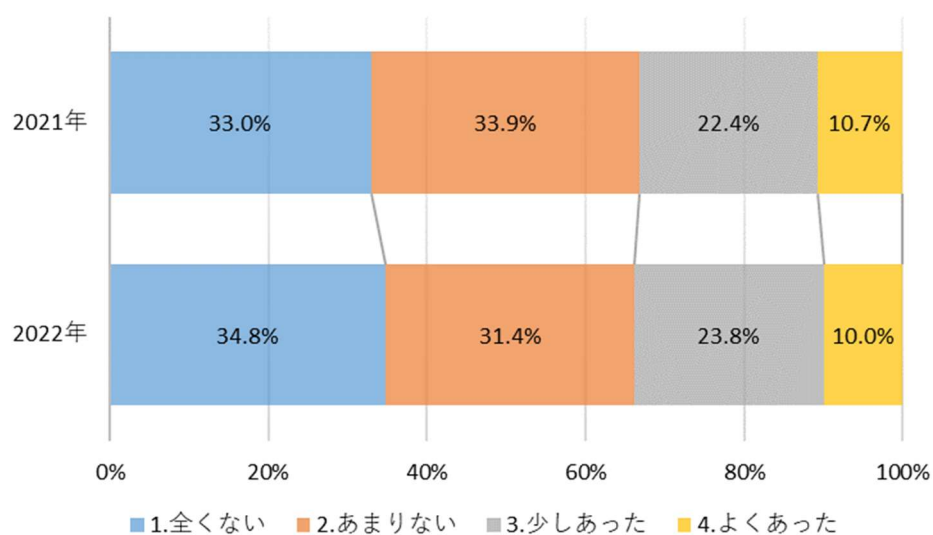


図 23 子どもの動作や言葉による表現力，動作や言葉の発達  
についての悩みの回答割合の比較



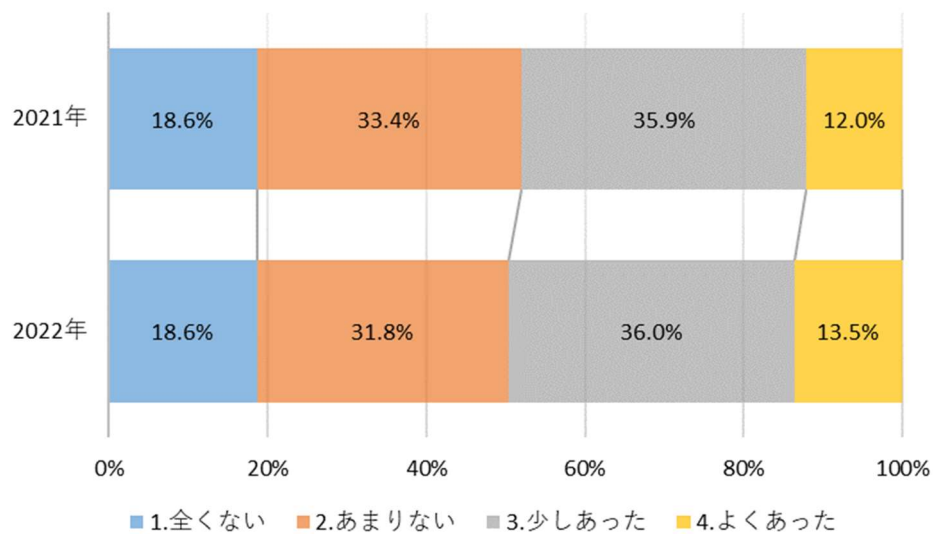


図 24 子どもの生活習慣や習癖についての悩みの回答割合の比較

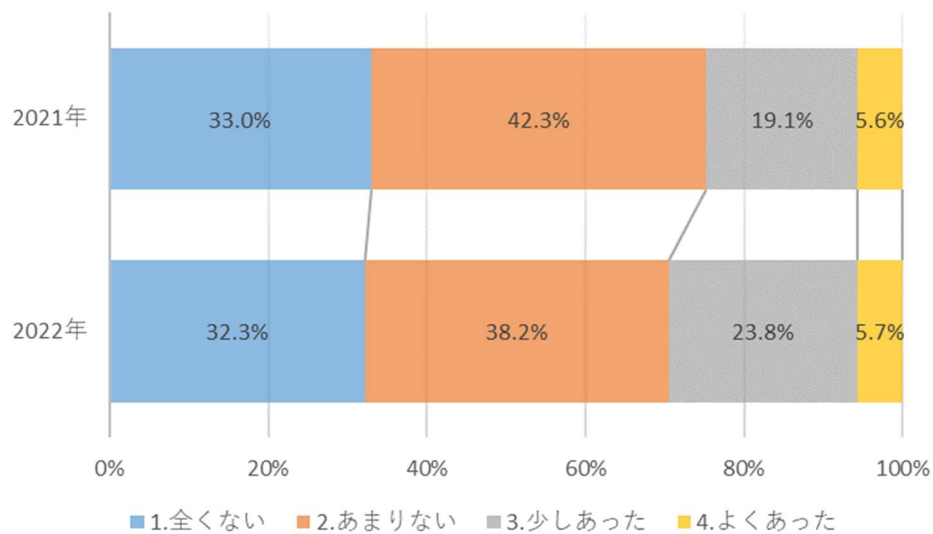


図 25 子どもの学習や就学についての悩みの回答割合の比較

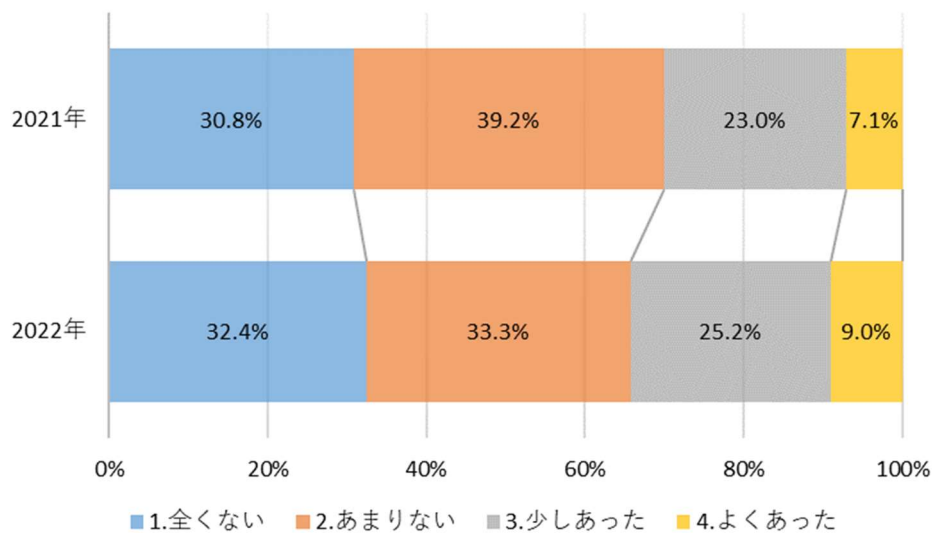


図 26 子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩みの回答割合の比較

全体の傾向では「子どもの生活習慣や習癖についての悩み」がもっとも高い数値であった。この項目については、夜泣きやしつけの方法なども含め、コロナ禍に関わらず悩みを抱えやすい項目であるため、全体的にある程度悩みを持っているのではないかと考えられる。

また 2021 年度と 2022 年度の平均値を算出すると差はみられないため割愛しているが、回答割合でみると、「3（少しあった）」「4（よくあった）」と回答している割合は増加の傾向がみられている。

特に回答割合が増加傾向である「子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み」については、発達的な課題によって個別性の高い悩みである可能性もあるが、居住地域別の結果を概観すると平均値と標準偏差ともに傾向の違いがみられる。このことから、地域によって他児や大人と関わることのできる環境の違い等が影響している可能性があると考えられる。

## 4-2. 子育ての悩みの深刻さ

子育ての悩みの深刻さに関する5項目について、「1（全く苦しくなかった）から4（非常に苦しかった）」で回答を求めた。なお、回答漏れがある者を除いた対象者による居住地域別、および全体の平均値と標準偏差を表8に示す。

表8 子育ての悩みの深刻さ

	盛岡 (n=361)		八幡平 (n=42)		滝沢 (n=58)		雫石 (n=1)		紫波 (n=53)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	1.81	0.85	1.79	0.80	2.00	0.81	3	-	1.72	0.76
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	1.81	0.82	1.67	0.78	2.05	0.86	3	-	1.75	0.80
子どもの学習や就学についての悩み	1.65	0.74	1.76	0.72	1.69	0.72	2	-	1.47	0.63
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	1.95	0.88	2.05	0.90	2.17	0.83	2	-	1.96	0.78
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	1.92	0.94	1.93	0.86	2.07	0.87	2	-	1.72	0.81

	矢巾 (n=39)		花巻 (n=52)		北上 (n=28)		遠野 (n=54)		一関 (n=18)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	1.67	0.76	1.92	0.78	1.75	0.83	1.70	0.87	1.83	0.76
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	1.95	0.90	1.90	0.90	1.68	0.71	1.72	0.76	1.89	0.74
子どもの学習や就学についての悩み	1.69	0.91	1.73	0.74	1.75	0.83	1.81	0.72	1.72	0.65
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	1.82	0.90	2.10	0.88	1.75	0.83	1.96	0.77	2.22	0.92
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	1.67	0.89	1.88	0.80	1.68	0.76	1.63	0.75	2.06	1.08

	奥州 (n=51)		金ヶ崎 (n=13)		宮古 (n=26)		大船渡 (n=46)		陸前高田 (n=5)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	1.75	0.79	1.38	0.49	1.88	0.89	1.80	0.80	1.60	0.80
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	1.86	0.79	1.38	0.62	1.73	0.76	1.72	0.74	1.80	0.98
子どもの学習や就学についての悩み	1.67	0.68	1.46	0.63	1.58	0.79	1.59	0.80	2.20	0.75
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	1.98	0.78	1.77	0.89	1.92	0.87	1.93	0.94	2.40	0.49
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	1.92	0.84	1.85	0.95	1.62	0.74	1.70	0.91	1.80	0.75

	洋野 (n=48)		その他 (n=2)		全体 (n=897)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	1.63	0.67	2.00	0.00	1.79	0.82
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	1.83	0.77	2.50	0.50	1.81	0.82
子どもの学習や就学についての悩み	1.67	0.66	2.50	0.50	1.67	0.74
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	2.02	0.75	2.50	0.50	1.98	0.86
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	1.85	0.79	2.00	0.00	1.86	0.89

さらに、2021年度と2022年度のそれぞれの項目の回答割合を示す（図27～図31）。

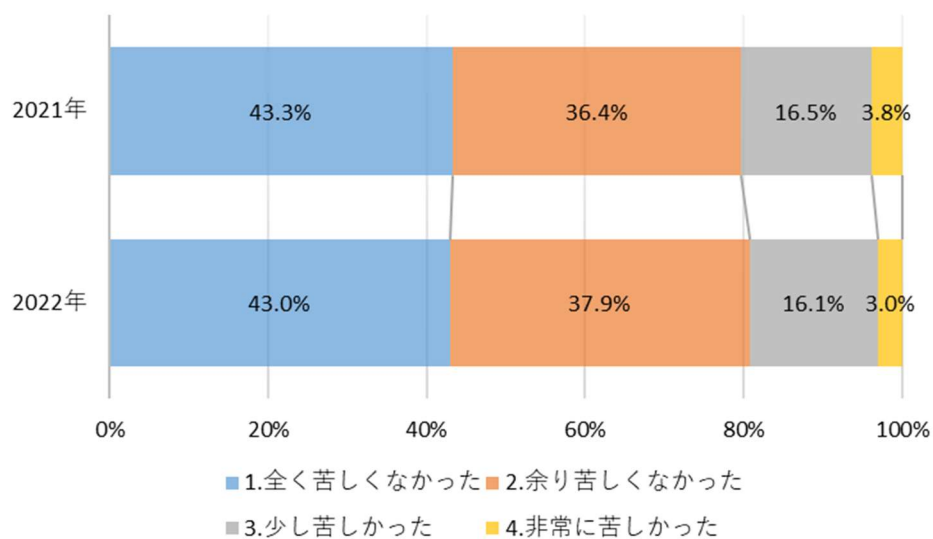


図27 子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩みの深刻さの回答割合の比較

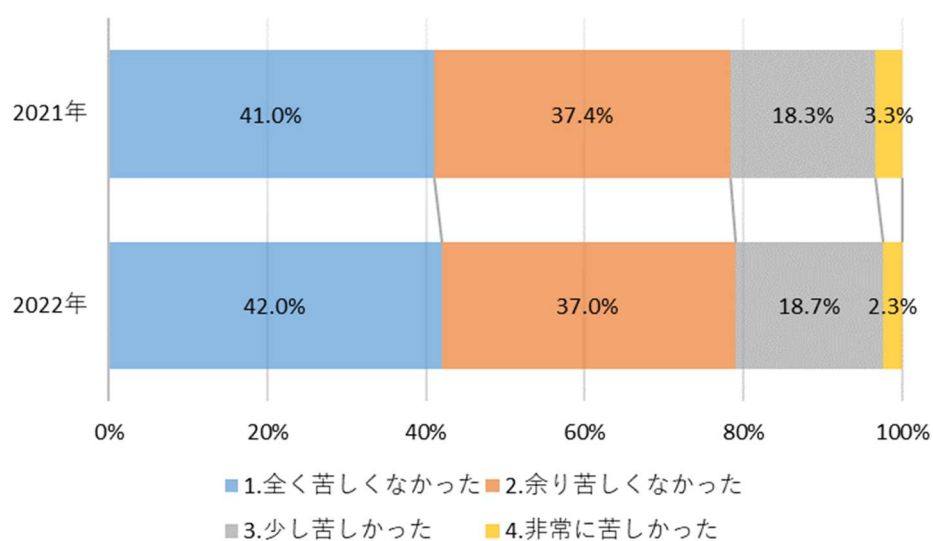


図28 子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩みの深刻さの回答割合の比較

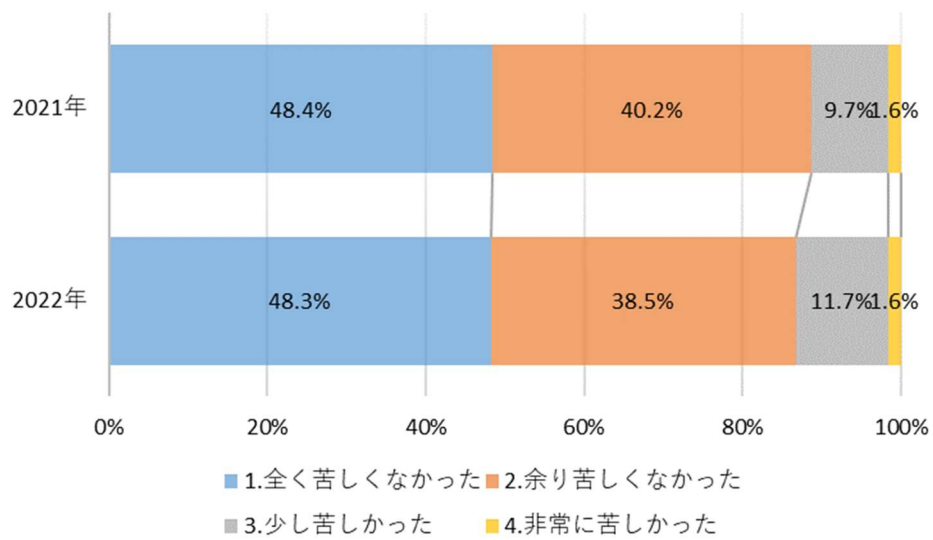


図 29 子どもの学習や就学についての悩みの深刻さの回答割合の比較

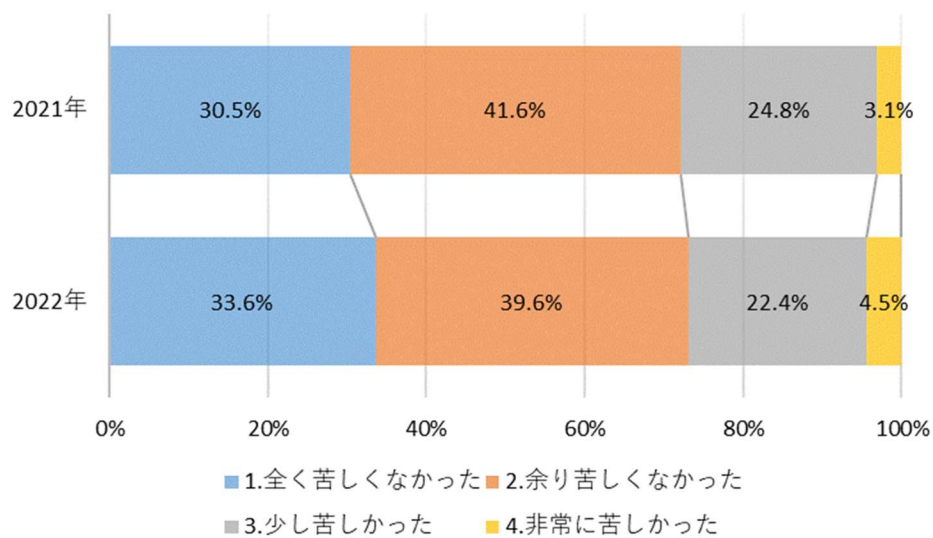


図 30 子どもの生活習慣や習癖についての悩みの深刻さの回答割合の比較

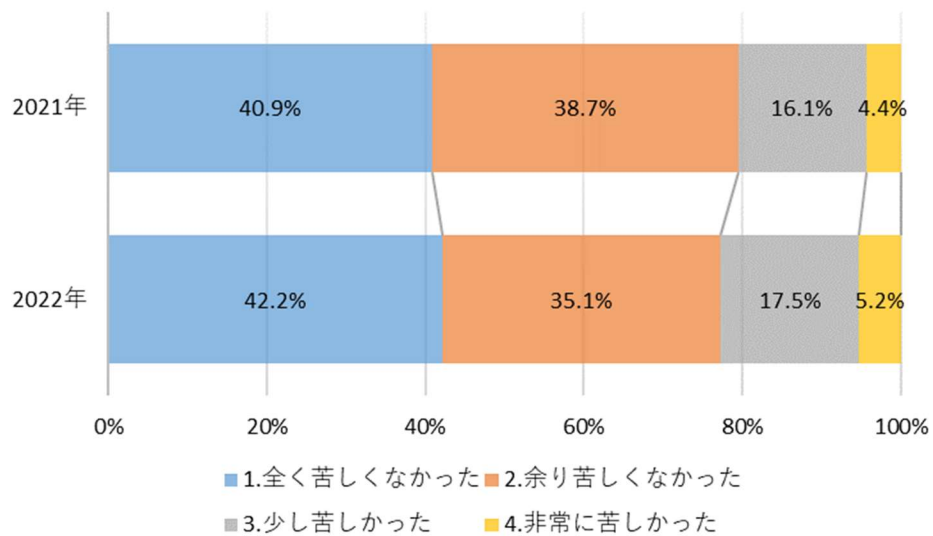


図 31 子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩みの深刻さの回答割合の比較

全体の傾向では子育ての悩みの多さと同様に「子どもの生活習慣や習癖についての悩み」の深刻さがもっとも高い数値であった。しかし、2021 年度と比較すると「3（少し苦しかった）」、「4（非常に苦しかった）」と回答している割合は減少していると概観される。

一方で「子どもの生活習慣や習癖についての悩み」と「子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み」の深刻さについては、2021 年度と比較し「4（非常に苦しかった）」と回答している割合が増加している。個別性の高い悩みである可能性はあるが、見過ごすことはできない点であろう。

#### 4-3. 子育ての悩みに関する自由記述

過去6か月間に感じた子育てに関する悩みについて、自由記述で回答を求めた。特にコロナ禍特有だと感じる子育ての悩みがあれば、それについても記述いただくようにした。

自由記述による質的データを、KHCoder3（樋口，2020）を用いてテキストマイニングを行った。形態素解析の結果、19,535語、942文を分析対象とし、頻出語150語を抽出した（表9）。もっとも出現頻度の多い語には「コロナ」が挙げられ、そのほか子どもの保育園生活に関することや外出などに関する悩みを抱えている記述が多いことが見受けられる。

表9 子育ての悩みに関する自由記述 上位150語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
コロナ	140	食事	24	お友達	13	難しい	10
子	96	受診	23	今	13	濃厚接触者	10
子供	79	家族	22	困る	13	疲れる	10
保育園	79	機会	22	周り	13	本人	10
子ども	69	遊び	22	上	13	話す	10
思う	62	行ける	21	保育	13	会う	9
行く	61	行事	20	母	13	会える	9
感じる	59	休み	19	良い	13	関わり方	9
時間	58	生活	19	イヤイヤ	12	関係	9
マスク	57	影響	18	ゲーム	12	期間	9
仕事	52	園	18	関わり	12	公園	9
出る	52	泣く	18	検査	12	施設	9
多い	51	子育て	18	自宅待機	12	習慣	9
悩む	48	先生	18	就学	12	診る	9
人	46	悩み	18	症状	12	対応	9
家	44	出来る	17	辛い	12	大きい	9
感染	44	登園	17	成長	12	長い	9
自分	43	熱	17	祖父母	12	入園	9
心配	43	発熱	17	大人	12	比べる	9
言う	40	悪い	16	イベント	11	病気	9
他	38	減る	16	テレビ	11	崩す	9
不安	38	考える	16	咳	11	毎日	9
遊ぶ	34	場所	16	気持ち	11	利用	9
病院	33	制限	16	休園	11	クラス	8
外出	32	遅い	16	経験	11	下	8
休む	32	風邪	16	行動	11	学校	8
少し	32	過ごす	15	体重	11	兄弟	8
コロナ禍	31	相談	15	体調不良	11	元気	8
ストレス	31	続く	15	注意	11	口	8
見る	30	必要	15	幼稚園	11	支援センター	8
少ない	30	友達	15	連れる	11	手	8
食べる	30	育児	14	かわいそう	10	小学校	8
大変	30	受ける	14	何度	10	小児科	8
発達	30	前	14	苦しい	10		
気	29	体調	14	交流	10		
外	27	怒る	14	仕方	10		
言葉	26	表情	14	時期	10		
親	25	分かる	14	自宅	10		
増える	25	目	14	声	10		

また、上位 60 語を使用し、共起ネットワーク分析を行った結果を図 32 に示す。

図 32 の結果、および自由記述の内容から、コロナによる子育ての影響を感じた内容と類似しており、「コロナに関連する保育園の欠席に伴って仕事を休むこと」や「家で過ごす時間が多いこと」、「行事の制限」、「発達や言葉が遅いことへの不安」などが挙げられている。

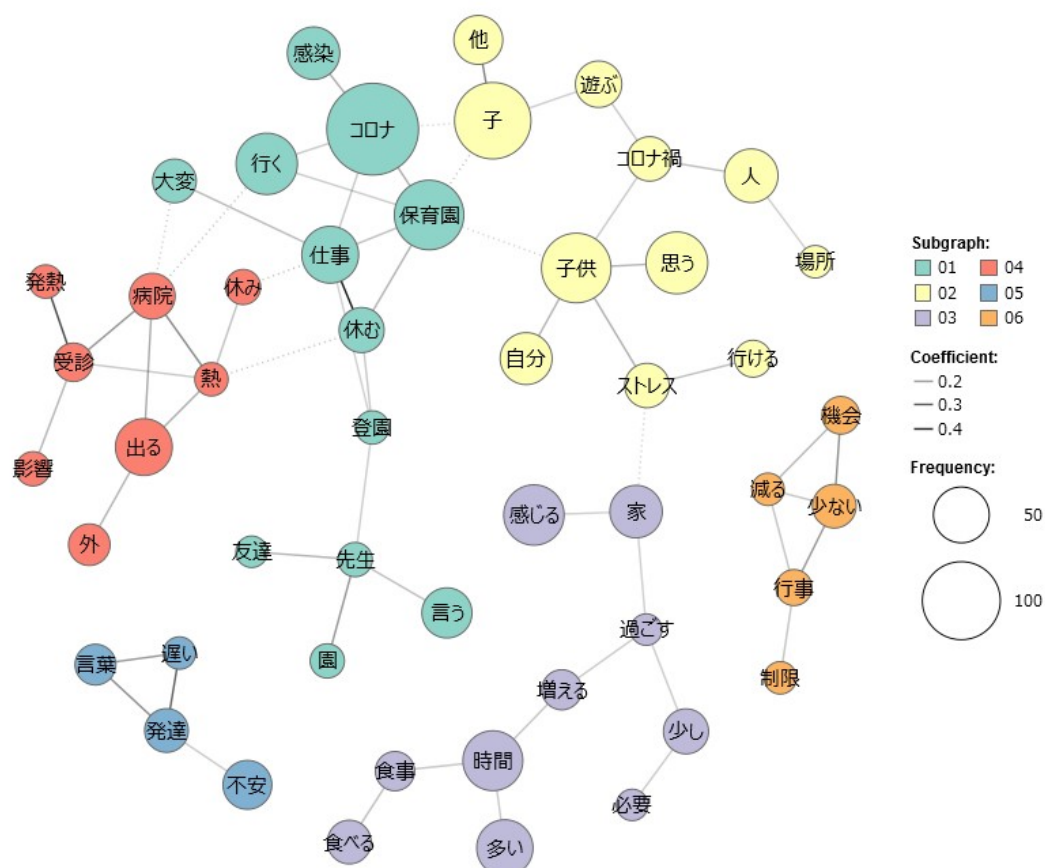


図 32 子育ての悩みに関する共起ネットワーク



次に AI テキストマイニングを用いたワードクラウド（図 33）、および 5 行要約（表 10）を行った。5 行要約は自由記述の中から重要な分のみ抜粋されたものである。前述のテキストマイニングとあわせてコロナ禍における子育てや子育て環境に特化した記述が目立つ。また、さまざまな機会の減少やマスクによって表情が見えないことなどによる発達への影響を不安に思っている記述がみられる。特にコロナ禍によって生じているさまざまな問題が保育園生活と保護者自身の仕事との兼ね合いに大きく影響していることによって子育て上の悩みにつながっていると思われる。

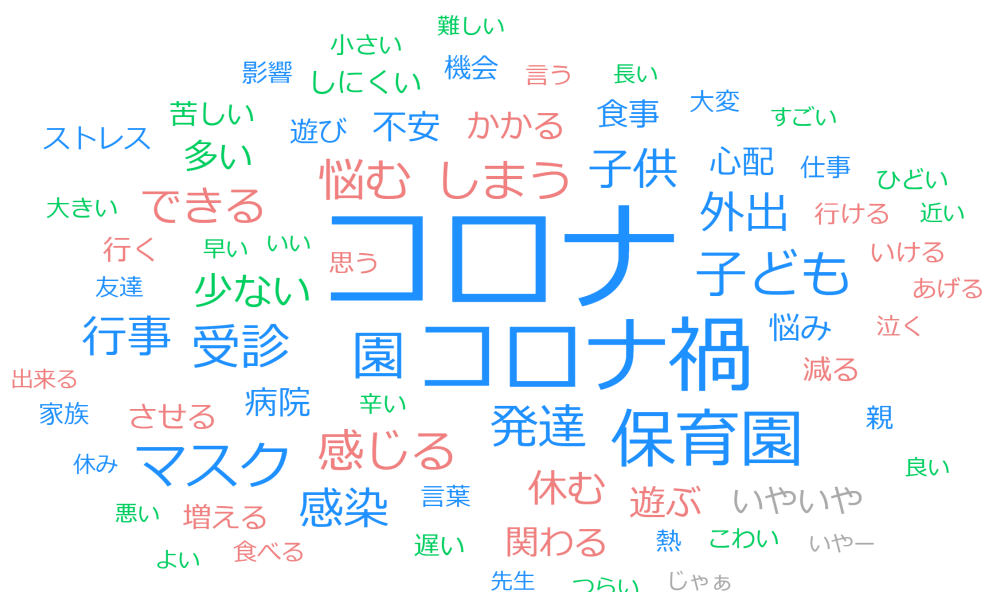


図 33 子育ての悩みに関するワードクラウド

表 10 子育ての悩みに関する 5 行要約

外に出るときにマスクをしなければならないとき。

コロナで仕事に行きたくても行けない、生活できない。

病院を受診したくても、すぐには受診できない。

多くの人とふれあって成長させたいが、できない。

話をしている内容が理解できていないと感じる。

そのほか、回答の一部を表 11 に示す。なお、個人情報や居住地情報が限定されないものを抜粋し、一部のみ示している。

表 11 子育ての悩みに関する自由記述（抜粋）

（少し）注意すると物を投げたり、「（口を）ぶー」するよと言い、つばを吐くという行動をします。どうすれば、その行動をやめてくれるのか分からない。（注意しないようにしたいのですが、自分の性格上出てしまう為、言葉が出てきてしまいます。）
1.7yになる息子が有意語が少なく、指さしが出ず気になる子だと思ったので。既に集団保育に入っているのに、こども園⇔行政と連携していけるよう自分がどう動くのが適切か慎重に行動したいと思った。
イヤイヤ期で抱っこや手をつなぐのを全力で嫌がるため、道路で走って行ってしまったり、そのまま行方が分からなくなってしまった事もありました。5～10分で見つかり無事でしたが、何度伝えても走って行こうとするので悩みが付きません。
園での様子を知らない分送迎時に話してほしいし、我が子の成長と共に友だちとのかわり、トラブルはつきものだが、先生の対応やクラスの環境に不安をかんじる。子どもの口からきくしかなく、園では解決したから大丈夫と促えられてる気がするが、我が子にはひびいてなかったり、毎日の送迎が悲しく嫌になる。
子育ての悩みを共有できる親同士の関わりが減ったので、不安を感じる事があった。また家で過ごすことが多かったため、子どもの体力やコミュニケーション能力の発達が心配になった。
子どもが就学後の生活を直接見る経験がほぼないため、就学後のイメージを伝えられないこと。体調不良でも、発熱等のため、すぐ受診できないこと。
コロナで保育園での行事も減り、他の子の親とのかわりがなく、互いの子育てについて共有する事が出来ていない。
コロナ禍で出産したため、入院中に周りのサポートを受けられなかったのは本当に辛くて大変だった（家族が面会禁止のため）そのサポートを受けられないまま退院し、子育てが始まったので、すごく不安に感じた。心身共にきつかった。どこへ行くのもマスクで人との距離に気を遣うなど気が付けば、無口のまま、表情も乏しくなっていることに気付いた。子供に対しては、もっと笑顔でたくさん話し掛けてあげなければいけないと感じた。自分の体調が悪い中での育児。気軽に預けられるところがあれば…。夜泣き。母乳育児のやめどき。自分の時間が全くない。仕事・育児・家事と考えることがたくさん。いつも行く大型ショッピング施設の子供を遊ばせるフリースペースがコロナ以降感染を配慮してか、なくなった。ぐずった時とかすごく大変！買い物行くのもひと苦労する。
コロナ禍ということで、外での遊び方、動き方に大きな制限を経験する中で、家の中での過ごし方、遊び方について今まで以上に模索がありました。特にSNSやスマホ、ゲーム等との関わり方については、子供が今後、付き合い方を冷静に見極めていく必要があると感じています。（現時点ではどれもさせていませんが、今後避けては通れないと思うので）
自宅内で過ごす時に、テレビやゲームなど画面に向かう時間が多く、言葉の発達や想像力の発達のさまたげになりそうで日々悩む。つれて行きたい場所も、コロナの感染をおそれて外出を控える事も多くなり、自宅育児する時間は増えていると思う。
集団検診や病院などで他のママさんに話しかけにくく、情報共有などができず、一人で悩むことが多く感じる。
収入の低下、お祭りなどの行事がなくなっていること
体重の増えがあまりよくなく、先生（小児科）から言われることがあった。でも、本人があまりたべることに興味がなかったりしたので、どうしたらいいかわからなかった。
初めての育児で誰にも聞いたり、相談したりできなかった。離乳食の食べが悪い、日中の遊び方、体調不良時の育児
人見知りが強く、他児や大人となかなか話せないこと。保育園でも1人であそんでいること

保育園では黙食のため、家でのご飯の時に話してはいけなかったと思っていました。子供のコロナウイルスの概念もあやふやなため、説明がむずかしく感じました。保育園ではダメなのにお家は良いの基準がむずかしいようでした。
保育園や地域行事が少なく、子供の発達の具合を他児と比較する機会がない。また、他児とどのように接しているかもわからない
マスク着用なので表情が見えなかったり、黙食であったり、友達関係への影響も多少あった。"母との遊び"ばかりで他人との交流が減ったので幼稚園で母と離れるのが嫌でなく日々が続いています。
ママ友ができなかったのも、相談、悩みを共有できなかった。病院に行きづらい、行ってもすぐ混んでいる。支援センターや保育園の無料開放であり他の子と遊ばせることができなかった。
もうすぐ2才だが、言葉が遅く、人見知りもあり、近所の人や知人に声をかけられても固まっていて反応しないので、申し訳ない気持ちになった。
言葉の発達が少し遅く、悩んでいる。コロナ禍とは無関係かもしれないが、もっと、父、母以外、特に同年代の子供と接する機会が多ければ、違っていたのかも考える。現在は保育園のお友達がいるが、入園前はゼロだった。
子の年齢相応の発達について不安があった。
子供が入院した時、面会が一切できなかったり、一緒に売店に行ったりできなかった。
自分の子どもの発達が正常なのかどうか、同じ月齢の子がどのようなことに興味を持ったり、どのような遊びをしているのか、親はどのような関りや遊びをしているのかコロナ禍でなかなか外に出られず、家で遊ぶのにも限界があり、ますます孤独を感じて辛かった。
町で出会う人々が話しかけてくれるが、マスクをしているのできょとんとしている。いつもはだれでもすぐ笑う。表情を読み取りにくいのでは。赤ちゃんはマスクができないため病院受診で感染しないか心配。
同じ月齢の子と会う機会がなかったのも、自分の子の成長がどの段階にあるのかという客観的な視点を養えなかった。
年長や小学校へ上がる際にどんな事を家庭で教えていけば良いのか、保護者会などで相談しにくい。時間が限られているので。
病気をする度に心配になり、病気を発症する前の行動について必要以上に自分を責めてしまい苦しかった。（遊ばせ過ぎて疲れさせてしまった。服装が寒（暑）すぎたせいか）など。また発熱時はコロナではないか、とハラハラした。
保育園内でも感染予防のため、先生方はマスクをしており、口元が見えていない。それによって発語が遅くなったり、本来吸収される語彙力が低下していると感じた。
毎日、YouTubeを数時間見ていて、脳や目への影響が気になっています。習慣になってしまっていますが、見ないとなると大人があそんであげなくてはならず、自分の時間や家事の時間がけずられてしまうのも正直ストレスに感じてしまい悩んでいます。
幼稚園に行きはじめたが、みんなマスクをしているので表情が分かりにくく子どもが困っていたが、どうしようもなかった。
落ち着きがなく、発達障害について心配になった。
離乳食で何を食べさせたらよいのかわからなくなった。どこかお店や飲食店に入った時にベビーカーやベビー用のイスだったり色んな物にさわっているのが不安だった。
両親、夫の両親にあまり頼れないので（コロナ禍により）負担が大きい。多くの人とふれあって成長させたいが、できない。
話をしている内容が理解できていないと感じる。他の子と比べ、いろんな事が遅れていると感じる。

## 5. 育児不安

### 5-1. 育児不安の傾向

育児不安に関する14項目について、「1(全くない)から4(よくある)」で回答を求めた。育児不安は養育者が育児に関して感じる疲労感、育児意欲の低下、育児困難感・不安と捉えることができる。

項目ごとの平均値および標準偏差を表12に示す。

なお、回答漏れがある者を除いた対象者による算出を行っているため、回答総数および表1の地域別回答者数とは相違がある。

表12 育児不安

質問項目	平均値	標準偏差
毎日くたくたに疲れる	3.07	0.77
朝、目覚めがさわやかである	2.22	0.76
考えごとがおっくうでいやになる	2.64	0.89
毎日はりつめた緊張感がある	2.25	0.87
生活の中にゆとりを感じる	2.28	0.82
子どもがわずらわしくて、イライラしてしまう	2.30	0.87
自分は子どもをうまく育てていると思う	2.34	0.73
子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある	2.49	0.87
子どもは結構一人で育っていくものだと思う	2.48	0.83
子どもをおいて外出するのは、心配で仕方がない	3.28	0.83
自分一人で子どもを育てているのだという圧迫感を感じてしまう	1.99	0.92
育児によって自分が成長していると感じられる	3.10	0.79
毎日毎日、同じことの繰り返ししかしていないと思う	2.68	0.91
子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	2.42	0.80

注)  $n=889$

対象が未就学児であるため、「子どもをおいて外出するのは、心配で仕方がない」については“そもそもおいていかない”という回答も多かったため評点が高くなっている。

保護者は「毎日くたくたに疲れる」、「考えごとがおっくうでいやになる」、「子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある」、「毎日毎日、同じことの繰り返ししかしていないと思う」、「子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う」などと感じている傾向あることが推察される。

次に居住地域別の育児不安に関する 14 項目の合計点に関する平均値および標準偏差を表 13 に示す。尺度は 14 項目 4 件法であるため、得点は 14 点から 56 点の範囲となる。

表 13 のとおり、全体の平均値 36.22 に対して、高い傾向がみられている市町村も存在している。

表 13 育児不安（居住地域別）

	平均値	標準偏差		平均値	標準偏差		平均値	標準偏差
盛岡 (n=359)	36.26	5.55	北上 (n=28)	36.21	5.05	陸前高田 (n=5)	38.2	3.82
八幡平 (n=42)	37.05	5.44	遠野 (n=54)	35.91	5.05	洋野 (n=48)	35.92	4.75
滝沢 (n=58)	36.39	4.63	一関 (n=18)	35.78	4.80	その他 (n=2)	40.00	5.00
雫石 (n=1)	40	-	奥州 (n=52)	36.80	5.02	全体 (n=889)	36.22	5.28
紫波 (n=53)	35.27	5.10	金ヶ崎 (n=13)	36.92	2.84			
矢巾 (n=40)	33.48	4.95	宮古 (n=26)	35.88	4.49			
花巻 (n=50)	37.36	5.21	大船渡 (n=46)	36.89	5.85			

さらに、2021 年度と 2022 年度の比較を図 34 に示す。比較の結果、ほとんど変化はないことがわかる。

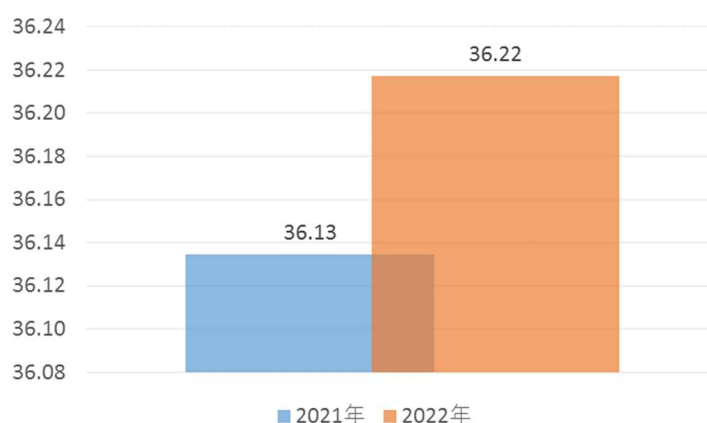


図 34 2021 年度、2022 年度における育児不安得点

## 5-2. 育児不安に影響を与える要因

調査対象者が20名以上の市町村（盛岡市，八幡平市，滝沢市，紫波町，矢巾町，花巻市，北上市，遠野市，奥州市，宮古市，大船渡市，洋野町）を対象に育児不安に影響を与える要因の検討を行った。統計解析ソフト R（4.1.2）を用いて要因ごとに Welch の検定を行った結果，有意，有意傾向の市町村について，要因を「」，市町村ごとの結果を【】で示す。

その結果，「祖父母と同居の有無」について【洋野町：同居している＜同居していない， $t(41.50)=-1.82, p=.076$ 】，であり，祖父母と同居していない対象者の方が育児不安が有意に高い傾向であることが明らかとなった。

「コロナの影響」について【盛岡市：影響なし＞影響あり， $t(65.14)=-4.17, p=.000$ 】，【紫波町：影響なし＞影響あり， $t(13.37)=-2.91, p=.012$ 】，【大船渡市：影響なし＞影響あり， $t(12.23)=-2.37, p=.035$ 】であった。盛岡市，紫波町，大船渡市では子育てについてコロナの影響がないと回答している対象者の方が育児不安が高い傾向であることが明らかとなった。

また，全体の傾向として，どのような要因が育児不安と関連しているかについて分析を行った。その結果，「子どもの年齢」について，0歳と6歳，0歳と4歳での比較において，0歳の子どもをもつ保護者の方が育児不安が高いことが明らかとなった（0歳－6歳： $t(866)=3.19, p=.003$ ，0歳－4歳： $t(866)=3.05, p=.004$ ）。また，「コロナの影響」について，影響があると回答している保護者の方が育児不安が高いことが明らかとなった（ $t(157.24)=2.31, p=.022$ ）。

## 6. 子育てに関する援助要請

### 6-1. 専門職等への相談のしやすさ

専門職等への相談しやすさを調査するため、「これまで子育てに関する悩みを相談する相手として、家族や友人以外でもっとも相談しやすい専門機関や行政機関等の職員はどのような立場の人であったか」について、「保健師・助産師・家庭児童相談員・児童館などの職員・児童相談所職員・医師・看護師・心理士・通っている園の保育士や先生・子育て支援センターなどの職員・その他」から、あてはまる人すべてを選択式で回答を求めた。さらに、「家族や友人以外でもっとも相談しやすい専門機関や行政機関等の職員はいない」という項目も設けた。

選択割合を図 35 に示す。その結果、「通っている園の保育士や先生」を選んでいる方がもっとも多く 67.2%であった。これは回答いただいた家庭の未就学児の年齢について 3 歳以上が多いことから、保育園や幼稚園、こども園に入園している可能性が高いためと考えられる。

しかし、次いで多かったのが「いない」であり、18.5%が家族や友人以外の専門職等へ相談してはいないということが明らかとなった。

その他、入園前ではあればかかわりが多いと考えられる「保健師」(17.8%)、「子育て支援センターなどの職員」(15.0%)であった。

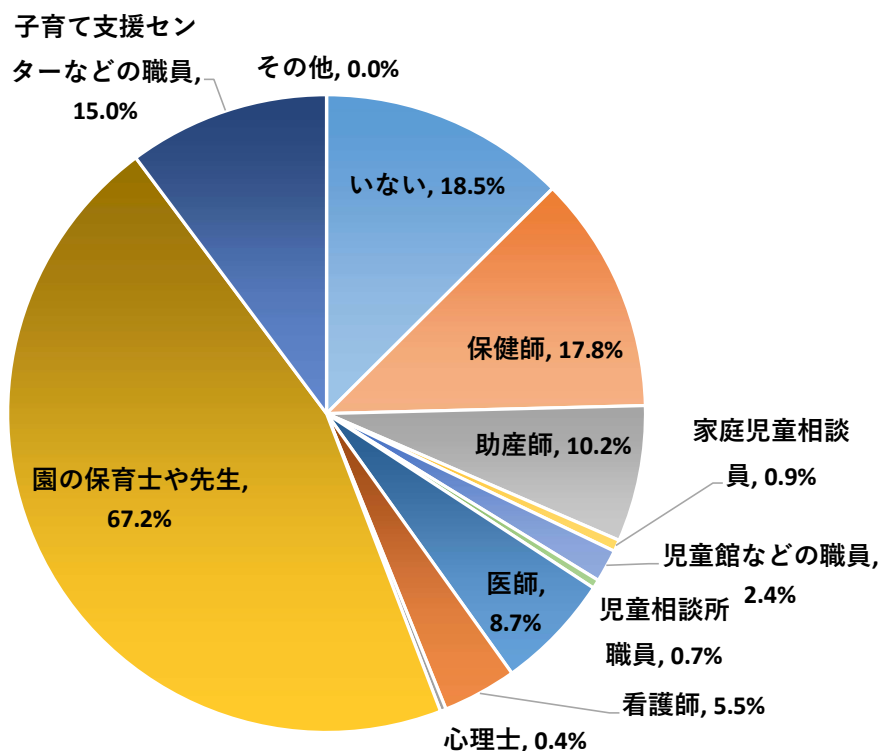


図 35 専門職等への相談しやすさの割合

次に、それぞれの専門職に対する選択率を図 36 に示す。

「チェックあり」がその専門職を相談しやすいと回答した方である。これを見ると前述のとおり、専門職への相談は園の保育士等以外には相談しやすいとはあまり感じていないことがわかる。

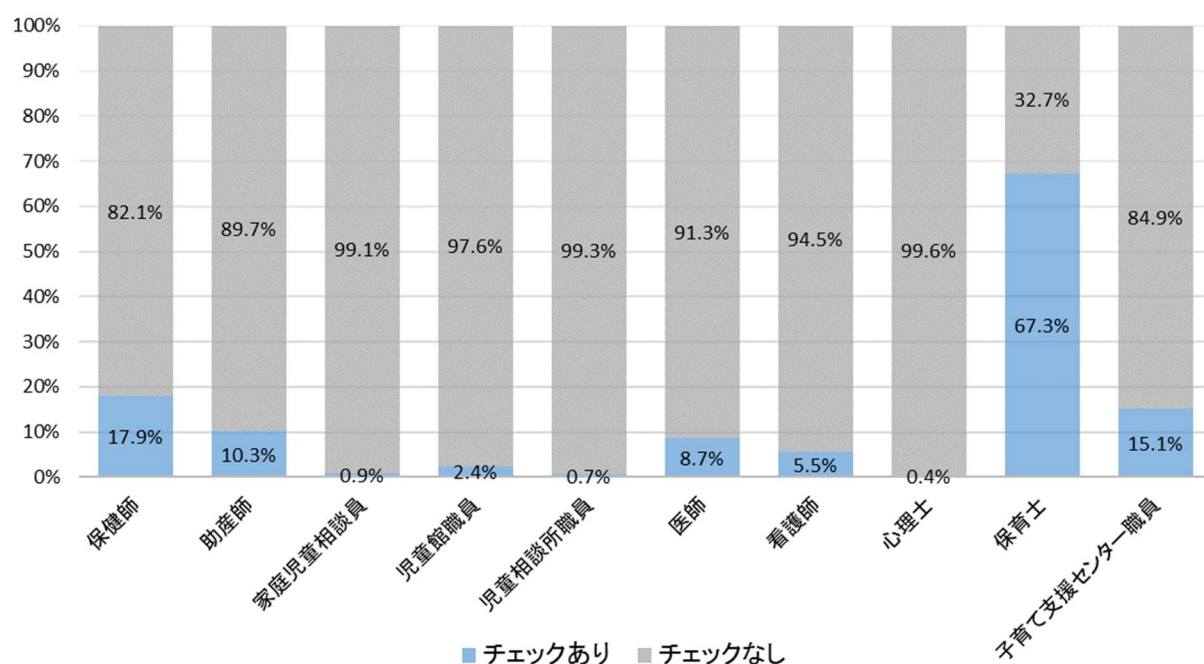


図 36 専門職ごとの相談のしやすさの割合



## 6-2. 子育ての悩みに対する援助要請行動

子育ての悩みについて周囲の人への程度相談できているかを調査するため、子育ての悩みに関する5項目について。過去6か月間で「夫（妻）・実父母・義父母・一番仲の良い友人・一番利用しやすい専門機関や行政機関」のそれぞれにどのくらい相談したか「1（全くない）から5（非常にたくさんある）」で回答を求めた。なお、該当する者がいない場合は0として処理を行った。

平均値と標準偏差を表14に示す。結果から、「夫（妻）」に対してはどの項目についても比較的相談していることがわかる。

また、6-1で「家族や友人以外でもっとも相談しやすい専門機関や行政機関」について「通っている園の保育士や先生」を選んでいる方がもっとも多いことについて前述したが、実際に援助要請行動をとっているかについて、表14の結果から、「一番利用しやすい専門機関や行政機関」の平均値は「1（全くない）」と「2（あまりない）」に推移していた。

このことから、“相談しやすいのはどこか”と問われた場合に答える相談相手と“実際に相談しているか（援助要請行動をとっているか）”という状況には大きく相違があることがわかる。

表 14 子育ての悩みに対する援助要請行動

	夫（妻）		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.37	1.46	2.58	1.40	1.65	1.09	2.24	1.30	2.05	1.27
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.30	1.51	2.53	1.40	1.62	1.08	2.10	1.26	2.05	1.30
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.46	1.47	2.61	1.43	1.65	1.12	2.17	1.28	2.03	1.26
子どもの学習や就学についての悩み	3.10	1.56	2.30	1.38	1.51	1.03	2.06	1.25	1.69	1.09
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	3.40	1.52	2.62	1.45	1.70	1.18	2.11	1.28	2.01	1.28

注)  $n=905$

次頁に居住地域別の平均値と標準偏差を表15に示す。

表 15 居住地域別の子育ての悩みに対する援助要請行動

盛岡 ( <i>n</i> =365)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.38	1.51	2.56	1.42	1.55	1.04	2.15	1.29	2.05	1.31
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.25	1.57	2.52	1.42	1.51	1.04	1.99	1.24	2.04	1.33
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.47	1.51	2.61	1.45	1.53	1.06	2.11	1.27	2.08	1.29
子どもの学習や就学についての悩み	3.07	1.60	2.29	1.41	1.37	0.94	1.95	1.21	1.67	1.11
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.41	1.56	2.63	1.45	1.57	1.11	2.04	1.26	2.09	1.34
八幡平 ( <i>n</i> =42)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.12	1.52	2.60	1.24	1.62	1.02	2.17	1.13	1.93	1.24
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.17	1.43	2.62	1.19	1.60	0.93	2.12	1.16	1.98	1.34
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.26	1.45	2.62	1.25	1.67	1.06	2.05	1.23	1.71	1.10
子どもの学習や就学についての悩み	2.83	1.56	2.33	1.23	1.57	1.03	1.81	1.14	1.50	0.98
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.33	1.47	2.69	1.24	1.88	1.20	1.95	1.07	1.79	1.08
滝沢 ( <i>n</i> =58)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.29	1.44	2.40	1.33	1.67	1.09	2.28	1.21	1.97	1.27
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.24	1.48	2.41	1.35	1.69	1.10	2.07	1.17	1.91	1.25
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.45	1.46	2.53	1.37	1.62	1.03	2.22	1.18	1.98	1.24
子どもの学習や就学についての悩み	3.03	1.53	2.07	1.23	1.47	0.86	2.28	1.28	1.62	1.01
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.36	1.56	2.47	1.39	1.78	1.22	2.21	1.30	2.05	1.28
雫石 ( <i>n</i> =1)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.00	-	3.00	-	1.00	-	4.00	-	3.00	-
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.00	-	3.00	-	1.00	-	4.00	-	4.00	-
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.00	-	3.00	-	1.00	-	4.00	-	3.00	-
子どもの学習や就学についての悩み	3.00	-	3.00	-	1.00	-	4.00	-	3.00	-
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.00	-	3.00	-	1.00	-	4.00	-	4.00	-

紫波 ( <i>n</i> =53)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.38	1.35	2.62	1.31	1.57	0.92	2.36	1.37	2.28	1.31
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.38	1.46	2.53	1.33	1.66	1.03	2.34	1.36	2.26	1.29
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.57	1.42	2.43	1.17	1.51	0.84	2.30	1.37	2.13	1.26
子どもの学習や就学についての悩み	2.91	1.53	2.17	1.22	1.47	0.86	1.89	1.11	1.60	0.94
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.34	1.52	2.55	1.35	1.75	1.10	2.11	1.25	2.11	1.31

矢巾 ( <i>n</i> =42)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.71	1.14	2.55	1.50	1.88	1.20	2.55	1.35	2.02	1.08
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.48	1.14	2.38	1.46	1.74	1.18	2.19	1.33	1.98	1.12
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.50	1.24	2.45	1.52	1.74	1.22	2.00	1.25	1.83	1.09
子どもの学習や就学についての悩み	3.14	1.41	2.12	1.42	1.64	1.21	2.07	1.26	1.52	0.91
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.50	1.35	2.29	1.58	1.76	1.25	1.95	1.15	1.76	1.11

花巻 ( <i>n</i> =52)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.44	1.55	2.65	1.34	1.79	1.31	2.23	1.27	2.17	1.40
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.35	1.54	2.62	1.37	1.71	1.26	2.19	1.18	2.31	1.46
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.52	1.49	2.58	1.42	1.85	1.35	2.25	1.24	2.19	1.39
子どもの学習や就学についての悩み	3.21	1.62	2.38	1.37	1.65	1.25	2.27	1.30	1.98	1.29
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.60	1.55	2.65	1.41	1.83	1.35	2.23	1.32	2.21	1.32

北上 ( <i>n</i> =28)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.43	1.32	2.79	1.40	1.39	0.72	2.50	1.32	2.29	1.44
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.43	1.45	2.79	1.45	1.32	0.76	2.46	1.27	2.14	1.36
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.54	1.57	3.00	1.60	1.39	0.77	2.46	1.24	2.07	1.36
子どもの学習や就学についての悩み	3.14	1.62	2.50	1.50	1.36	0.89	2.18	1.28	1.82	1.28
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.50	1.40	3.14	1.55	1.39	0.82	2.29	1.31	1.93	1.28

遠野 ( <i>n</i> =54)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい 専門機関や 行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.61	1.41	2.81	1.32	1.94	1.19	2.30	1.30	2.17	1.27
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.65	1.43	2.65	1.39	1.93	1.18	2.19	1.29	1.96	1.14
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.61	1.48	2.69	1.39	1.96	1.17	2.30	1.29	1.96	1.14
子どもの学習や就学についての悩み	3.56	1.50	2.54	1.36	1.89	1.13	2.41	1.28	1.85	1.10
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.56	1.55	2.76	1.44	1.98	1.24	2.19	1.28	2.09	1.22
一関 ( <i>n</i> =18)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい 専門機関や 行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.56	1.57	2.50	1.46	1.56	1.17	1.78	1.31	2.22	1.40
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.89	1.20	2.61	1.50	1.61	1.21	1.72	1.28	2.00	1.15
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	4.00	1.25	2.72	1.52	1.61	1.21	1.89	1.29	2.44	1.42
子どもの学習や就学についての悩み	3.22	1.62	2.11	1.33	1.44	1.01	1.61	1.16	1.44	0.83
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.56	1.67	2.61	1.53	1.61	1.21	1.72	1.28	2.28	1.41
奥州 ( <i>n</i> =52)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい 専門機関や 行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.27	1.57	2.62	1.47	1.65	1.00	2.56	1.28	1.79	1.10
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.06	1.70	2.48	1.43	1.62	1.00	2.38	1.27	1.88	1.17
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.25	1.64	2.58	1.45	1.71	1.03	2.37	1.26	1.85	1.08
子どもの学習や就学についての悩み	3.04	1.60	2.31	1.37	1.67	1.05	2.31	1.31	1.54	0.84
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.37	1.65	2.60	1.48	1.88	1.20	2.54	1.31	1.75	1.11
金ヶ崎 ( <i>n</i> =13)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい 専門機関や 行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.46	1.39	2.77	1.48	1.92	1.27	2.08	1.38	1.85	1.03
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.38	1.33	2.46	1.28	1.85	1.17	2.00	1.30	1.92	1.07
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.54	1.22	2.69	1.38	1.85	1.17	2.15	1.41	2.08	1.07
子どもの学習や就学についての悩み	3.38	1.15	2.46	1.28	1.85	1.17	2.08	1.33	2.08	1.07
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	4.00	0.78	2.92	1.21	2.23	1.31	2.08	1.33	1.92	1.07

宮古 ( <i>n</i> =26)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.50	1.62	2.69	1.59	1.62	1.11	2.19	1.27	1.62	0.88
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.46	1.65	2.77	1.53	1.50	1.01	2.15	1.23	1.77	1.19
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.54	1.62	2.81	1.54	1.54	1.08	2.27	1.26	1.77	1.12
子どもの学習や就学についての悩み	3.38	1.71	2.46	1.50	1.27	0.86	2.19	1.30	1.54	1.05
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.42	1.67	2.73	1.58	1.50	1.12	2.19	1.30	1.73	1.16
大船渡 ( <i>n</i> =46)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	2.98	1.24	2.33	1.38	1.74	1.13	1.93	1.21	1.80	1.15
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.13	1.31	2.48	1.46	1.83	1.09	1.85	1.16	1.93	1.26
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.02	1.31	2.43	1.48	1.89	1.22	1.98	1.34	1.78	1.18
子どもの学習や就学についての悩み	2.78	1.33	2.22	1.35	1.65	1.09	1.76	1.16	1.57	1.10
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	2.96	1.35	2.33	1.45	1.76	1.20	2.00	1.37	1.59	1.09
陸前高田 ( <i>n</i> =5)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	4.20	0.75	2.40	1.02	1.60	0.49	3.60	1.02	3.20	0.40
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	4.20	0.40	2.20	1.17	1.60	0.80	3.00	1.41	3.60	0.49
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	4.00	0.63	2.00	1.10	1.80	1.17	2.80	1.47	3.40	0.49
子どもの学習や就学についての悩み	4.20	0.40	2.00	1.26	2.00	0.89	3.20	1.17	2.80	0.98
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.80	0.75	2.60	1.02	2.00	0.89	2.80	1.17	3.00	0.89
洋野 ( <i>n</i> =48)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい専門機関や行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	3.10	1.31	2.44	1.27	1.88	1.25	2.35	1.33	2.06	1.14
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3.04	1.40	2.38	1.32	1.85	1.24	2.23	1.34	2.21	1.35
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	3.38	1.32	2.73	1.35	2.04	1.41	2.31	1.31	2.19	1.30
子どもの学習や就学についての悩み	3.04	1.49	2.38	1.36	1.75	1.25	2.29	1.32	1.83	1.14
子どもの身体の成長やケガ，病気についての悩み	3.17	1.39	2.60	1.43	1.90	1.33	2.23	1.33	1.94	1.18

その他 ( <i>n</i> =2)	夫(妻)		実父母		義父母		一番仲の良い友人		一番利用しやすい 専門機関や 行政機関	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	4.00	0.00	4.50	0.50	1.00	0.00	1.00	0.00	3.50	0.50
子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	4.50	0.50	4.50	0.50	1.00	0.00	1.00	0.00	4.00	0.00
子どもの生活習慣や習癖についての悩み	4.50	0.50	4.50	0.50	1.00	0.00	1.00	0.00	3.50	0.50
子どもの学習や就学についての悩み	4.00	1.00	4.00	1.00	1.00	0.00	1.00	0.00	2.00	1.00
子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	4.50	0.50	4.50	0.50	1.00	0.00	1.00	0.00	2.00	1.00

居住地別の結果を概観すると回答者数が多い市町村の中でも紫波町や花巻市が専門機関等への援助要請が比較的高い傾向がみられた。また、友人への援助要請は地域差が大きく、北上市、奥州市、遠野市、洋野町はどのような悩みでも友人への援助要請が高い傾向がみられる。一方で大船渡市はすべての相手に対する援助要請が低い傾向がみられることがわかる。

援助要請にはその悩みについて相談できる誰かが存在することがまずは重要であるが、内容によっては夫婦間だけではなく実父母や義父母、友人や専門機関を使い分けできることが望ましい。全体の傾向や他の地域と比較し、低い値で推移している場合には、悩みがあったとしてもまずは誰に相談するか、どのように相談するかなどにも悩んでしまう可能性があるため、行政においては相談しやすい環境づくりだけではなく、どのような相談を受けることができるか、具体的に示すことで相談するかどうかを悩んでしまうハードルを下げる一助となり得る。

### 6-3. 援助要請行動に影響を与える要因

調査対象者が20名以上の市町村（盛岡市，八幡平市，滝沢市，紫波町，矢巾町，花巻市，北上市，遠野市，奥州市，宮古市，大船渡市，洋野町）を対象に援助要請行動に影響を与える要因の検討を行った。統計解析ソフト R（4.1.2）を用いて要因ごとに Welch の検定を行った。なお，要因を「」，市町村ごとの結果を【】で示す。

また，全体の傾向として，援助要請行動に影響を与えると考えられる「子育ての悩みの多さ」，「子育ての悩みの深刻さ」，「コロナの影響」が援助要請行動と関連しているかについて分析を行った。

#### (1) 夫（妻）への援助要請行動に影響を与える要因

「祖父母と同居の有無」についてどの市町村においても有意差はみられなかった。

「コロナの影響」についても，どの市町村においても有意差はみられなかった。よって，市町村ごとでみると，夫（妻）への援助要請行動は祖父母と同居しているか，コロナの影響を感じているかどうかには影響をしていない可能性が考えられる。

また，全体の傾向では，「子育ての悩みの多さ」について，悩みが多い方が夫（妻）への援助要請行動を行っているが明らかとなった（ $t(890) = 5.40, p = .000$ ）。

#### (2) 実父母への援助要請行動に影響を与える要因

「祖父母と同居の有無」について【盛岡市：同居している＞同居していない， $t(45.25) = 1.71, p = .094$ 】，【遠野市：同居している＜同居していない， $t(35.69) = 2.28, p = .029$ 】，【大船渡市：同居している＞同居していない， $t(36.03) = 1.72, p = .095$ 】であった。盛岡市と大船渡市では同居している場合のほうが実父母への援助要請行動が高い傾向，遠野市では同居していない場合のほうが統計的にも有意に実父母への援助要請行動が低いことが明らかとなった。なお，祖父母との同居の有無については実父母か義父母かは特定していない。

「コロナの影響」について【盛岡市：影響なし＜影響あり， $t(76.60) = -3.48, p = .001$ 】，であった。盛岡市においてはコロナの影響があると回答した方が実父母への援助要請行動が高い傾向がみられた。

また，全体の傾向では，「子育ての悩みの多さ」について，悩みが多い方が実父母への援助要請行動を行っているが明らかとなった（ $t(890) = 3.78, p = .000$ ）。

#### (3) 義父母への援助要請行動に影響を与える要因

「祖父母と同居の有無」について【盛岡市：同居している＞同居していない， $t(43.30) = 2.26, p = .029$ 】，【花巻市：同居している＞同居していない， $t(19.48) = 2.11, p = .048$ 】であり，盛岡市，花巻市は同居している方が義父母への援助要請行動が高い傾向がみられた。

「コロナの影響」について【盛岡市：影響なし＜影響あり， $t(79.49) = -1.68, p = .097$ 】，【矢巾町：影響なし＜影響あり， $t(22.23) = -2.58, p = .017$ 】であった。盛岡市と矢巾町において

はコロナの影響があると回答した方が義父母への援助要請行動が高い傾向がみられた。

また、全体の傾向としては有意な変数はみられなかった。

#### (4) 友人への援助要請行動に影響を与える要因

「祖父母と同居の有無」について【花巻市：同居している＜同居していない， $t(34.10)=-1.87, p=.071$ 】，【遠野市：同居している＞同居していない， $t(26.23)=2.02, p=.054$ 】，であり，花巻市においては同居していない方が友人への援助要請行動が高い傾向がみられ，遠野市では同居している方が友人への援助要請行動が高い傾向がみられた。

「コロナの影響」について【盛岡市：影響なし＜影響あり， $t(68.92)=-1.73, p=.087$ 】，【矢巾町：影響なし＜影響あり， $t(15.59)=-2.88, p=.011$ 】であった。盛岡市と矢巾町コロナの影響があると回答した方が友人への援助要請行動が高い傾向がみられた。

また、全体の傾向としては有意な変数はみられなかった。

#### (5) 専門機関等への援助要請行動に影響を与える要因

「祖父母と同居の有無」について【矢巾町：同居している＞同居していない， $t(7.34)=1.95, p=.090$ 】であり，矢巾町においては同居している方が専門機関等への援助要請行動が高い傾向がみられた。

「コロナの影響」について【盛岡市：影響なし＜影響あり， $t(70.53)=-1.76, p=.082$ 】，【紫波町：影響なし＜影響あり， $t(21.40)=-2.01, p=.057$ 】，【大船渡市：影響なし＜影響あり， $t(19.94)=-2.05, p=.054$ 】であった。盛岡市，紫波町，大船渡市はコロナの影響があると回答した方が専門機関等への援助要請行動が高い傾向がみられた。

また、全体の傾向では、「子育ての悩みの多さ」について，悩みが多い方が実父母への援助要請行動を行っているが明らかとなった ( $t(890)=5.63, p=.000$ )。



## 7. マインドフルな子育て

### 7-1. マインドフルな子育て尺度

日常での子どもとのかかわり方について問う 25 項目の質問を行った。マインドフルネスとは「意図的に、今この瞬間に価値判断することなく注意を向けること」とされており、昨今では一般的にもマインドフルネスヨガやマインドフルネス瞑想などが知られている。

本調査に使用した尺度は、マインドフルネスを子育てに応用するという観点からマインドフルな子育てを測定するために作成された尺度である。本尺度は 25 項目 5 件法（1（まったくあてはまらない）～5（いつもあてはまる））で回答を求め、第 1 因子「描写」（得点範囲：7～35）、第 2 因子「観察」（得点範囲：6～30）、第 3 因子「自分の体験に過剰に反応しないこと」（得点範囲：4～20）、第 4 因子「子どもに過剰に反応しないこと」（得点範囲：4～20）、第 5 因子「距離をおくこと」（得点範囲：4～20）の 5 因子で構成されている。

各因子の平均値と標準偏差を表 1 に示す。

また、項目一覧を表 17 に示す。マインドフルな子育ては保護者の精神的健康を高めたり、子育てのスキルの向上につながったり、子ども自身の問題行動の低減につながるということが報告されている。子育て支援においてもマインドフル・ヨーガの実践を行うなど、親のマインドフルネスを高める取り組みが行なわれている。本調査においては、親のマインドフルネスが育児不安や子育ての悩みの多さ、深刻さ、コロナによる子育てへの影響についてどのような関連を示すか検討を行うため調査内容に取り入れた。しかし、マインドフルネススキルを高めるヨガや瞑想の体験がない場合には項目内容を理解しにくいという側面がある。一方で、価値判断することなく注意を向けるという体験を行っていくことで、ストレスそのものに過剰に反応しないため、ストレス反応の低減につながるなどの効果が期待できる。

表 16 マインドフルな子育て尺度 各因子の平均値

		平均値	標準偏差
マ イ ン ド フ ル ネ ス	描写	23.50	4.92
	観察	19.50	3.91
	自分の体験に過剰に反応しないこと	10.65	2.73
	子どもに過剰に反応しないこと	11.28	1.42
	距離をおくこと	13.11	3.11

注)  $n=872$

表 17 マインドフルな子育て尺度項目

第1因子 描写	
4	子育て場面で、自分の考えていることや感じていることを言葉に置き換えることができる
6	私は、子どもについてどう考えているか表現する言葉を見つけることができる
13	現在自分が子どもについてどのように感じているかを詳しく表現できる
14	私は、子どもに対してどう考えているか、感じているかについて言葉で表現することができる
16	子どもと過ごす中で感じたことや考えたことを詳しく言葉で表現することができる
19	子育てで困難が生じたときも、自分の感じていることを言葉で表現できる
24	子どものことで落ち込んだり、動揺したりしているときでも、自分がどう感じているか言葉で表現できる
第2因子 観察	
1	子どもと関わる時、子どもに対してどのように自分が考えているか、感じているのかについて注意を払う
2	自分の考えていること、感じていることが子どもを世話するときにどう影響するかについて注意を払う
3	抱きしめたり、手をつないだりなど、子どもとの身体接触の際に、自分の体の感覚に意識的に注意を向ける
12	子育て場面で困難が生じたとき、自分の考えていることや感じていることに注意を向ける
18	子どもと関わる時、自分がその瞬間に何を考えているのか、感じているのかについて注意を向ける
25	子どもの考えていることや感じていることが自分にどう影響するか注意を向ける
第3因子 自分の体験に過剰に反応しないこと	
8	子どものことで落ち込んだり、動揺したりしているとき、自分の感情に気づき、無理に落ち着こうとせずそのままにしておく
10	子どもに対して腹が立っているとき、自分の感情をそのままにしておく
11	子育て場面で困難が生じたとき、自分の感情に気づき、そのままにしておく
17	子育てに関するつらい考えやイメージが浮かんだときでも、気持ちが落ち着くまでそのままにしておく
第4因子 子どもに過剰に反応しないこと	
7	子どもに対して腹が立っているとき、つい感情的に怒鳴りつけてしまう
20	子どもに対して腹が立っても、すぐに反応せず一呼吸おくことができる
21	子どもが言うことを聞かないとき、すぐに反応せずいったん子どもの様子を見る
22	子どもの言動にイライラしたとき、すぐに反応してしまいがちだ
第5因子 距離をおくこと	
5	子どもをうまくしつけられない自分はダメだと思う
9	子どもにうまくできないことがあると、自分は良い親ではないのではないかと考えてしまいがちだ
15	子どもに対して悪く考えたときに、自分は悪い親だと感じる
23	子どもが不機嫌そうにしているとき、すぐに機嫌をとろうとしてしまう

※番号に水色がついている項目は、得点換算時に逆転して計算を行う。

#### IV. 考察

本調査は、子育てをしている保護者の援助要請行動の実態およびコロナ禍における影響を明らかにすることが目的であった。2021 年度と同様の調査を実施することで、保護者や子どもにとってどのような支援が必要だと考えられるか検討する一助となる。なお、本調査は岩手県内における子育てをしている保護者を対象とするため、幅広い居住地域の保護者を対象に調査を行った。

本調査に回答いただいた調査対象者の属性のうち、家族構成をみると、4 人家族、3 人家族が全体の 6 割を占めており、祖父母との同居も 7 割以上はしていなかった。祖父母との関係に関して、コロナによる子育てへの影響において、「祖父母が県外にいるため会いに行けない」「一人目の子でいろいろ頼ろうと思っていたのにそれができなくて大変だった」などといった回答もみられた。2022 年度は緊急事態宣言等はなかったものの、変異株の流行による新規感染者の増大など、各自で行う感染症対策が望まれ、核家族で過ごす中で、本来であれば交流できていた祖父母との関係ができていないことも推察された。

一方で、実父母、義父母にかかわらず祖父母と同居している方が、実父母や義父母に対して援助要請行動をする可能性があると思定されたが、地域によっては同居していない方が実父母や義父母への援助要請行動が高い場合や、同居している方が友人への援助要請行動が高い場合などもみられ、家族という範囲だけではなく、地域における家族やコミュニティの在り方による相談内容があるのではないかと考えられる。相談内容によっては周囲の理解が得られにくかったり、誰かに話してしまうとほかの人にも知られてしまうのではないかと不安になったりすることで援助を求めずにいることも多いだろう。祖父母との同居が子育てに関する悩みや不安をうまく解決できる要因になることもあれば、子育てとは違うストレス要因になることもあり得る。子育て中の保護者が適切に相手を選び、相談できる環境づくりも重要である。家族以外で相談をする相手の中でも 2021 年度調査と同様に「通っている園の保育士や先生」を頼る者が多いことがわかる。しかしこれについても「先生に話をしたいけど集まりも時間が決まっている」といった記述があり、保育園等の行事の制限やこれまでであれば送迎時にもっとコミュニケーションが取れていたような場面も減っており、気軽に日常生活で気になることを相談しにくい状況にあると思われる。

加えて、「育児不安」は 2021 年度と比較し傾向は変わらないものの、子どもの年齢が小さい（0 歳）場合に、育児不安が統計的にも有意に高い傾向が示されている。0 歳の場合には家庭において育児を行っている場合が多いと想定されるが、その場合にはきょうだいがいない限り、園の先生方に頼ることはできないため、産院や行政機関などの保健師、助産師、医師が唯一頼ることのできる専門職となり得る。しかし、それも感染予防の観点から気軽に相談することがかなわず、保護者自身はどうしていいかわからないことが増え「育児不安」につながっている可能性も推察される。

次に、コロナに関する社会的な問題として挙げられる「就労状況」をみると、父親、

母親ともに 2021 年度と比較し、正規職員の割合、また何らかの就労をしている割合が増えていた。しかし、令和 3 年度厚生労働白書で指摘されている通り、女性においては、仕事と家庭生活、子育ての両立の負担が大きいと想定される。特に「コロナによる子育ての影響」においてみられた自由記述内容に着目すると、子どものコロナ以外の体調不良で園を休ませなくてはならない場合は、自身のこどもは体調に問題はなくとも、園で感染者が出た場合の休園などで仕事を休まなくてはならず、それが家庭の収入にも響いてしまったり、職場での関係性悪化につながってしまったりすることが挙げられる。非正規・パートでの就労の場合、特に影響は大きいだろう。また、一部ではあるが、園に給食代等は支払っているのに、お休みせざるを得ないことが多く、家庭での昼食やおやつ代が家計の圧迫につながっている、子どもはマスクをすぐ汚してしまうため感染対策のために何度も付け替えさせることで子ども用のマスク費用が負担となっている、という記述もみられた。前述したとおり 7 割以上が祖父母と同居していないことや核家族で夫婦共働きの世帯が多い現代においては、園の感染拡大防止や感染予防対策が「子育てにおける問題」ととどまらず、直接的にも間接的にも家庭生活にさまざまな問題を生じさせている可能性がある。

また、本調査でもっとも着目すべき点だと考えられる「子育ての悩みの多さと深刻さ」についてみていく。「悩みの多さ」については、5 つの項目すべてで「3（少しあった）」「4（よくあった）」と回答している割合が 2021 年度より増加している。さらに「深刻さ」については、「子どもの生活習慣や習癖についての悩み」と「子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み」については 2021 年度と比較し「4（非常に苦しかった）」と回答している割合が増加している。結果においても前述したとおり、個別性の高い悩みである可能性はあるが、その個別性の高い悩みを保護者自身が持っている資源では解消できないため、苦しさに繋がっていると考えられる。苦しさをあまり感じていない者のほうが多いとしても、「非常に苦しい」と回答する保護者に対して、どのような支援ができるのか、検討する必要があると思われる。

以上のことから、2021 年度調査では緊急事態宣言等から全国的に在宅ワークや休園が求められる状況であったが、2022 年度では With コロナに向けた政策が掲げられるなどの社会情勢の変化から保護者世代は徐々に元の日常に近い形での労働や社会経済活動の促進を求められる一方で、感染の中心になる保育所等の施設での感染拡大防止のための措置を行う必要があるため、その両立が難しい状況にあることが示唆された。また、2021 年度調査においても保護者自身の援助要請能力を向上と同時に行政などの今後の子育て支援体制づくりにおいて、保護者が支援に関する情報を得やすい工夫が重要であることを言及したが、本調査の結果から、そもそもコロナ禍で子育てをしている保護者は援助要請をする機会や援助要請をしても良いと感じる機会が減っていることが見受けられる。

園の送迎や子育て支援センターにおいても、極力他者との交流を控えるという状況が当たり前になってきており、母同士の交流が少なくなったり、園の保育士等やセンターの職員とも関係が希薄になっていると考えられる。加えて、子どもの身体的・精神的発達に合わせ

た療育や医療を利用している保護者の回答において、療育施設も予約が取りにくくなったことや、人数制限や時間枠設定の変更から当初予定されていた療育スケジュールが遅れていく不安があることなども挙げられていた。このような療育等を利用している保護者の回答を概観すると他の専門職への相談は行っておらず、予約が取れなかったり、スケジュール遅れの不安があるものの、その施設やセンター、医療機関以外の専門職には相談していないことが明らかとなった。また、ネットや SNS で根拠のない情報から不安が増大する保護者などもある。このことから、日常生活での些細なことから、個別性の高い悩みや不安にどのように対応するかに対して、保護者自身の援助要請能力を上げる、支援に関する情報を得やすい工夫をする、という前年度からの課題に加えて、まずは何をどこに、どのように相談していいのか、さまざまな専門職等に相談することが悪いことではないということを周知していく必要がある。

また、想定される困りごとに対する Q&A を作成し、それで解決できない場合にはどんな場所・人にどのように相談できるかを呈示することも有効であろう。例えば、保育園や外出先ではダメだが、家ではマスクを外して過ごしていいことや、食事中のおしゃべりも良いことをどのように伝えるか悩んでいるという自由記述や、家の中にいる時間が増えてしまうせいでテレビやゲーム、タブレットの時間が増えてしまい、他の対応方法がわからないという自由記述がいくつか見られた。このような場合の対応方法について、子育てに関する情報発信媒体で市町村の保健師や保育士、心理師等のさまざまな専門職がいくつか提案をする、といった取り組みが大変有効であると考えられる。保護者にとっては市町村にはどのような専門職がいるのか、それぞれの専門職がどのような理由でその提案をしているのか、その人にどのような相談ができそうかを知ることのできる機会にもなり、長期的な視点でみた保護者支援という観点でも有効であろう。

さらに、今後子育て支援センター等、子育て支援を行う現場でイベント開催ができるようになっていく際には、子どもがさまざまなことを経験する機会などの提供だけではなく、子育てをしている保護者自身のサポートをできるような内容を取り入れることも重要である。例えば、本調査で取り上げているマインドフルネスについては、保護者自身の内面に対する効果だけではなく、子どもとの関係への効果も期待される。水崎ら（2018）において、子育て場面で体験に注意を向ける能力だけではなく、注意を向けた後に言葉で表現できるようになることが、不適切な養育行動の減少につながる可能性や、マインドフルネスを高めることによって、子どもの行動など、子育て中に生じてくる感情をいったん受け止め、コントロールしていくことなどが期待されている。このようにストレスをうまくマネジメントする方法やマインドフルネスを体験できるようなイベント等を設定することで、イベントそのものには「うつ」や「不安」といったマイナスな表現や印象を与えにくい、結果的には保護者のメンタルヘルス向上に寄与する一助となり得るだろう。

## 謝辞

本調査を実施するにあたり，ご協力いただきました保護者の皆様，園の皆様，市町村担当課の皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

## 引用・参考文献

- 馬場千恵・村山洋史・田口敦子・村嶋幸代（2013）．乳児を持つ母親の孤独感と社会との関連について 家族や友達とのソーシャルネットワークとソーシャルサポート 日本公衆衛生雑誌, 60(12), 727-737.
- 大和総研（2021）．「女性の育児休業取得率も、まだ4割程度」 Retrieved from [https://www.dir.co.jp/report/column/20210426\\_01064.html](https://www.dir.co.jp/report/column/20210426_01064.html) (2022年3月31日)
- 樋口 耕一（2020）．社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展を目指して——第2版 ナカニシヤ出版
- 本田真大・新井邦二郎（2010）．幼児をもつ母親の子育ての悩みに関する援助要請行動に影響を与える要因の検討 カウンセリング研究, 43(1), 51-60.
- 本田真大（2018）．育児不安に焦点を当てた母親の子育ての悩みの援助要請行動に影響を与える要因の検討 北海道教育大学 学校臨床心理学研究, 15, 11-21.
- いきいき岩手支援財団（2020）．企業における子育て支援体制についての調査研究
- 厚生労働省（2015）．平成27年度版厚生労働白書 Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/15/dl/all.pdf>
- 厚生労働省（2019）．「健やか親子21（第2次）」中間評価等に関する検討会報告書 Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000614300.pdf>
- 厚生労働省（2021）．令和3年度版厚生労働白書 Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/content/001011736.pdf>
- 牧野カツコ（1982）．乳幼児をもつ母親の生活と＜育児不安＞ 家庭教育研究所紀要, 3, 34-56.
- 水崎優希・仲嶺実甫子・佐藤寛・尾形明子（2018）．マインドフルな子育て尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 マインドフル研究, 3(1), 1-14.



## 子育てに関する意識や行動などについての調査 ご協力をお願い



本調査は「子育て中の保護者の相談や支援に役立つための要因」を知るために、（公財）いきいき岩手支援財団の企画により行われるものです。調査対象は未就学のお子さんの保護者となっております。調査では、家族・就労状況に加え、子育て中の悩み、子育てで何か困ったことが起きた際にどのような支援を利用されているかなどについてお聞きしています。またコロナ禍における外出自粛や施設の利用制限などによって、子育てにどのような影響が起きているかという現状を把握し、子育て中の保護者の皆さまをどのように支援することが可能なのか、今後の支援環境や計画などのヒントを得るためのものとなっております。

調査・分析に関しては、（公財）いきいき岩手支援財団と岩手県立大学社会福祉学部・庄司知恵子研究室、瀧井美緒研究室と共同で実施いたします。調査は無記名で行います。調査結果は研究目的以外で使用されることはなく、統計的に処理され、回答者個人が特定されることはありません。お答えいただいた個々の情報が個人を特定する形で公表されることはありません。

お忙しいところ、誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和4年10月

### 【ご回答にあたって】

- ◆ 未就学のお子さんに子育てを主にされている方がご回答いただきますようお願いします。
- ◆ 本調査用紙は7ページ、17問で構成されています。ご回答には15分程度いただきます。
- ◆ 回答は、返信用封筒（切手は不要です）に入れて封をし、郵便ポストへ投函してください。
- ◆ お忙しいところ、誠に恐縮に存じますが、令和4年11月25日（金）までにご回答ください。
- ◆ 本調査についてのお問い合わせは、各市町村や園などにお聞きしてもわかりませんので、  
下記問い合わせ先までご連絡ください。

瀧井 美緒  
岩手県立大学 社会福祉学部  
住所 〒020-0693 岩手県滝沢市巢子 152-52  
(研究室) tel  
(学部事務室) tel  
email





1) 現在お住いの市町村について、あてはまるところ一つに○をつけてください。

1. 盛岡市	2. 八幡平市	3. 滝沢市	4. 雫石町	5. 紫波町
6. 矢巾町	7. 花巻市	8. 北上市	9. 遠野市	10. 一関市
11. 奥州市	12. 金ヶ崎町	13. 宮古市	14. 大船渡市	15. 陸前高田市
16. 釜石市	17. 大槌町	18. 山田町	19. 久慈市	20. 二戸市
21. 洋野町	22. 一戸町	その他 ( )		

2) 本調査にご回答いただいている方について、お子さんからみた続柄をお答えください。

1. 父親                      2. 母親
3. 父方祖父母      4. 母方祖父母
5. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）

3) 本調査にご回答いただいている方の年齢をお答えください。（令和3年11月現在）

満 \_\_\_\_\_ 歳

4) 現在同居のご家族の構成について、お子さんから見た続柄でお答えください。

複数回答であてはまる方全員に○をつけてください。

1. 父親                      2. 母親                      3. 父方祖母                      4. 父方祖父
5. 母方祖母                      6. 母方祖父
7. きょうだい（きょうだいの人数：\_\_\_\_\_人）
8. その他（具体的に記入してください：\_\_\_\_\_）

5) 祖父母と同居されていますか。祖父母と同居していない場合は近居に住んでいますか。

1. 同居している
2. 同居していない

↳ 近居（お子さんの学区および接する学区）に住んでいますか？

1. 住んでいる
2. 住んでいない、死別している

6) 未就学のお子さんの年齢と性別、第何子かをお答えください。(令和3年11月現在)

※未就学のお子さんが2人以上いる場合は全員について教えてください。

年齡 歲 力月 性別 ( 男 · 女 ) 第 子

※未就学のお子さんが2人以上いる場合

・年齢 歳 力月 性別（ 男 ・ 女 ） 第 子

・年齢 歳 力月 性別（ 男 ・ 女 ） 第 子

7) お子さんからみた父親、母親の就労形態について、それぞれお答えください。

※育休および産休中の方は、所属している就労状況についてお答えください。

父親

1. 勤め人（正規）      2. 勤め人（非正規・パート）      3. 自営  
4. その他有職      5. 無職      6. 死別・離別している

母親

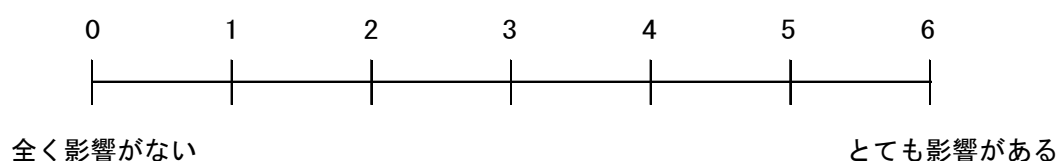
1. 勤め人（正規）      2. 勤め人（非正規・パート）      3. 自営  
4. その他有職      5. 無職      6. 死別・離別している

8) 現在お住まいの市町村が行なっている子育て支援についてご存知ですか。

1. 知っている（具体的にご存知の内容： \_\_\_\_\_）
2. 知らない

9) コロナの影響によって、ご自身の子育てがうまくいっていないと感じますか。

ご自身の子育てへの影響度について、あてはまるところに○をつけてください。



- 10) コロナの影響によって、ご自身の子育てがうまくいっていないと感じている場合、どのようなことで影響を感じますか。具体的にお書きください。

- 11) 過去6か月間に、未就学のお子さんについて、以下の子育ての悩みをどのくらい感じましたか。それぞれの項目に、あてはまる数字（1～4）一つに○をつけてください。

		全くない	あまりない	少しあった	よくあった
1	子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	1	2	3	4
2	子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	1	2	3	4
3	子どもの生活習慣や習癖についての悩み	1	2	3	4
4	子どもの学習や就学に向けての準備についての悩み	1	2	3	4
5	子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	1	2	3	4

- 12) 過去6か月間に、未就学のお子さんについて、以下の子育ての悩みでどのくらい苦しさを感じましたか。

それぞれの項目に、あてはまる数字（1～4）一つに○をつけてください。

		全く苦しくなかった	余り苦しくなかった	少し苦しかった	非常に苦しかった
1	子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	1	2	3	4
2	子どもの外界への興味や社会性（他児や大人との遊び、かかわり方など）についての悩み	1	2	3	4
3	子どもの学習や就学に向けての準備についての悩み	1	2	3	4
4	子どもの生活習慣や習癖についての悩み	1	2	3	4
5	子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み	1	2	3	4

- 13) 過去 6 か月間に感じた子育てに関する悩みは、具体的にどのような内容でしたか。  
 書ける範囲で構いませんので、自由に記述してください。  
 特にコロナ禍特有だと感じる子育ての悩みがあれば、それについてもお願いします。

- 14) 最近あなたは次のようにお感じになることがありますか。  
 あてはまる数字（1～4）一つに○をつけてください。

	全くない	あまりない	少しある	よくある
1 毎日くたくたに疲れる	1	2	3	4
2 朝、目覚めがさわやかである	1	2	3	4
3 考えごとがおっくうでいやになる	1	2	3	4
4 毎日はりつめた緊張感がある	1	2	3	4
5 生活の中にゆとりを感じる	1	2	3	4
6 子どもがわずらわしくて、イライラしてしまう	1	2	3	4
7 自分は子どもをうまく育てていると思う	1	2	3	4
8 子どものことで、どうしたらよいかわからなくなることがある	1	2	3	4
9 子どもは結構一人で育っていくものだと思う	1	2	3	4
10 子どもをおいて外出するのは、心配で仕方がない	1	2	3	4
11 自分一人で子どもを育てているのだという圧迫感を感じてしまう	1	2	3	4
12 育児によって自分が成長していると感じられる	1	2	3	4
13 毎日毎日、同じことの繰り返ししかしていないと思う	1	2	3	4
14 子どもを育てるためにがまんばかりしていると思う	1	2	3	4

15) これまで子育てに関する悩みを相談する相手として、家族や友人以外でもっとも相談しやすい専門機関や行政機関等の職員はどのような立場の人でしたか。

あてはまる人すべてに○をつけてください。

1. 保健師	2. 助産師	3. 家庭児童相談員	4. 児童館などの職員
5. 児童相談所職員	6. 医師	7. 看護師	8. 心理士
9. 通っている園の 保育士や先生	10. 子育て支援セ ンターなどの職員	11. その他 (具体的に：_____)	
0. 家族や友人以外でもっとも相談しやすい専門機関や行政機関等の職員はいない			

16) 過去6か月間に、未就学のお子さんに関する子育ての悩みについて、以下のことに悩んだときに周りの人にどのくらい相談しましたか。

それぞれの相手について、あてはまる数字(1～5)を一つ記入してください。

1 : 全くない、      2 : あまりない、      3 : どちらともいえない  
4 : よくある、      5 : 非常にたくさんある

このように、あてはまると思う数字を記入してください

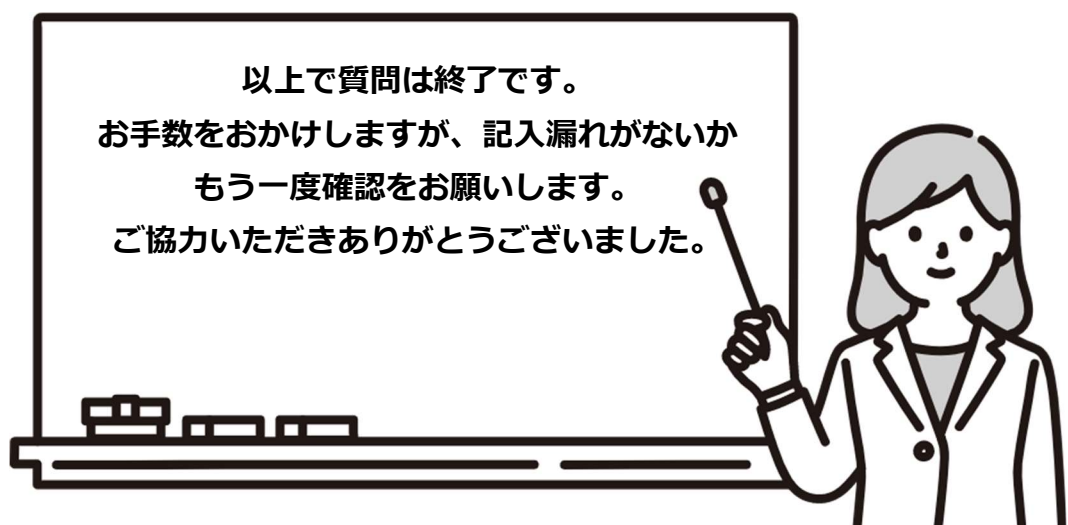
		夫(妻)	実父母	義父母	一番仲の良い友人	一番利用しやすい専門機関や行政機関
例	子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み	3	4	1	1	4

		夫(妻)	実父母	義父母	一番仲の良い友人	一番利用しやすい専門機関や行政機関
1	子どもの外界への興味や社会性(他児や大人との遊び、かかわり方など)についての悩み					
2	子どもの動作や言葉による表現力、動作や言葉の発達についての悩み					
3	子どもの生活習慣や習癖についての悩み					
4	子どもの学習や就学に向けての準備についての悩み					
5	子どもの身体の成長やケガ、病気についての悩み					

17) 日常でのお子さんとのかかわり方について伺います。  
 以下の質問は普段のあなたにどの程度あてはまりますか。  
 あてはまる数字（１～５）一つに○をつけてください。

		まったくあてはまらない	めったにあてはまらない	たまにあてはまる	しばしばあてはまる	いつもあてはまる
1	子どもと関わる時、子どもに対してどのように自分が考えているか、感じているのかについて注意を払う	1	2	3	4	5
2	自分の考えていること、感じていることが子どもを世話するときはどう影響するかについて注意を払う	1	2	3	4	5
3	抱きしめたり、手をつないだりなど、子どもとの身体接触の際に、自分の体の感覚に意識的に注意を向ける	1	2	3	4	5
4	子育て場面で、自分の考えていることや感じていることを言葉に置き換えることができる	1	2	3	4	5
5	子どもをうまくしつけられない自分はダメだと思う	1	2	3	4	5
6	私は、子どもについてどう考えているか表現する言葉を見つけることができる	1	2	3	4	5
7	子どもに対して腹が立っているとき、つい感情的に怒鳴りつけてしまう	1	2	3	4	5
8	子どものことで落ち込んだり、動揺したりしているとき、自分の感情に気づき、無理に落ち着こうとせずそのままにしておく	1	2	3	4	5
9	子どもにうまくできないことがあると、自分は良い親ではないのではないかと考えてしまいがちだ	1	2	3	4	5
10	子どもに対して腹が立っているとき、自分の感情をそのままにしておく	1	2	3	4	5
11	子育て場面で困難が生じたとき、自分の感情に気づき、そのままにしておく	1	2	3	4	5
12	子育て場面で困難が生じたとき、自分の考えていることや感じていることに注意を向ける	1	2	3	4	5
13	現在自分が子どもについてどのように感じているかを詳しく表現できる	1	2	3	4	5
14	私は、子どもに対してどう考えているか、感じているかについて言葉で表現することができる	1	2	3	4	5
15	子どもに対して悪く考えたときに、自分は悪い親だと感じる	1	2	3	4	5

		まったくあてはまらない	めったにあてはまらない	たまにあてはまる	しばしばあてはまる	いつもあてはまる
16	子どもと過ごす中で感じたことや考えたことを詳しく言葉で表現することができる	1	2	3	4	5
17	子育てに関するつらい考えやイメージが浮かんだときでも、気持ちが落ち着くまでそのままにしておく	1	2	3	4	5
18	子どもと関わる時、自分がその瞬間に何を考えているのか、感じているのかについて注意を向ける	1	2	3	4	5
19	子育てで困難が生じたときも、自分の感じていることを言葉で表現できる	1	2	3	4	5
20	子どもに対して腹が立っても、すぐに反応せず一呼吸おくことができる	1	2	3	4	5
21	子どもが言うことを聞かないとき、すぐに反応せずいったん子どもの様子を見る	1	2	3	4	5
22	子どもの言動にイライラしたとき、すぐに反応してしまいがちだ	1	2	3	4	5
23	子どもが不機嫌そうにしているとき、すぐに機嫌をとろうとしてしまう	1	2	3	4	5
24	子どものことで落ち込んだり、動揺したりしているときでも、自分がどう感じているか言葉で表現できる	1	2	3	4	5
25	子どもの考えていることや感じていることが自分にどう影響するか注意を向ける	1	2	3	4	5







# 【第二部】

## 相談専門職に対する調査

### 目 次

- I 調査の背景 (77)
- II 相談専門職に対する調査【調査Ⅱ】 (78)
  - 1. 調査テーマ (78)
  - 2. 調査の目的 (78)
  - 3. 調査の企画及び設計 (78)
  - 4. 調査方法および調査対象 (78)
  - 5. 調査材料 (78)
  - 6. 結果の公表 (79)
- III 調査の分析結果 (80)
  - 1. 回答者の属性 (80)
    - (1) 性別
    - (2) 年齢
    - (3) 所属自治体
    - (4) 保有資格
    - (5) 相談職としての勤務年数
    - (6) 部署での勤務年数
    - (7) 現在の業務内容
  - 2. コロナ禍における業務内容 (85)
    - (1) コロナ禍以前とコロナ禍との業務負担の増減
    - (2) コロナ禍における保護者からの相談内容
      - ①未就学児
        - I 期
        - II 期
      - ②就学児
        - I 期
        - II 期
    - (3) 相談業務から見てくるコロナ禍以前とコロナ禍での「子育ての大変さ」
      - ①大変さ
      - ② I 期
      - ③ II 期
    - (4) 困難な状況に置かれていると感じた相談内容
    - (5) コロナ禍において最も困難な状況に置かれていると思われる世帯

①世帯の状況	
②理由	
(6) 業務上の困難感	
①割合	
②理由	
(7) 市町村としてコロナ禍において困難を感じている世帯に対応できているか	
①割合	
②理由	
(8) 解決の糸口	
①割合	
②理由	
3. 業務上の困難感とのクロス集計 (101)	
(1) 年齢×困難感	
(2) 相談業務勤務年数×困難感	
(3) 部署勤務年数×困難感	
(4) コロナ禍相談業務増減×困難感	
(5) 自治体地区別×困難感	
4. 自由記述の分析 (105)	
5. まとめ (108)	
付録：調査票	



## I 調査の背景

2020 年年明け、新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) の感染拡大に伴い、「未知なるウイルス」に翻弄される生活が始まった。同年 2 月 20 日には全国一律に休校要請が行われ、子育て世帯はその対応に追われることとなった。同年 3 月 11 日に、WHO は新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) の感染拡大をパンデミックであると宣言し、日本政府は 4 月 7 日に、7 都道府県に対し緊急事態宣言を出し、4 月 16 日にはその対象を全国に拡大し、各自治体は対応に追われた。

このような中、幼い子を持つ母親には新たな心理的苦痛が生じていることが報告されている。幼い子を持つ母親の精神健康は、「Covid-19 流行期に悪化傾向にあり、心理的苦痛の関連要因には、流行期前から有していた子の発達への不安、育てにくさ、受援力の受援の機会を活用しようとする姿勢の乏しさ、ソーシャルサポートの乏しさが含まれて」おり、「Covid-19 流行期における継続的な子育て支援・療育・相談と受援力向上に向けた具体的なアプローチの検討が望まれる」とされている (木村美也子他, 2022: 273-283)。しかしながら、2020 年 4 月 23 日の朝日新聞が報じているように、保健所に業務が集中し、人出不足が深刻化しており、感染拡大に自治体の対応が追い付いていない状況にある。保健所が対応すべき課題の対象は、乳児から高齢者まで多岐にわたる。木村らの研究からは、コロナ禍においては、母親に対して平時以上のさらなるアプローチが求められることになるわけだが、その余力が自治体にはない。

以上のような状況を受け、本稿では以下 2 点を明らかにすることを目的とする。

まず一つは、相談専門職が業務を通してとらえている子育て世帯の困難さについてである。そしてもう一つは、相談専門職自身の負担の様子についてである。

この 2 点と、本報告書第一部にある「保護者に対する調査」と、2021 年度実施の『コロナ禍における子育てに関する援助要請行動についての実態調査』(いきいき岩手支援財団) で明らかになった点を照らし合わせることで、各自治体において、子育て世帯への支援のあり方と、それを支える相談専門職への支援のあり方について検討が行われ、支援体制構築に結びつくことを期待し、情報の提供を行うものである。

### 引用文献

木村 美也子, 井手 一茂, 尾島 俊之「幼い子をもつ母親のコロナ禍の心理的苦痛とその関連要因: 子の育てにくさ, 発達不安, ソーシャルサポートおよび受援力に焦点をあて」『日本公衆衛生雑誌』69 (4), 273-283, 2022-04-15.

## Ⅱ 相談専門職に対する調査

### 1. 調査のテーマ

本調査のテーマは、『コロナ禍における子育て相談の内容の変化についての調査—自治体における相談専門職の方を対象に—』とした。

### 2. 調査の目的

本調査は、自治体において子育て世帯への対応をしている相談専門職を対象とし、子育て中の保護者の相談内容と、相談専門職の対応状況を明らかにすることを目的とした。その上で、自治体において今後の子育て支援体制の構築に結びつく情報の提供を行うことも目的としている。

### 3. 調査の企画及び設計

調査の企画は、公益財団法人いきいき岩手支援財団が行い、調査の設計、実施および分析を岩手県立大学に委託した。調査の設計、実施、分析および報告書の執筆は庄司知恵子（岩手県立大学社会福祉学部・准教授）が担当した。なお、5で説明をしている自由記述による質的データのテキストマイニングには、KH Coder 3（樋口，2020）および、UserLocal 社が提供する AI 技術を用いたオンラインテキストマイニングツールである AI テキストマイニング（<https://textmining.userlocal.jp/>）を用いた分析においては瀧井美緒氏（岩手県立大学社会福祉学部・講師）の協力を得た。

### 4. 調査方法および調査の概要

調査票配布および回収時期は、令和 4 年 11 月である。

実施方法は、質問紙調査を配布し、回答後は個別に郵送で提出いただいた。

調査対象は、岩手県内の自治体に勤務し、子育て中の保護者に対する相談業務に対応している相談専門職である。

調査協力依頼の方法として、岩手県内全市町村（33 市町村）に送付し、該当する職員に調査票の配布を依頼した。事前に調査対象となる職員の人数が分からなかったため、送付の際、市町村の規模を考慮し送付数を調整し（例えば盛岡市は 10 部、野田村は 3 部）、送付数以上の調査票が必要な場合は、各自治体での複製を依頼した。送付数は 207 部であるが、これが母数にはならないことを断っておく。

回収状況は、送付数 207 部のうち、79 部の回答が得られた（回収率は 38.2%）。

### 5. 調査の材料

調査項目は、以下の通りである。

- ・回答者に関する情報

（性別・年齢・所属自治体・勤務する部署・相談業務に携わった年数・部署の勤務年数）

- ・ コロナ禍における保護者からの相談内容
- ・ 相談業務から見てくるコロナ禍以前とコロナ禍での「子育ての大変さ」
- ・ 困難な状況に置かれていると感じた相談内容
- ・ コロナ禍において最も困難な状況に置かれていると思われる世帯
- ・ 業務上の困難感
- ・ 市町村としてコロナ禍において困難を感じている世帯に対応できているか
- ・ 解決のための方法
- ・ 上記点および調査について自由記述

なお、自由記述による質的データのテキストマイニングには、KH Coder 3 (樋口, 2020) および、UserLocal 社が提供する AI 技術を用いたオンラインテキストマイニングツールである AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>) を用いて分析を行った。

## 6. 結果の公表

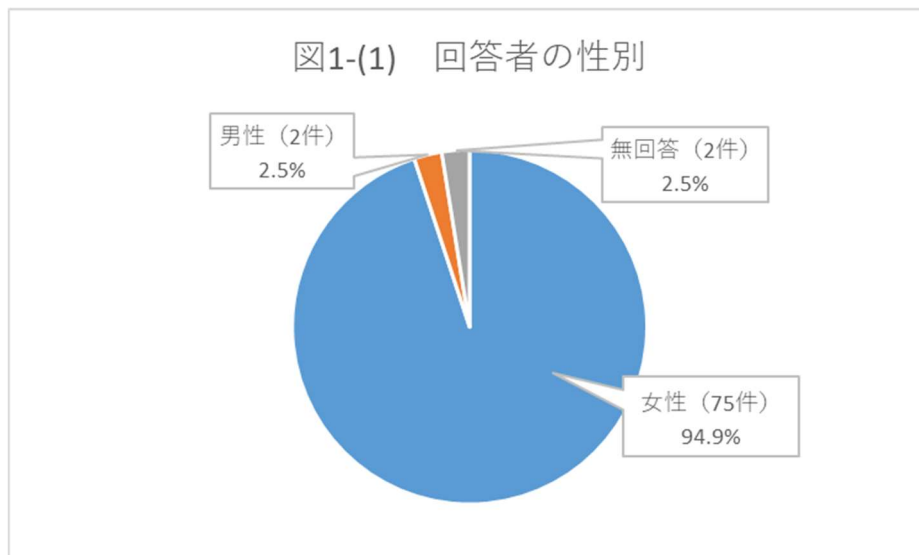
調査結果は、報告書を作成のうえ、財団ホームページでの公表、学術発表や学術論文として公表するとともに、協力いただいた関係者へ提供することとし、今後の関連施策にも反映されるものとする。

### Ⅲ 調査の分析結果

#### 1. 回答者の属性

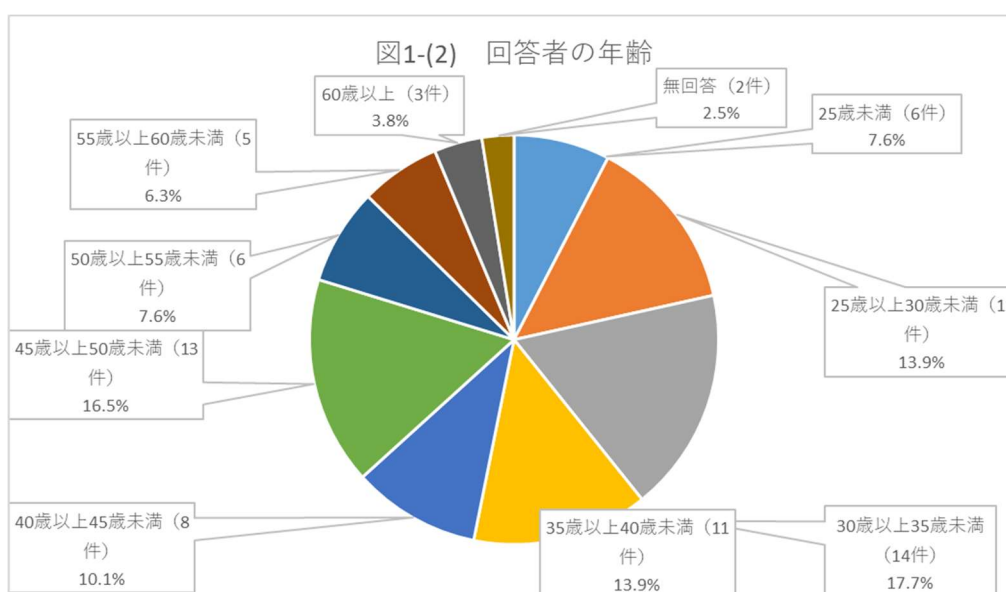
##### (1) 性別

回答者（n=79）の性別において、「女性」が75件で94.9%、「男性」が2件で2.5%、無回答が2件で2.5%であった。



##### (2) 年齢

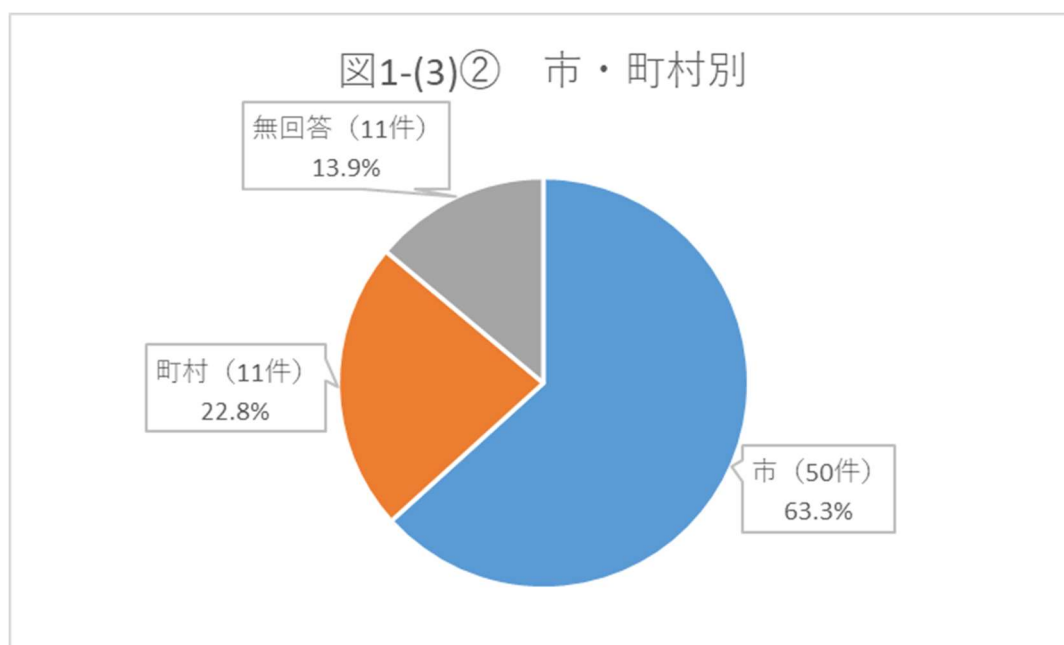
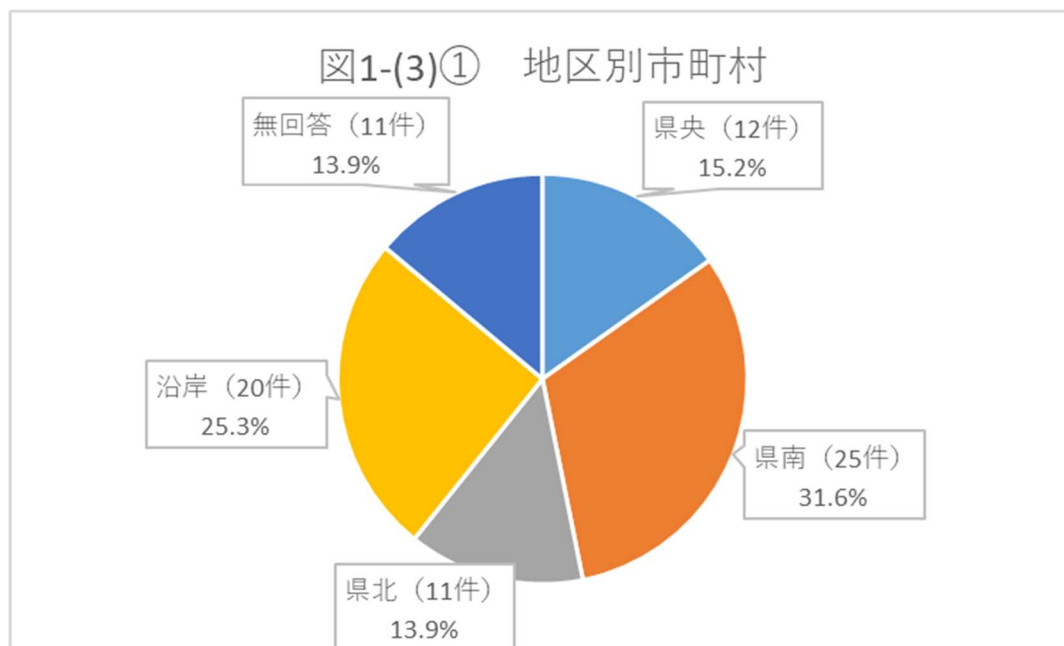
回答者（n=79）の年齢層において、もっとも多い層は、「30歳以上35歳未満」で14件、17.7%であった。次いで多い層は、「45歳以上50歳未満」で13件16.5%、「25歳以上30歳未満」が11件で13.9%、「35歳以上40歳未満」が11件で13.9%であった。「25歳以上45歳未満」で統合すると55.6%を占め、若手から中堅どころの年齢層が相談業務を担っている。かつこの世代は、自身も子育てをしている世代と重なる。



### (3) 所属自治体

岩手県内 33 市町村のうち、23 市町村に所属している相談専門職から回答が得られた(69.6%の市町村の協力が得られた)。

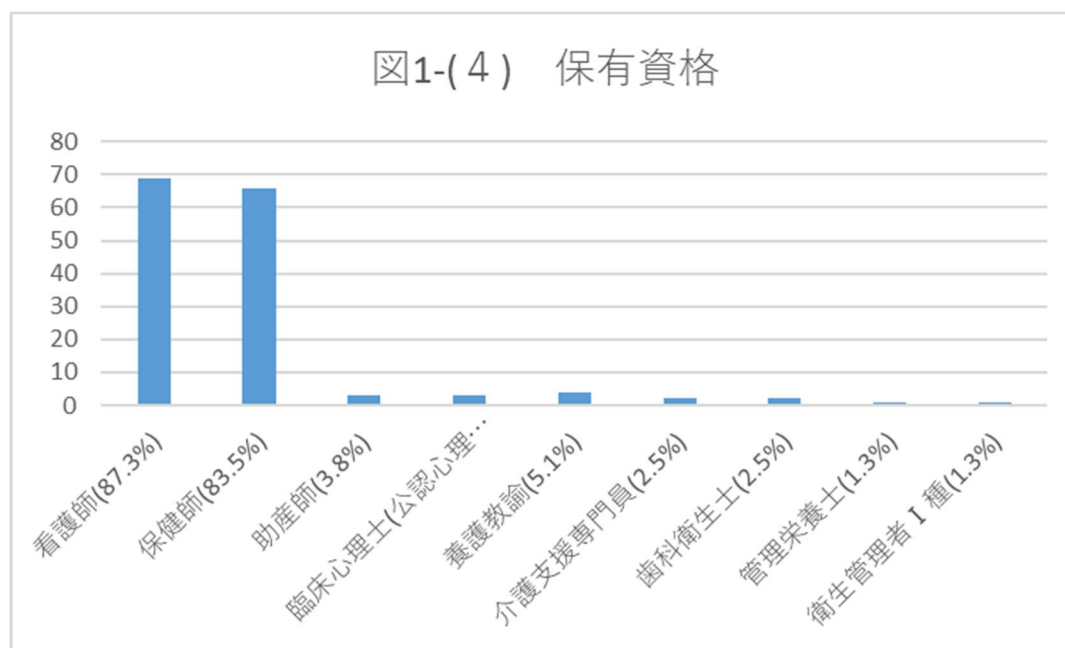
回答者の所属自治体は、地区別でみると(図 1-(3)①)、県南が最も多く 25 件で 31.6%、次いで沿岸が 20 件で 25.3%、県央が 12 件で 15.2%、県北が 11 件で 13.9%であった。市町村別でみると、市が 50 件で 63.3%、町村が 11 件で 22.8%であった。





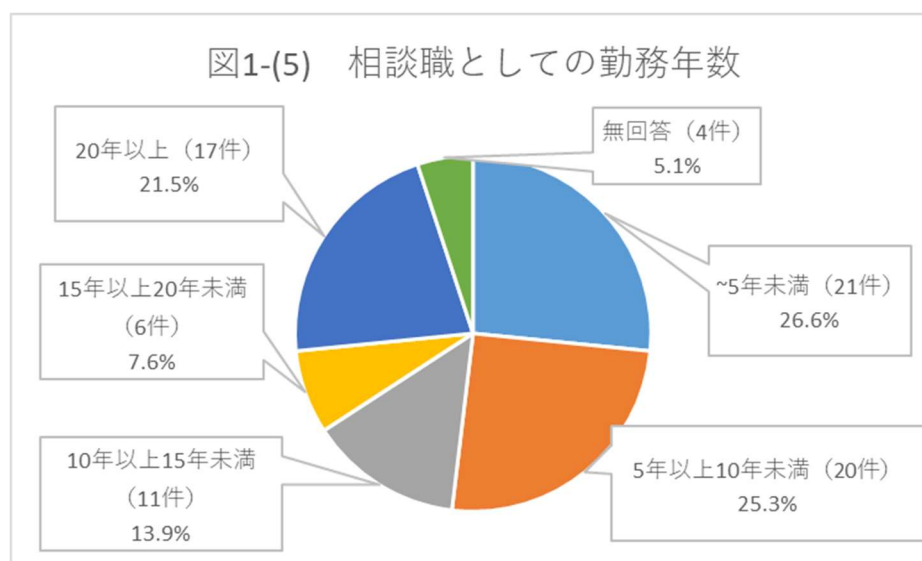
#### (4) 保有資格

保有資格については、複数回答となっている（相対度数の母数は 79 件）。最も多い保有資格は「看護師」で 69 件、全体の 87.3%であった。次いで「保健師」が 66 件で全体の 83.5%、「助産師」が 3 件で全体の 3.8%、「臨床心理士（公認心理師）」が 3 件で全体の 3.8%であった。医師・社会福祉士・児童指導員・保育士・幼稚園教諭・言語聴覚士の資格保有者はいなかった。その他の資格としては、養護教諭が 4 件で 5.1%、介護支援専門員が 2 件で 2.5%、歯科衛生士が 2 件で 2.5%、管理栄養士が 1 件、衛生管理者Ⅰ種が 1 件であった。



#### (5) 相談職としての勤務年数

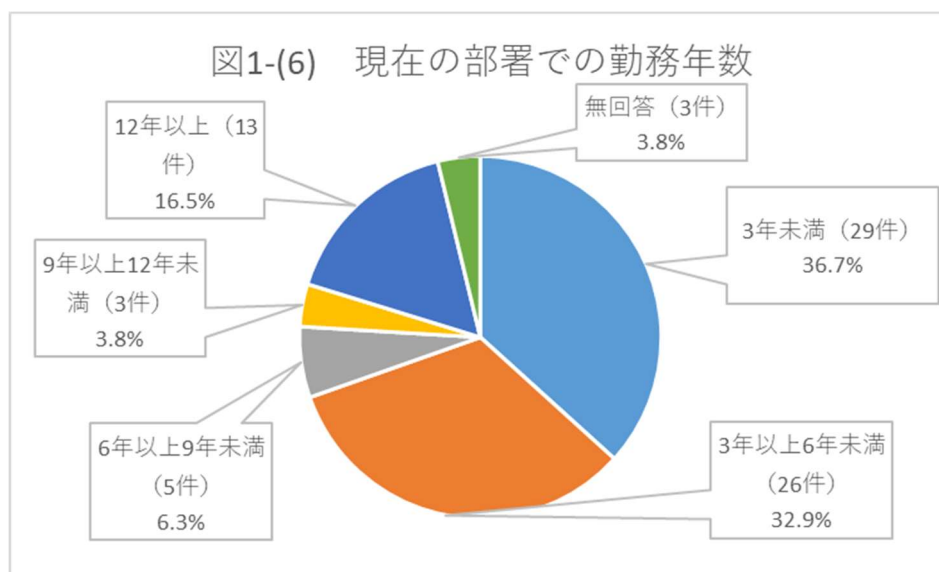
回答者の相談職としての勤務年数は、平均 11.3 年であった（無回答 4 件を除く 75 件の平均として算出）。実年数を回答してもらい、5 年ごとに区切ると、最も多い勤務年数の層



は「5 年未満」で 21 件 26.6%、次いで「5 年以上 10 年未満」が 20 件で 25.4%であり、0~10 年未満が全体の 52.0%となった。最長の勤務年数は 45 年であった。

#### （６）部署での勤務年数

回答者の現在の部署での勤務年数は、平均 5.9 年であった（無回答 3 件を除く 76 件の平均として算出）。実年数を回答してもらい、3 年ごとに区切ると、最も多い勤務年数の層は、「3 年未満」で 29 件 36.7%であった。次いで、「3 年以上 6 年未満」で 26 件 32.9%であり「~6 年未満」が全体の 69.6%となった。最長の勤務年数は、41 年であった。



#### （７）現在の業務内容

現在の業務内容について、自由記述にて回答をしてもらった。表 1-(7)は、具体的な記述を示したものである。母子保健業務が主となるが、なかには成人も含む多様な業務にかかわっている専門職いることがわかる。

記述内容について、KHCorder3（樋口，2020）を用いてテキストマイニングを行った。抽出語数 1,098 であり、上位 50 語を使った共起ネットワーク分析の結果が図 1-(7)になる。

「相談」「支援」「保健」が主な業務となり、「相談」や「支援」については、「子育て」「新生児」「乳幼児健診」という語彙と結びつきが見られ、また「訪問」などの語彙もあり、子に関する個別支援が中心となる。「保健」については、「事業」「成人」との結びつきがみられ成人を対象とした事業の展開、そこから派生するケースへのケアといった点が読み取れる。

表 1-(7) 業務の具体的な内容

具体的な記述	
歯科に関わる業務全般	発達相談、園訪問、療育へのつなぎ、就学へのつなぎ、発達検査
歯科保健指導、歯科医師等連絡、歯科業務全般	健康増進、精神保健、糖尿病性腎症重症化予防事業、など
母子保健、小児定期予防接種に関すること、健診・相談等の実施	母子保健業務（乳幼児健診、健康相談、新生児訪問、産前・産後サポート事業及び産後ケア事業の連絡調整、親子教室、保育園訪問、要対協ケースへの支援、母子手帳アプリ） 成人保健業務（成人の健診・がん検診・健康教室）、コロナワクチン集団接種業務
予防接種に関すること 新任保健師の育成に関すること 学生実習に関すること 岩泉地区の保健活動・学校保健に関すること	母子保健業務
母子保健担当	乳幼児健診、保健委員
母子保健・療育担当	成人けんしん事後指導関係、母子保健事業
1.6歳 13歳 ことばの相談 ・親子教室 ・もりっこ健診（乳幼児総合診査）	母子保健（乳幼児健診、相談、新生児訪問、妊婦訪問、思春期講座）
母子保健業務 精神保健事業 自立支援	母子、成人、高齢（母子…新生児訪問、妊婦訪問、4.7か月、2歳半、4歳半相談、1.6.3健、その他発達が気になるケースへの支援 成人…特定健診、がん検診 精神疾患患者への訪問 高齢…介護予防事業、認知症サポーター養成講座、介護サポーター養成講座、ケアプラン作成、認知症支援、その他担当地区の高齢者家庭訪問）
乳幼児健診	母子保健関係、予防接種関係、歯科保健関係、精神保健福祉関係、自立支援医療、精神保健福祉手帳関係
発達にかかわる相談業務	がん検診、特定健診等成人の健（検）診、乳幼児健診、ワクチン接種業務等
乳幼児健診、新生児訪問指導、発達に関する相談対応	乳幼児健診受診後、虐待ケースのフォロー、不妊治療費助成事業
妊婦面談、乳児・産婦訪問等、他業務	精神保健、自殺対策
・成人検診事業 ・精神保健事業 ・健康増進事業他	予防接種、乳幼児健診、児童虐待予防
・乳幼児健康診査 ・子育て支援事業	子育て、発達に関する相談、6か月児健診、そだちとことばの相談会（療育センターと連携）、不妊治療、あそびの教室（1歳6か月～3歳の母子の関わり方支援）
母子保健	精神保健・自殺対策（新型コロナウイルスワクチン接種対策室兼務・子育て支援課業務）
新生児訪問、むし歯予防の取り組み、就学時支援等	母子保健業務、予防接種業務
・妊娠届と母子健康手帳の交付に関すること ・妊婦、新生児訪問指導に関すること ・思春期保健に関すること ・産後ケアに関すること ・産前・産後サポート事業に関すること ・産後支援、育児支援サポーター派遣事業に関すること	妊娠、産後の相談、乳幼児健診、子育て相談、予防接種に関する相談、発育・発達に関する相談。母子手帳の交付、支援金に関する業務、乳児訪問
乳幼児健診、思春期保健事業（中学校での講演会開催調整）、発達支援に関すること	子育て世代包括支援センターにかかる業務
乳幼児健診、自部、相談訪問対応	母子保健業務（健診、相談、家庭訪問、保育園他関係機関との連携等）
母子保健・精神保健（主に）	母子保健
未熟児・新生児・乳児・妊婦の家庭訪問、育児支援教室従事、妊婦とその家族対象教室従事、乳幼児健診従事	子育て世代包括支援センター、子ども家庭総合支援拠点
成人保健、精神保健の主担当。その他、保険業務副担当。虐待官憲（要対協）は主担当。全般の相談業務。	子育て支援員
母子保健等	妊婦相談、母乳相談、育児相談、要対協ケースの対応と外部機関との連携調整、妊婦・産婦健診集計、流死産や乳児死亡の母及び家族の面談、母子保健手帳交付、大船渡病院との妊産婦の情報共有
保健師として、窓口、電話、訪問、来所相談。保健師からの報告、相談。係長業務	母子の育児相談、乳幼児の発育、発達における相談支援、乳幼児健診の運営等
母子保健相談員としての母子保健活動。具体的には、1.6歳、3歳児健診での問診、乳幼児相談での保護者の相談、赤ちゃん訪問、母子手帳交付での妊婦さんの相談等	母子保健全般（発達相談含む）、予防接種、後期高齢者に関する健診業務
母子保健業務。健診、各種教室、母子手帳交付など。	母子保健全般
乳幼児健康調査、問診、保健指導	母子保健担当
母子保健、成人、精神	母子保健
歯科保健全般、母子保健（妊婦、乳児健診等）	母子保健担当、乳健、相談、発達相談、家庭訪問、不妊治療助成
保健師統括、成人保健業務、障がい福祉業務	栄養改善事業
乳幼児健診、母子手帳の交付、特定妊婦への支援	母子保健業務
母子保健事業（乳幼児健診）	母子保健業務全て 児童福祉業務のうち要保護児童対策 地域協議会業務
小児慢性特定疾病	母子担当
乳幼児栄養相談（離乳食教室含む）、食生活改善、食育関係事業、特定保健指導、糖尿病重症化予防	赤ちゃん訪問、乳幼児健診、電話相談、電話訪問、来所相談、母子手帳交付
乳幼児健診、医ケア児支援、小児慢性特定疾病児童自立支援事業	子育て支援業務、健康相談業務
母子保健	子育て世代包括支援センターの業務に関すること
	主に予防接種担当

**Subgraph:**

01	06
02	07
03	08
04	09
05	10

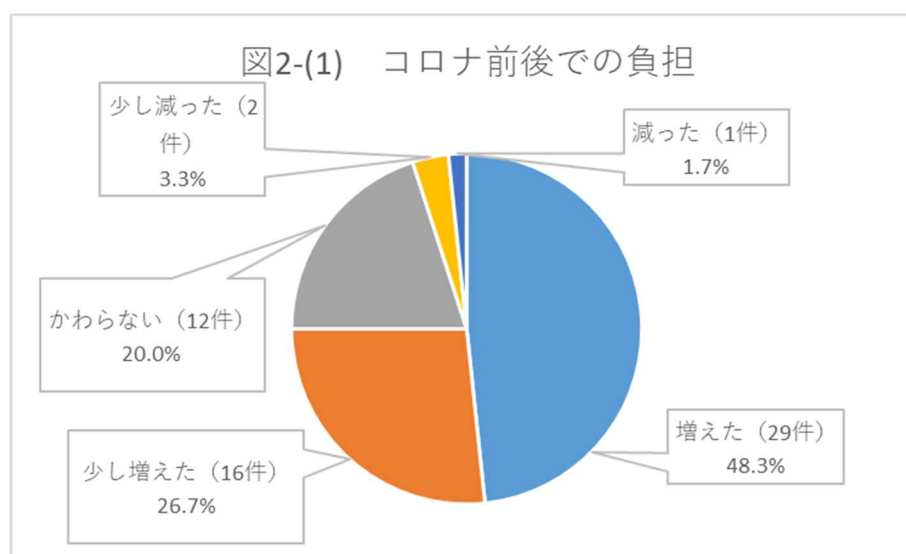
**Frequency:**

10
20
30

(1) コロナ禍以前とコロナ禍との業務負担の増減

コロナ禍以前（～2019 年度）とコロナ禍（2020 年度～）での業務負担について聞いたところ、コロナ禍以前に相談業務にかかわっていなかったため比較ができないとの回答が 19 件あった。そのため、この 19 件を除き、60 件で集計を行っている（図 2-（1））。

回答があった 60 件のうち、「負担が増えた」が最も多く 29 件、48.3%であった。次いで、「少し増えた」が 16 件、26.7%となり、合わせて 75.0%がコロナ禍以前とコロナ禍との業務を比較した場合、「負担が増えた」としている。

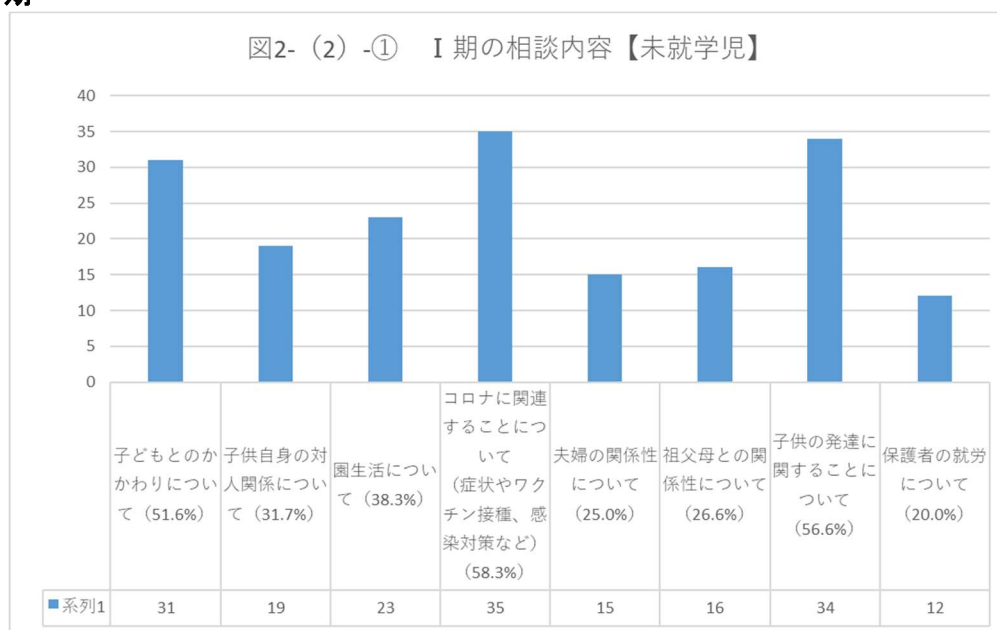


## （２）コロナ禍における保護者からの相談内容

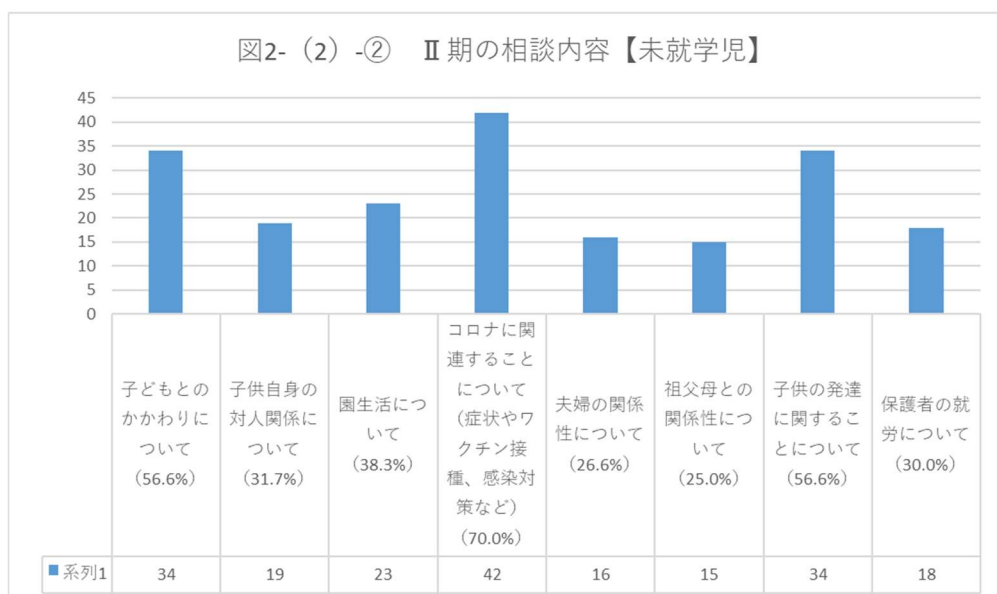
ここでは、コロナ禍をⅠ期「発生当初から第三回緊急事態宣言解除前（～2021年9月30日）」とⅡ期「第三回緊急事態宣言解除後（2021年10月1日～）」に分け、更に未就学児と就学児に分けて保護者からの相談内容について複数回答にて聞いている。コロナ禍を通して相談業務に対応していない19件は集計から外しているため、相対度数の母数は60件となる(n=60)。

### ①未就学児

#### Ⅰ期



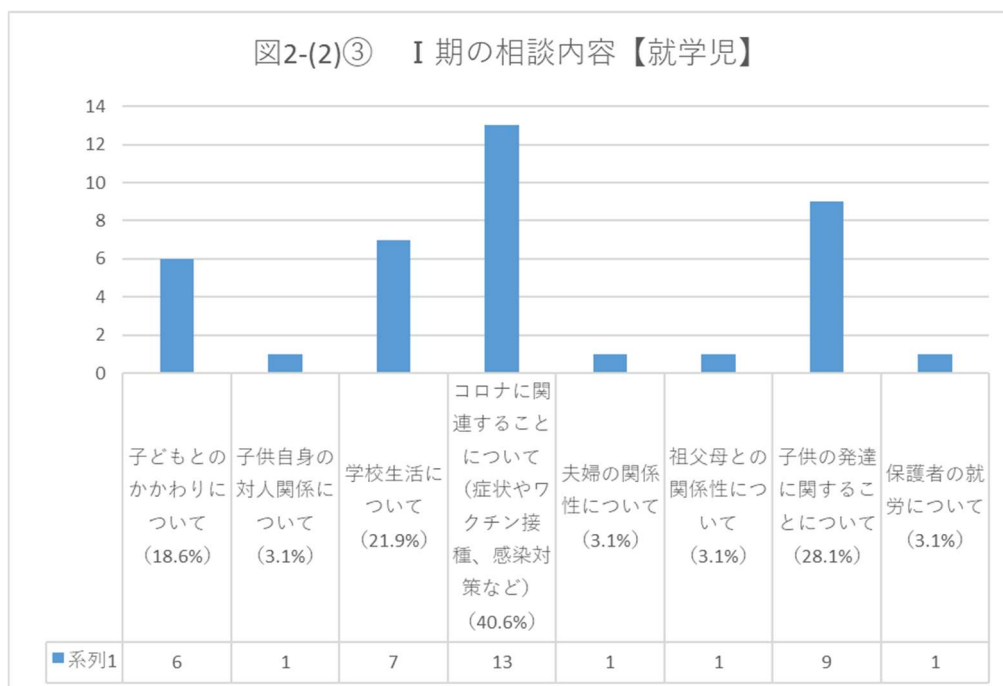
#### Ⅱ期



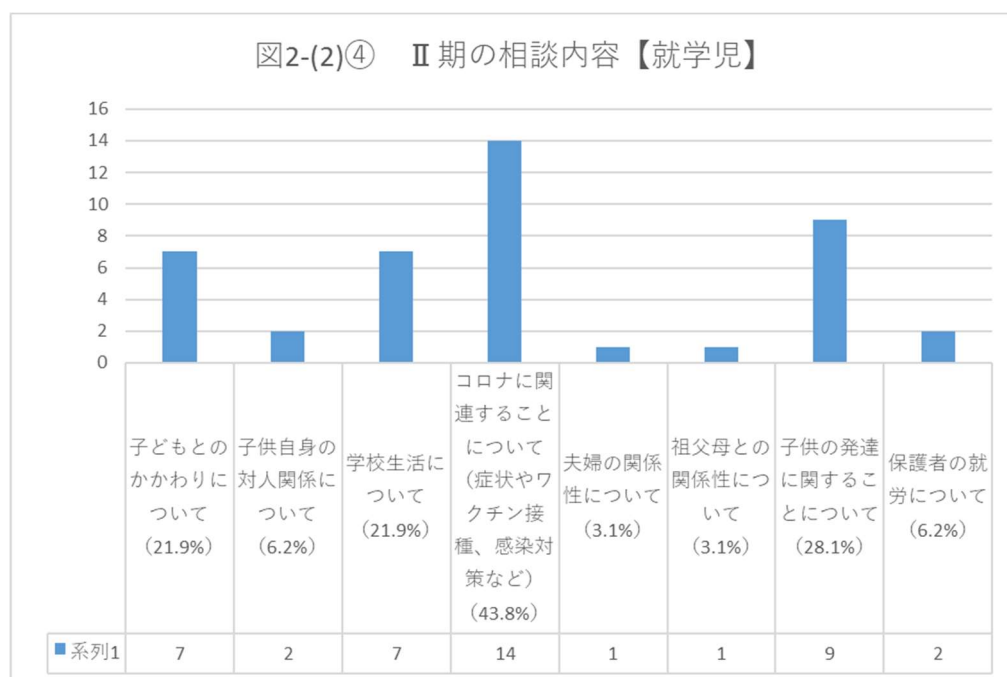
## ②就学児

就学時に関しては、コロナ禍を通して相談業務に対応していない 19 件に加え、就学時の相談業務には対応していない 28 件は集計の対象とはしない。従って相対度数の母数は 32 件となる(n=32)。

### I 期



### II 期

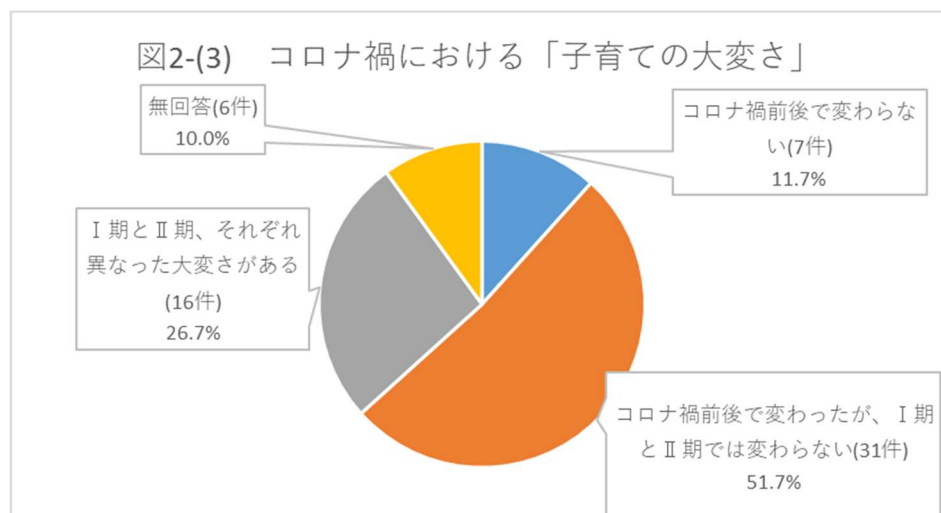


未就学児においても、就学時においても相談内容にⅠ期とⅡ期とでは大きな差はない。ただし、未就学児においても就学時においても、「コロナに関連することについて」の相談は多く、未就学児に関しては20ポイント以上もⅡ期において高い割合となっている。就学時において差はない(未就学児Ⅰ期:58.3%・Ⅱ期:70.0%、就学児Ⅰ期:40.6%・Ⅱ期:43.8%)。コロナ感染症発覚当初、高齢者および疾患を持っている人のリスクについて取りざたされることが多く、乳幼児の感染リスクについては背景に追いやられていた。時間の経過とともに、乳幼児においても感染が増え、そういった中での相談割合の増加と考えられるだろう。自由記述欄には、「コロナ禍の有無関係なく、1~8の相談はあり、特化して増えたのはNo4(「コロナに関連することについて」)」とあり、業務負担の多くは、「コロナに関連することについて」の相談対応であるといえる。

### (3) 相談業務から見てくるコロナ禍以前とコロナ禍での「子育ての大変さ」

#### ①子育ての大変さ

相談業務を通じて感じている「子育ての大変さ」について聞いた。コロナ禍以前に相談業務にかかわったことのないものは対象外となるため、母数は60件である。最も多かったのは、「コロナ禍前後で変わったが、Ⅰ期とⅡ期では変わらない」であり、31件51.7%であった。



#### ②どのような子育ての大変さか：「コロナが前後で変わったが、Ⅰ期とⅡ期では変わらない」

「コロナ禍前後で変わったが、Ⅰ期とⅡ期では変わらない」と回答したもの(31件51.7%)に、コロナ禍における大変さについて自由記述にて回答をしてもらった(25件の記述があった)(表2-(3)②)。感染リスクを考えての生活上の制限によって、ストレスを抱えている親の様子が見えてくる。

記述の結果 KHCorder 3 (樋口, 2020) にて分析をかけたところ、抽出語数 663 であっ



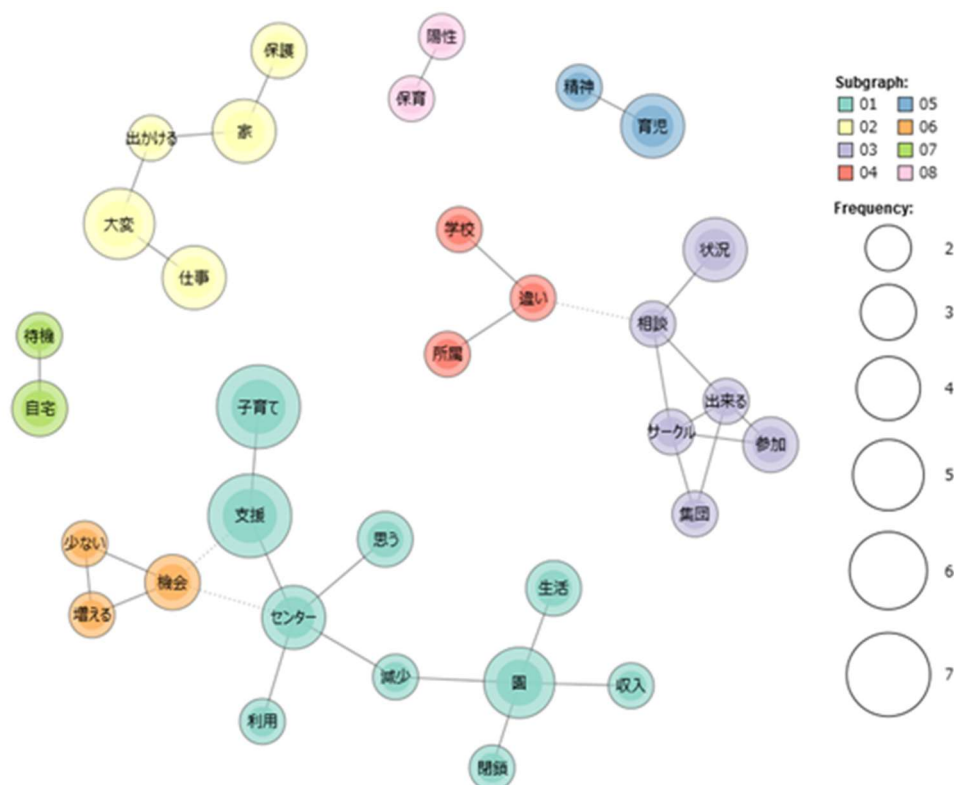
た。上位 30 語を使った共起ネットワーク分析の結果が図 2-(3)②である。子育て支援センターが閉鎖 or 利用減少となったり、保育園が閉鎖されたことにより、収入が減少したりとするなかで、家での生活が求められその大変さがうかがえる。

表 2-(3)② コロナ禍の子育ての大変さ(「コロナ禍前後で変わったが、Ⅰ期とⅡ期では変わらない」)

具体的な記述(Ⅰ期とⅡ期で変わらない)
感染対策を行いながら子供達の情緒的発達を促す体験をさせてあげること
多く人が集まる場所に子どもを連れていけない 保育園や学校が休校、休園になった時に子どもを誰が見るか、子どもの預け先
感染に注意している他、濃厚接触者や陽性者となった時の看護や保育、仕事の調整が大変なストレス
地域の教室等、参加できる子育て支援が少なく、家にいる機会が多くなり保護者のストレスが増えている
父母の収入の不安定さ、園での様子を直接見れず他児との差を確認できない(発達面)、両親学級の閉鎖、体調に伴う有給、その他の対応
子育て支援センターの利用にハードルの高さを感じる、園生活(集団生活)への不安 子どもの所属先でCOVID-19が流行すると、保護者も休まなければならなくなり、収入が減少する。
感染が心配
園の感染状況により、自宅待機や陽性になること、自宅で保育する時間が増えた。支援センターなど事業が少なくなり、交流の機会が減少した。
子育て支援施設、園の閉鎖により行き場がなくなり、他者との関わりが希薄になること
母子の気晴らし、他者との交流、育児知識を得る場などが無いこと
感染や濃厚接触者となったことにより、一定期間の自宅療養・待機の長さや密室状態での育児で、精神的な負担が大きくなる。預かってもらったり、外出してリフレッシュなどの方法がとれない。
子との関わり方がうまくいっていない
子育ての仕事に両立に大変さがあると思われる。
Ⅰ期Ⅱ期の違いというよりは、地域での感染拡大状況や所属(仕事や学校)しているところでの対応の違いに左右され相談内容が違ふ。
出かけたり支援センターなど遊び場へ行きたいと思っても、感染が怖く、家にこもりがちになり、育児の大変さが増す方もあった
感染対策、病院受診について
遊びに出かけられず、家の中での生活にストレスがある。園等の休園(コロナ関係)は親にとっても大変(仕事、子育て、家事)
感染対策で立ち合い出産や面会ができず入院中に気持ちが落ち込む産婦がいた。感染流行地域へ里帰りできず、支援者不足の中で育児をしている方が見られた。身体的にも精神的にも大変そうであった。
休日、休校による対応
集団での関わりができにくいので、サークルや子育て相談等への参加が出来にくい状況にある。特に入園前の母子の、サークル等への参加が出来にくい状況。
外出できず、母子共にストレスが溜まる
家にいる時間が長くなったことにより、児は経験不足、保護者は育てにくさ倍増
外出に制限があり、気軽に子育て支援センター等を利用できず、外へ出る機会が減った。他児との関わりや母同士の関わりが思うように持てない。
友達との関係作り
感染症対策(人との接触など)



図 2-(3)② コロナ禍の子育ての大変さ(「コロナ禍前後で変わったが、Ⅰ期とⅡ期では変わらない」)共起ネットワーク



### ③「どのような大変さか」：Ⅰ期とⅡ期の違い

「Ⅰ期とⅡ期でそれぞれ異なった大変さがある」と回答したものは16件であった。それぞれの大変さを、自由記述にて回答してもらい、KHCoder3（樋口，2020）にて分析をかけたところ、抽出語数は1,034語であった。表2-(3)③は、それぞれの期における回答の特徴語出したものである。

Ⅰ期は、不安、感染の語が上位にあることから、感染の不安や予防接種への不安による保護者の疲弊が読み取れる。外出しづらくなるなど、行動の制限による生活の変化への疲弊が読み取られる。Ⅱ期では、Ⅰ期では見られなかった「休む」が上位にあるが、これは感染したり、接触者になって、保育所や仕事を休まなければならないことと読み取れる。仕事と子育ての負担がのしかかり、サポートを頼むことが難しい状況下で保護者の負担が大きくストレスとなると考えられる。

表 2-(3)③ どのような大変さか

I 期		II 期	
不安	.333	休む	.250
感染	.318	負担	.250
外出	.250	接触	.188
時間	.250	仕事	.177
感染症	.177	子ども	.177
制限	.167	保護者	.177
コロナ	.125	増える	.167
行動	.125	コロナ禍	.125
出る	.125	気	.125
変化	.125	子供	.125

#### (4) 困難な状況に置かれていると感じた相談内容

相談業務の中で、「相談者が困難な状況に置かれていると、特に感じた相談内容」について自由記述にて回答してもらったところ、38 件の記述があった。KHCorder3 (樋口, 2020) にて分析をかけたところ、抽出語数は 1,751 語であった。図 2-(4)1 は上位 60 語を使った共起ネットワーク分析の結果である。図 2--(4)②は、AI テキストマイニングによるワードクラウドである。二つの図からは、コロナ禍によって子育て支援センターが閉鎖されることによる外出の制限、濃厚接触者になったことによる仕事の制限、また、母・母子という単語からもその対応が母に集中していることが分かる。コロナ感染のリスクから、祖父母などに子どもを預けられず疲弊する母の状況が確認できる、

図 2-(4)① 困難な状況に置かれていると感じた相談内容の共起ネットワーク

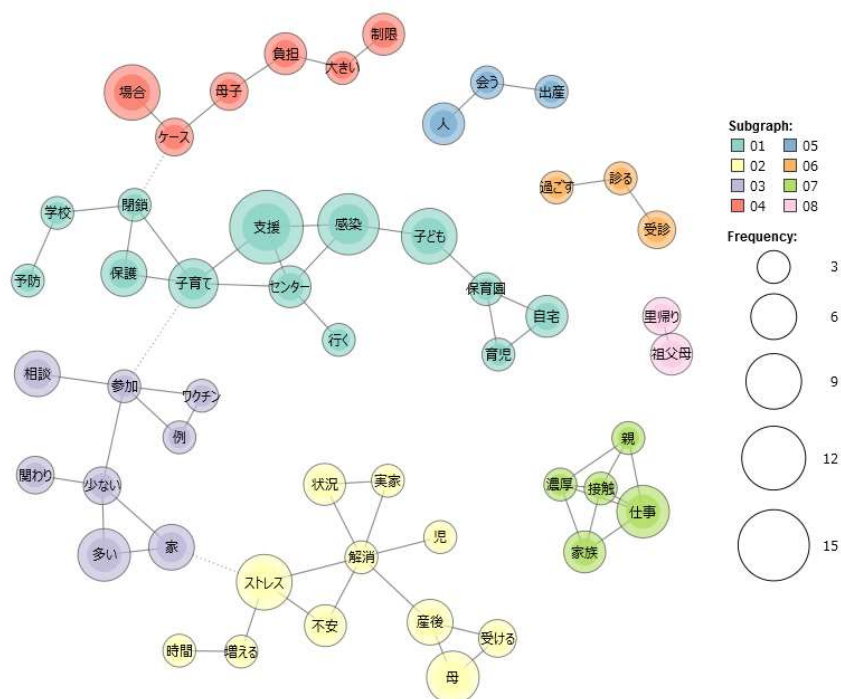
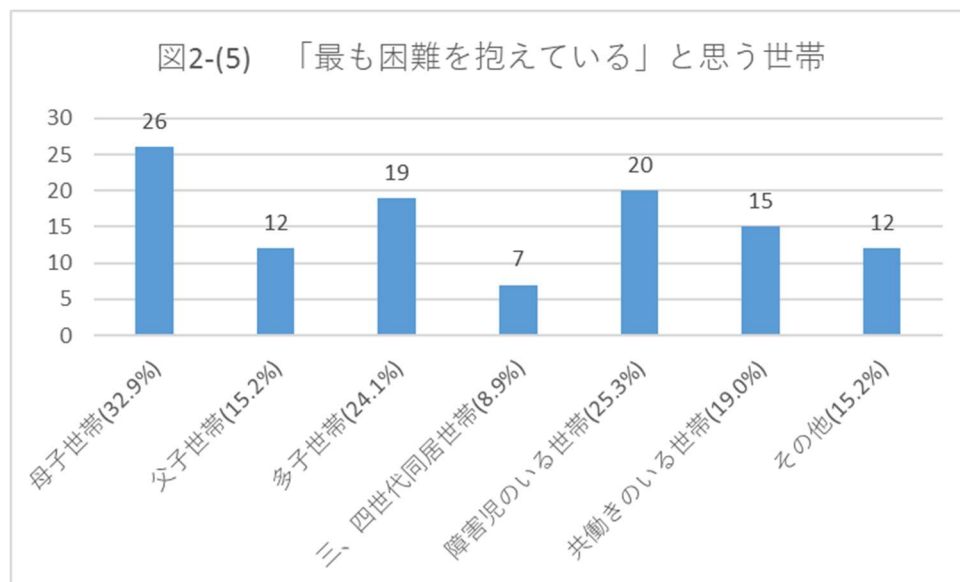


図 2-(4)② 困難な状況に置かれていると感じた相談内容のワードクラウド

(5) コロナ禍において「最も困難を抱えている」と思われる世帯

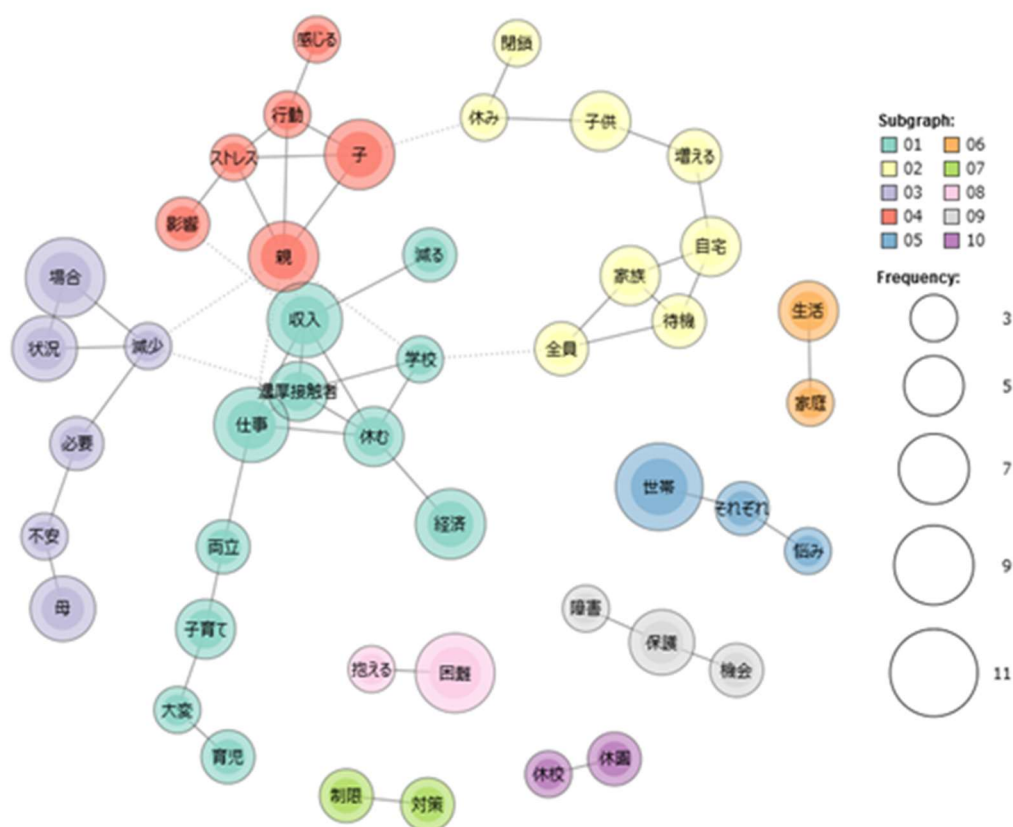
コロナ禍の子育てにおいて「最も困難を抱えている」と思う世帯について聞いた。回答を1つに制限すべきだったが、複数に○をつけているものがあり、参考まで分析をする。



コロナ禍の子育てにおいて「最も困難を抱えている」と思われるその背景についても自由回答にて記述してもらっている。KHCorder3（樋口，2020）（樋口，2020）（樋口，2020）にて分析をしたところ、抽出語数 1,393 語であった。図 2-(5)②は、上位 50 語を使った共

起ネットワーク分析を行ったものである。また、図 2-(5)③は、スコアが高い単語から作成された AI テキストマイニングによるワードクラウドになる。これらを見てみると、濃厚接触者となり、仕事を休まなければならない、収入の減少がみられるといった経済面の困難と、保育園の閉鎖や、自宅待機が余儀なくされる中で、行動制限がされている親と子の生活の中でストレスを抱える様子が見られる。上記状況は多くの世帯に確認されるが、「母子世帯」「障害児世帯」「多子世帯」はこの状況が大きいのしかかることは容易に想像がつく。

図 2-(5)② コロナ禍において「最も困難を抱えている」と思われる世帯の背景に関する記述の共起ネットワーク分析





## ②理由

現在の業務遂行上の困難感について「とても感じている」「まあ感じている」と回答した計 46 件に、その理由について自由回答にて記述をしてもらい、42 件の回答が得られた。図 2-(6)②は、業務上の困難さの理由について KHCorder3 (樋口, 2020) (樋口, 2020) (樋口, 2020) にて分析をかけたものであり、抽出語数 1,284 語であった。上位 40 語を使った共起ネットワーク分析である。通常の業務に加え、コロナ対策の業務が増えたことや、コロナの感染リスクから訪問・健診拒否等に対応せざるを得ない状況、また回答者本人や周囲の人の、待機が求められる状況は組織としての対応の困難さを招いており、負担感に繋がっているものと思われる。

図 2- (6) ② 業務上の困難感の共起ネットワーク

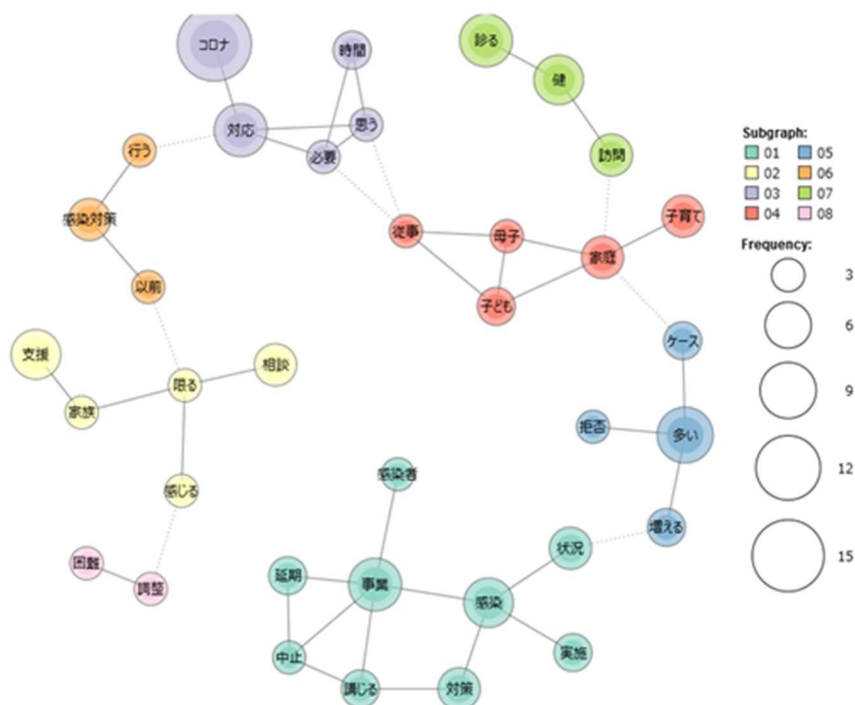




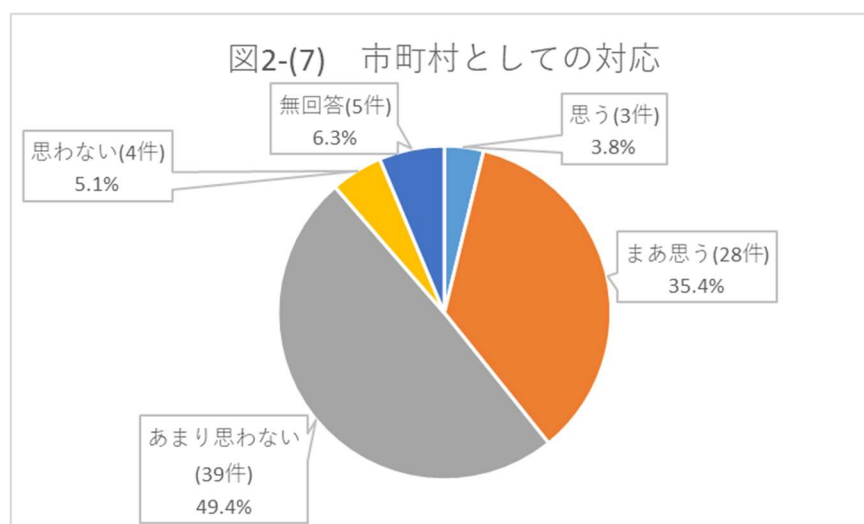
図 2-（6）② 業務上の困難感の記述

理由
通常業務に加え、新型コロナウイルスに関する業務が加わったため
通常業務でも人員が足りない状況の上にコロナによってさらに業務が増えているため
常に感染の状況をみながら、健診等実施しなければならないこと
COVID-19の集団接種にも従事していますが、国から出される方針がたびたび変わり、頭が追いつかないため。その他、医ケア児、子ども家庭センター等、法改正が多く、自分の頭が追いついていない。土曜、日曜も集団接種や成人の健診に従事するため、平日に代休が取得できるが、母子のケースの訪問、相談対応が基本的に平日しか行えないため、休養がとりにくい。スキルアップは必要だと思うが、休日は気分が憂うつで疲れてしまい、研修や講演会に行こうという気が湧き上がってこない。精神的な余裕がない。
・コロナが流行する前の保健活動が分からずこのコロナ禍での保健活動が母子や家族へ適切かどうか日々模索してる
コロナウイルス感染者の増加に伴い、事業が計画どおり進められないことが多々ある。（事業の中止・延期）
コロナ感染予防対策は行っているが、感染があった時の対応
親の拒否。自覚なく介入が難しい。生活困乏の相談、養育能力の低さからくる問題が多く改善がみられない
コロナのために業務1つをやるにも、コロナ対策を講じなければならない事で、普段よりも時間や人員が必要になる。コロナのために研修や会議が中止になったり、規模が縮小され充実度が低くなった。顔のつながりがなくなった。自己研鑽が思うようにできない。
周りで突然休みに入る職員がいると、調整しなければならない。しかし、業務もあり、調整に困難を感じる。
組織として感染予防対策が厳重すぎて、健診等の事業の延期、スタッフの在宅勤務による現場の人手不足、そして健診対象者の受診断り(兄弟のクラスが閉鎖、本児がカゼで内服等)をしている状況。
感染対策＝人とのかわりを避けるというイメージが変わらず、地域で実施しにくい場面が多い
気になる家庭があるが関わりを拒否することからなにもできないで見ているケースが多くなってきている。多職種のうけいれがある場合はそちらにまかせるようにしている
感染状況を含めた事業の立案、計画に悩む
業務のすべてにおいてコロナ前との変化が多すぎる。感染対策、コロナを心配しての訪問や乳健の拒否、以前よりお互いに風邪症状への敏感度増加による対応の量が増える。
コロナによる子のクラス閉鎖等で仕事を休まなきゃいけないことがある（相手手じゃなく、自分自身の問題）
乳幼児集団健診の運営において、感染対策と市の健診という範ちゅうで可能な体制づくりを行うジレンマ。予算との兼ね合いもあり
事業を実施するうえで感染症対策を講じながら実施している。感染者が発生しないか常に気をつけている
コロナ対応をどこまで行か
感染対策を講じながら業務（事業）を行うこと。自身が濃厚接触者にならないように仕事以外でも制限しながら生活している。事業中止や延期になった時の対応を講じること。
病識のない産婦への受診のすすめ方について 若年産婦の育児支援について
離乳食教室等で、食に関する実習ができていない
感染対策のため以前のように相談時間、方法が限られる
1人あたりの業務量が多く、時間内に仕事を終えることができていないため
保健所へ求める情報が保健センターにくる。
教室等の開催ができない。
コロナ対策・ワクチン接種への対応も通常業務に平行してある→上司もその対応をされていて業務の相談をしづらい
家族、周囲から支援がうけにくいことによる子育て家庭の孤立化。→訪問を延期したり、子育て広場等の利用もしにくかったり
多忙のため
コロナに限らず、家族背景が複雑化、特にも経済面に関する相談への支援は行政では使えるサービスが限られており、支援したくてもできない。行政サービスの限界を感じる。
密をさける会場設定など環境整備
気になる発達がある児に対して支援する中で、保護者の困り方がないと支援難しい。どう関わればいいのか
新型コロナ感染症に罹患したくないという理由で、面接や訪問を断られることがある。
感染リスクがある中での各業務の従事
困難ケースが増加しており、支援の方向性等悩まされる
どの程度まで保健事業を遂行していいのか判断に困る。少人数に限定して子育てサロンを企画しても、参加者が集まらない。子どもと会う機会が減ってしまい、母子関係・家庭環境が更に見えにくくなっている。2
集団健診への出席の可否を判断しなければならないこと。低年齢で、体調を崩しがちとなると、風邪症状の有無という点で、出席できない場合があり、その後の日程調整が困難となる。
解決しがたいケースが多い
子育てしている妊婦さんから不安の訴えが、以前より増しており、予定していた業務が終了できない時がある。
感染者が増えている状況で大人とも接する機会が多いため、子どもたちと接することで子どもたちを感染リスクにさらしているのではないかと心配している。
コロナを理由に健診や家庭内訪問断れる。
人とのつながりやマスクをかけているので表情が読みとれなく発達へ影響する可能性
ゲーム時間など多くなる危険があり、増々ゲーム、ネット依存が増えるのではないと思う。通常の子育てをていねいに指導しつつ、関わりの部分への課題をていねいにききとり、対応していくことが必要だと感じているため

## (7) 市町村としてコロナ禍において困難を感じている世帯に対応できているか

### ①割合

コロナ禍において、市町村として、「困難を抱えている子育て世帯に十分に対応できていると思うか」聞いたところ、「思う」と回答したものは3件で3.8%、「まあ思う」と回答したものは28件で35.4%、「あまり思わない」と回答したものは39件で49.4%、「思わない」は4件で5.1%となった。



### ②理由

コロナ禍において、市町村として、「困難を抱えている子育て世帯に十分に対応できている」と「思う」「まあ思う」と回答した31件にその理由を聞いたところ、22件から回答が得られた。図2-(7)②はKHCorder3(樋口, 2020)にて分析をかけて物であり、抽出語数618語であり、上位20語を使った共起ネットワーク分析の結果である。表2-(7)①はその記述内容である。感染対策をしながら、可能な範囲で個別対応を継続している様子が見られる。



図- (7) ②市町村としてコロナ禍において困難を感じている世帯に対応できているか：記述の共起ネットワーク

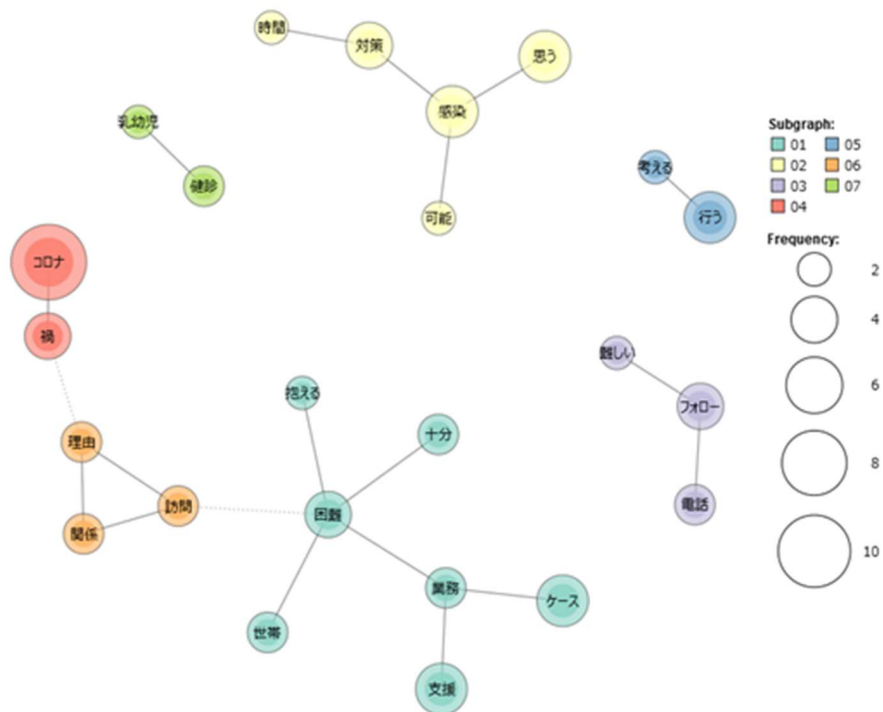


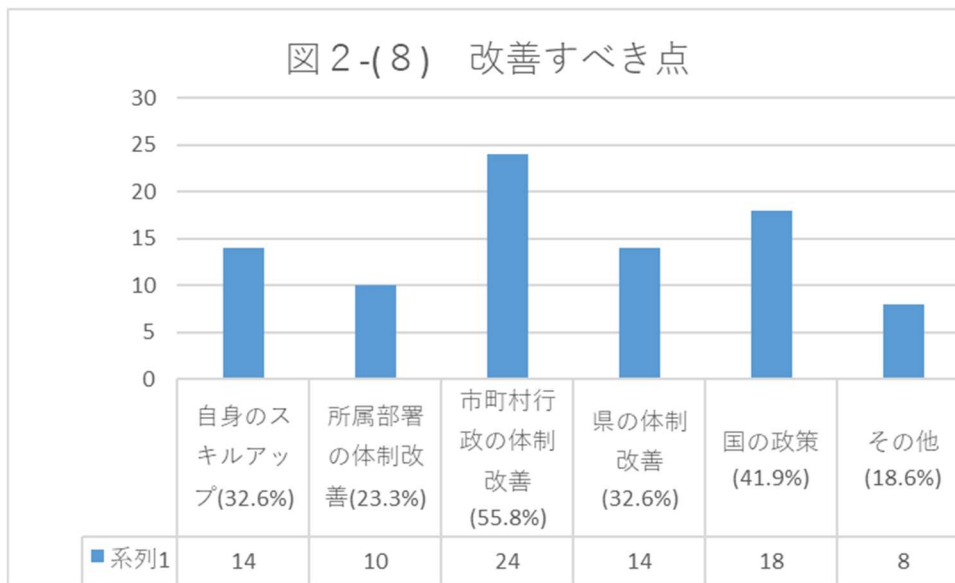
図- (7) ②市町村としてコロナ禍において困難を感じている世帯に対応できているか：記述

対応できていると思う理由
コロナ感染者に対しての、健診等での柔軟な対応
感染対策を講じたうえで、家庭訪問や関係者とのミーティングを行っている。コロナを理由に、必要な面談を行わなかったということはないと思う。
個別にケースにかかわっている。出生数も少ないが、手厚くフォローしていると思います。
子どもの人数が多くないので、十分に対応ができている
コロナ禍の中でできる範囲で対応しているか不十分か
対応についてはコロナ前後で（内容にもよるが）大きな変化はないと感じる
相談体制の充実
コロナも長期化し、傾向と対策については十分に検討する時間も過ぎている。コロナ禍によらず、困難世帯への対応については引き続き対応をしたいという思い。
相談の場を変わず設けて、相談にのり対応していると思う。（感染対策を徹底し）
乳幼児健診で子育て世帯に会う機会があるから。
中止になった乳健後にはTelフォローをした、給付金を行った、どこまで”コロナに対する支援”と考えるか難しい
感染対策を行った上での対応（少人数での事業開催、時間の短縮等）や、電話相談などを充実させることで、対応可能と考える。
健診時に、母の体調面、発達に気になる方には必ずフォローしている。また、所内・電話相談からつながられる教室があるため、支援体制はあると感じる。
困難事例において、コロナ禍関係なく支援している（訪問・相談業）まれにコロナを理由に面会を断られたり、関係機関（特に病院）とのケース会議がスムーズに行かないこともあった。（コロナワクチン業務によっても、他業務を圧迫している）
相談があったケースについては対応しているが、相談に至っていないかくれたケースもあると思うから
困難を抱えている世帯を把握した際には、電話や訪問、または毎月の相談日の来所をすすめ、継続的に対応している。かわかりが難しくならないよう、スタッフで協力して保護者のフォローを一生懸命続けているところ。
コロナ禍であることを理由に対応できないという事が今のところないと感じるため。
困難を抱えたケースには支援を行うようにはしているが、十分とは言えない。→業務量や遊びの場や相談の場の不足などが課題となっている。
工夫しながら母子保健事業のほとんどを実施している。
感染状況や本人の希望をききながら相談を受け、適時対応ができていると思う。
何かあったら、相談してほしいことを伝え、自由民との信頼県警の構築を心がけているから
たとえば、乳幼児健診において、コロナ感染が心配な方には、可能な限り個別で対応し支援している。

## （８）解決の糸口

### ①割合

コロナ禍において、市町村として、「困難を抱えている子育て世帯に十分に対応できている」と「あまり思わない」「思わない」と回答した 43 件に、解決の糸口について聞いてみた。最も多かったのは、「市町村行政の体制改善」であり、24 件で、55.8%、次いで「国の政策」であり 18 件で 41.9%であり、「自身のスキルアップ」が 14 件で 32.6%であった。国の政策に翻弄される中で、市町村の体制を整えることが出来ず、自身のその責任を感じてしまっている状況が見えてくる。



### ②理由

表 2-(8)は、記述内容を示したものである。選択した項目を示した上での記述を求めているが、項目が示されていないものが多々あった。とはいえ、全体的な傾向としては、人的な資源の限界、それを裏付ける制度・財源の無さが指摘できよう。制度・政策の在り方に翻弄される現場の様子がみてとれる。

表 2- (8) 解決の糸口の記述

記述内容
地域における十分な医療体制の整備
(市町村行政の体制改善).職員のマンパワー確保、職員の共通理解 (国の政策).個々の対応を柔軟にできる制度、財源
人員増員
(その他).人員不足、有資格者の確保
(所属部署の体制改善).シフト調整 (市町村行政の体制改善).福祉の専門職(社会福祉士等)を増やしてほしい。(自身のスキルアップ).コロナ禍で困っている子育て世帯に実際にどのような支援が行われているのか、研修会があればいいと思います
コロナ禍における対人相談方法、
(市町村行政の体制改善).(県の体制改善). 予算や人員体制の改善など
(自身のスキルアップ).子育てに関係する知識だけでなく、対象者からの相談に幅広く対応できるための知識
(自身のスキルアップ).(市町村行政の体制改善).相談しやすい人・機関でなければならぬし、よりPRしていく必要を感じる。(国の政策).お金だけでは解決できないことの方が多いと思うため
(自身のスキルアップ) コミュニケーション力 (所属部署の体制改善) 相談内容に対して役場内の部署への適切なつなぎ
(市町村行政の体制改善).(県の体制改善).県と市町村の連携がスムーズかつ密に図られると良いと思う
コロナにかかわらず、子育てしやすい環境を整えるには保育料無償化や出産費用の助成などの施策を整える必要があると思います。
医療の充実
(所属部署の体制改善).(市町村行政の体制改善).(県の体制改善).(国の政策)→どこと言えば分かりませんが、継続的な経済支
(所属部署の体制改善), (市町村行政の体制改善), (県の体制改善): 人材の増員
・単発的な現金給付ではなく、児童手当・児童扶養手当の継続的な増額
・支援者不足の家庭に対する保育時間の延長 濃厚接触ではなく、風邪等他の疾患による発熱をした子どもを無償で預かってくれる場所の整備
母子保健に関わる専門職が少ない。対応困難な事例が増えているが、スキルアップを図る研修を受ける機会が少ない。
・感染者把握の体制、対象者 ・支援のメニュー ・関われる体制
・情報周知 ・自身のアンテナを高く保つ
・スタッフはワクチン予防接種対応でも時間を取られている。通常の業務も余裕なくこなしている状況です。(q(自身のスキルアップ)7に続く回答あり)
困難をかかえている世帯をする社会資源そのものが少ない。他の市町村と広域で社会資源を作れないか。
宿泊型の産後ケア。(所属部署の体制改善)(県の体制改善)hr.の一時託児所
こちらが困難を抱えていると思って、親からの発信がない。このようなサービスがあるので利用してみてもは？とすすめる程の体制も町としてなかったと思う。
(所属部署の体制改善).(市町村行政の体制改善) 人員増員 (県の体制改善) (保健所の応援に市職員が協力しているため) 市に頼らなくても済むように人員増員や業務を改善する。(ムダを省く) (その他) 市・県・国でムダな調査や集計、アンケート、業務のチェック等をやめること。またはやり方を容易にすること。
コロナ予防対策の緩和(陽性者、濃厚接触者の取り扱い)
コロナによる生活や社会経験の不足が関係性や生活にも長く影響している。マスクをつけない通常の生活に戻れるように国の政策を出してほしい
コロナによる制限、早くなしてほしい。旅行すすめたり、ワクチンすすめたり、行動制限したり何がしたいかわからない。
職員体制
zoomやネット回線の活用
人的体制が取れず、通常業務に対しても十分に対応できたとはいえない。・仕方のないこととは思いますが、制限や施策が様々変わること、対住民の我々には、住民説明にも苦労した。金銭的な支援(施策)もあったが、実際に事務を執る行政のことも考えた施策をしてほしい。
児相の拡充が必要だと思う

### 3. 業務上の困難感とのクロス集計

以下では、現在の業務遂行上における困難感を従属変数としてクロス集計を行った。各セル度数が少ないため、読み取った傾向については、参考程度にとどめてもらいたい。なお、「とても感じている」(18件)と「まあ感じている」(28件)を統合し、「感じている」(46件)、「あまり感じていない」(30件)と「全く感じていない」(2件)を統合して「感じていない」(32件)とし、分析をしている。無回答を除き N=78 であり、相対度数はそれぞれの独立変数の無回答を除き算出している。

#### (1) 年齢×困難感

図3-(1)は、年齢における現在の業務遂行困難感を見たものである。個々の区分ごとで見ると、傾向が読み取りにくいので、1(2)に従い、子育て世代で分けてみた場合、「50歳以上」と「50歳未満」でみてみると、50歳未満の方が、困難感を抱えている状況が分かる。

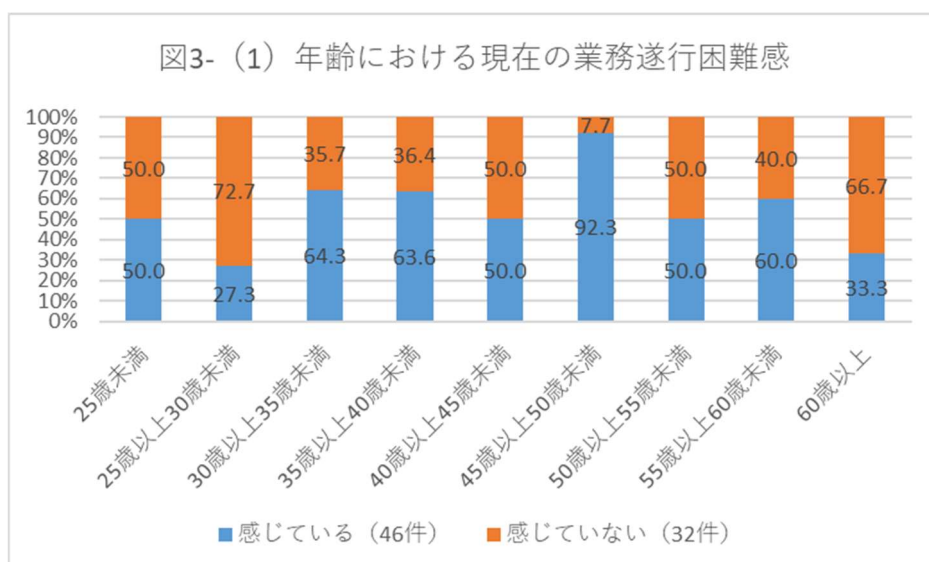


表3- (1) ① 年齢における現在の業務遂行困難感

	感じている (46件)	感じていない (32件)
25歳未満	3 (50.0%)	3 (50.0%)
25歳以上30歳未満	3 (27.3%)	8 (72.7%)
30歳以上35歳未満	9 (64.3%)	5 (35.7%)
35歳以上40歳未満	7 (63.6%)	4 (36.4%)
40歳以上45歳未満	4 (50.0%)	4 (50.0%)
45歳以上50歳未満	12 (92.3%)	1 (7.7%)
50歳以上55歳未満	3 (50.0%)	3 (50.0%)
55歳以上60歳未満	3 (60.0%)	2 (40.0%)
60歳以上	1 (33.3%)	2 (66.7%)
無回答	1	

N=78、ただし独立変数の無回答は省き相対度数を算出。

表 3- (1) ②50 歳を区切りとしてみた現在の業務遂行困難感

	感じている (46件)	感じていない (32件)
50歳 未満	38 (58.4%)	25 (41.6%)
50歳以上	7 (50.0%)	7 (50.0%)
無回答	1	

N = 78、ただし独立変数の無回答は省き相対度数を算出。

## (2) 相談業務勤務年数 × 困難感

図 3- (2) は、相談業務勤務年数と困難感のクロス集計の結果である。相談業務勤務年数が 15 年以上の方が困難感を感じてゐる。相談業務勤務年数が短い場合は、現在の困難感を以前と比較するにしても、材料がない（コロナによる忙しさなのかどうなのかわからない）という状況なのではないかと推測する。

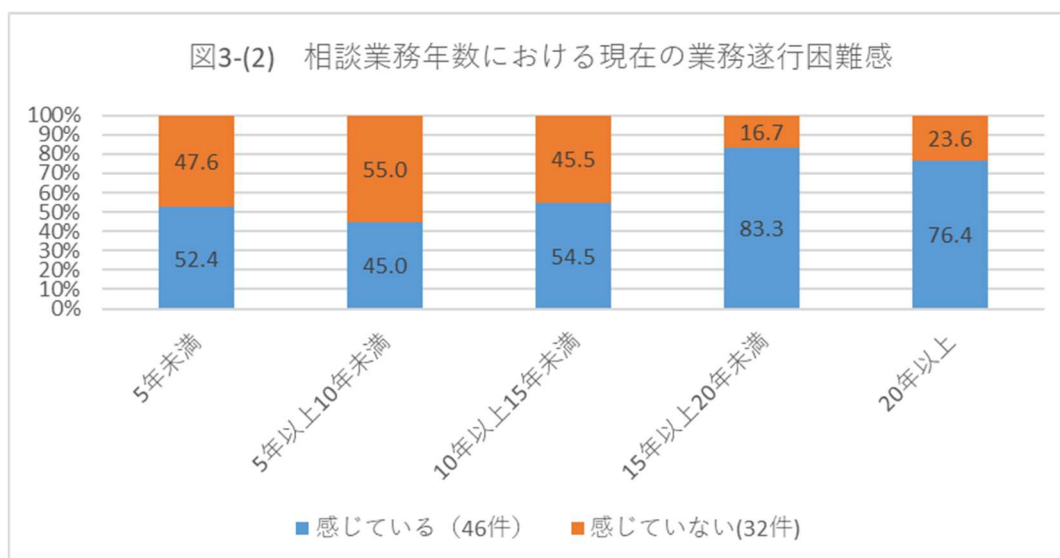


表 3- (2) 相談業務年数における現在の業務遂行困難感

	感じている (46件)	感じていない (32件)
5年未満	11 (52.4%)	10 (47.6%)
5年以上10年未満	9 (45.0%)	11 (55.0%)
10年以上15年未満	6 (54.5%)	5 (45.5%)
15年以上20年未満	5 (83.3%)	1 (16.7%)
20年以上	13 (76.4%)	4 (23.6%)
無回答	2	1

※N=78、ただし独立変数の無回答は省き相対度数を算出。

### (3) 部署勤務年数×困難感

図3-(3)は、現在の部署勤務年数と困難感のクロス集計の結果である。勤務年数が6年以上において困難感を感じる様子が見て取れる。(2)と同様に、部署勤務年数が短い場合は、現在の困難感を以前と比較するにしても、材料がない(コロナによる忙しさなのかどうなのかがわからない)という状況なのではないかと推測する。

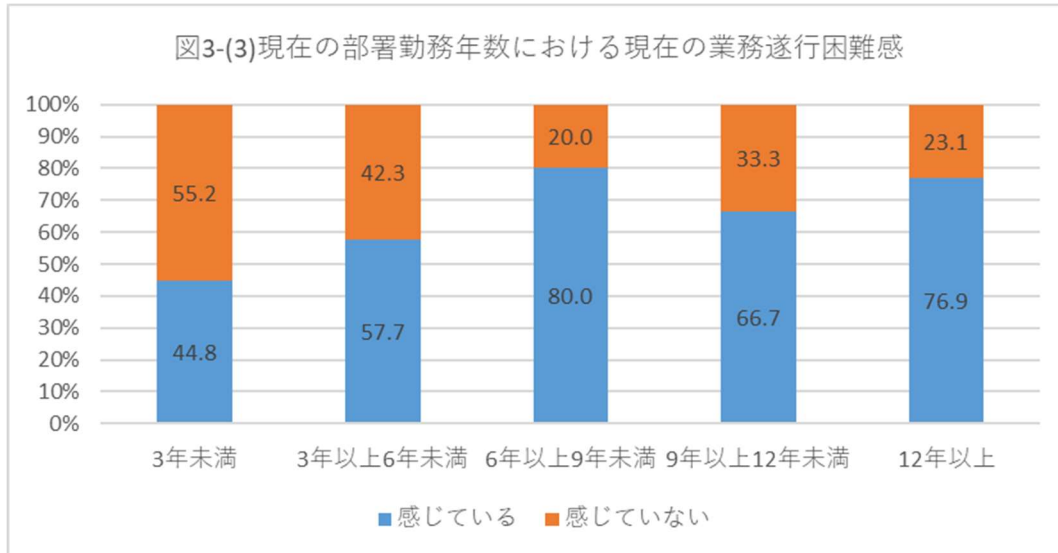


表 3-(3)現在の部署勤務年数における現在の業務遂行困難感

	感じている (46件)	感じていない (32件)
3年未満	13 (44.8%)	16 (55.2%)
3年以上6年未満	15 (57.7%)	11 (42.3%)
6年以上9年未満	4 (80.0%)	1 (20.0%)
9年以上12年未満	2 (66.7%)	1 (33.3%)
12年以上	10 (76.9%)	3 (23.1%)
無回答	2	0

※N=78、ただし独立変数の無回答は省き相対度数を算出。

#### (4) コロナ禍相談業務増減×困難感

図 3-(4)は、コロナ禍における相談業務の負担増減感と現在の業務遂行困難感のクロス集計の結果である。コロナ禍において、業務量の負担が増えたと思っている人は、困難感を感じていることが分かる。

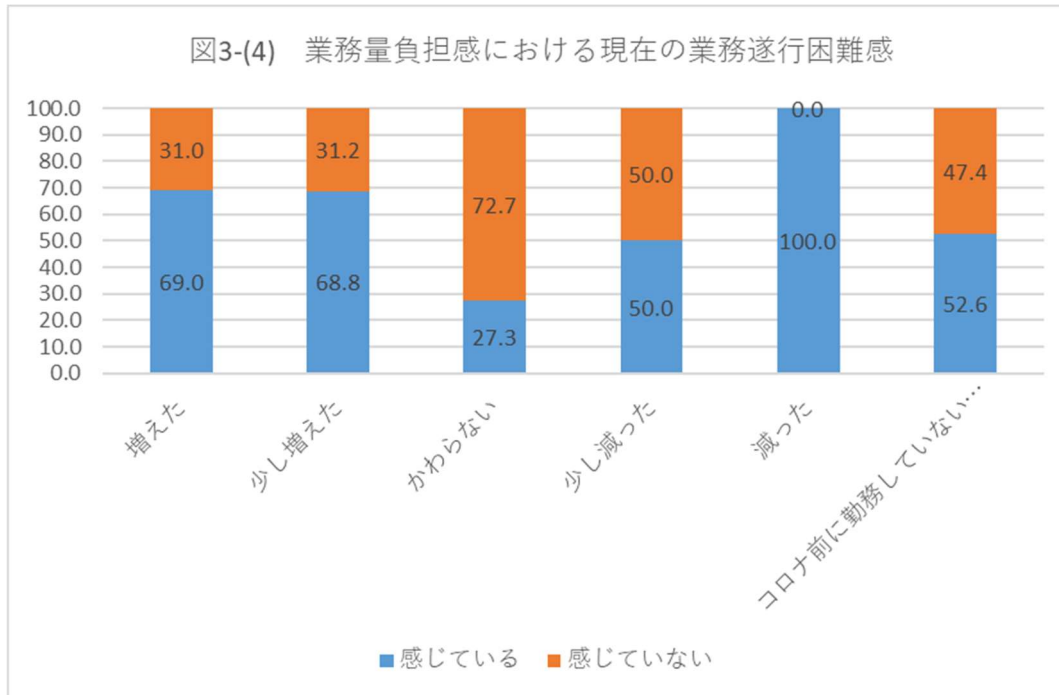


表 3-(4) 業務量負担感における現在の業務遂行困難感

	感じている (46件)	感じていない (32件)
増えた	20 (69.0 %)	9 (31.0%)
少し増えた	11 (68.8 %)	5 (31.2%)
かわらない	3 (27.3 %)	8 (72.7 %)
少し減った	1 (50.0%)	1 (50.0%)
減った	1 (100.0%)	0 (0.0%)
コロナ前に勤務していないのでわからない	10 (52.6%)	9 (47.4%)

※N=78、ただし独立変数の無回答は省き相対度数を算出。



### (5) 自治体地区別×困難感

図3-(5)は自治体の地区別に見た現在の業務遂行困難感のクロス集計の結果である。比較的人口数が多い県央・県南において、困難感を感じている人が多いことがわかる。

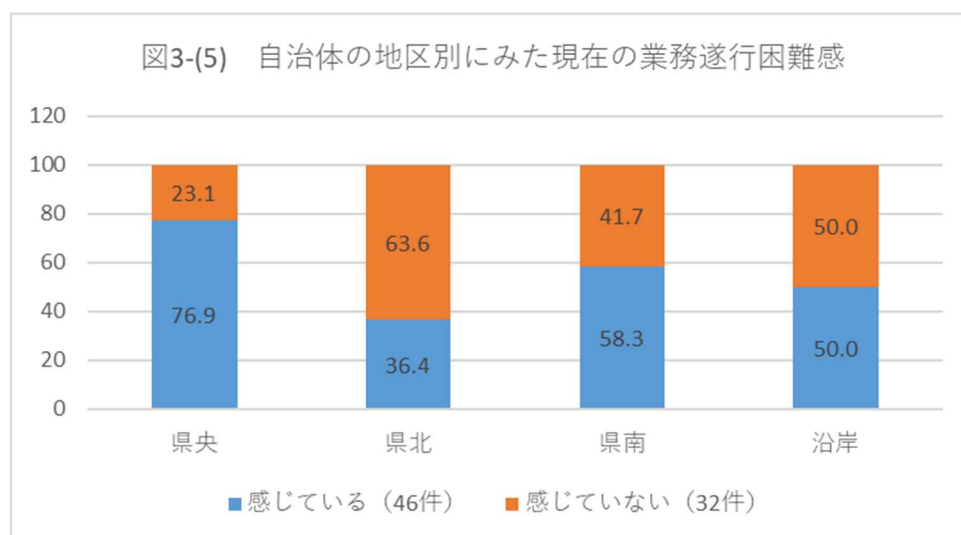


表 3-(5) 自治体の地区別に見た現在の業務遂行困難感

	感じている (46件)	感じていない (32件)
増えた	10 (76.9 %)	3 (23.1%)
少し増えた	4 (36.4 %)	7 (61.6%)
かわらない	14 (58.3 %)	10 (41.7%)
少し減った	10 (50.0%)	10 (50.0%)
無回答	8	2

※N=78、ただし独立変数の無回答は省き相対度数を算出。

## 4. 自由記述の分析

表4-1と4-2は、「最後に、コロナに関すること、あなた自身のこと、業務に関すること、調査に関すること、何でも構いませんので、ご自由にお書きください」と尋ねた問に対する回答の一覧である。これまでの単純集計およびクロス集計の結果を踏まえ、関連すると思われる部分を赤字で記している。

2 (1) で示したように、コロナ禍以前と以後とでは、業務の負担が増えたと感じている人は、「増えた」(29件)、「少し増えた」(16件)を統合すると全体(n=79)の75.0%であった。3 (3) で示したように、業務量が増えたと感じている人の方が、現在の業務遂行においても困難を抱えている状況が分かった。2 (7) において、市町村として、困難を感じている世帯に対応できているかと聞いたところ、「あまり思わない」が39件で全体の49.4%であった。2 (8) でみてきた解決の糸口として、市町村行政の体制改善(55.8%)と国の政策(41.9%)が上位にあり、次いで自身のスキルアップが32.6%であった。



全体的な記述として、上記点につながる記述が多く見られ、その根底にあるものは「人員不足」である。国の政策に翻弄され、現場が動かざるを得ない状況がよくわかる。「災害と思って対応しろ」という上司の言葉のもと動かざるを得ないが、人員不足、終わりが見えない状況の中で、疲弊する専門職の姿がみられる。そして、自身も同様に、家族を抱え、コロナを心配しながら働く労働者である。人員が少ない状況で、そういった不安を抱えながらの対応は、自身においても組織においても、困難な状況をもたらしている様子が見て取れる。

表 4-1 調査に関する自由回答記述の内容

調査に関する自由回答記述の内容
自分自身、子育て中であり、我が子の通う園が休園時になった場合、出勤困難で休むことが多くあった。そのため、訪問予定等の変更を余儀なくされ迷惑をかけてしまったと感じている。又、コロナワクチンのために看護休暇を使用するが、もともとの健診や予防接種、体調不良に加え、コロナワクチンも加わり、10日ではやや足りないと感じる。住民も、家族がコロナ感染等の理由で訪問延期とした事例が多くあった。
予測困難な世界的な事業なので大変はあたりまえで、対応されている方々は日々ご努力されていることに感謝はしています。3年と長期にわたり自縮され寝る時間も惜しんでの対応お疲れ様です。早くインフルエンザのように早い診断され、だれでもどこでも内服薬等で療養できワクチンでの予防も定着する。それほご不安に思わず生活できる日々を望みます。
前例のない世界的パンデミック、そして長期化…子育て世帯のなかでも特に支援を必要としている親子に十分に寄りそうことが出来ないジレンマもあります。でも、子どもは成長・発達過程であることを忘れず、支援のタイミングを逃さず、必要な場合は（コロナ時代であっても）介入することは大切と感じています。親と支援者で、子どもに必要な場合は支援の必要性がしっかり共有できればよいと思います。
市町村や県の支援は、国の政策に基づいて提供されるが、市町村への負担等も考慮した政策にしてほしい。経済的な支援のみではなく、事務量もかなり増加するため、人的支援がほしい。
・マンパワーの不足・業務が雑多（感染対策等で）であるが、従来の人数では負担が大きい・職員自身の感染時のフォローが出来ず、他の業務を滞らせフォロー合っている・職員が忍耐で、日々を乗り切っている様子に感謝と頭が下がる思いで自身が出来ることを務めている
調査・研究ありがとうございます。コロナのない世の中になることを願うばかりですが、簡単にはいかないと思います。教育・保育施設においては多くの我慢を強いられ、これまで当たり前のように経験できたことが経験できないまま大人になっていくことになり、子どもたちのことを思うと辛いです。日々相談対応の中で、適切な助言ができるよう努めたいと思います。集計・分析等よろしく願います。
この調査は子育て相談が主となっておりますが、コロナ禍前後で従来していたがん検診等(特定健診も含む)ではもっと状況が過酷でした。集団健診(検診)会場の変更、密にならない工夫、周知等大きい変更を行い、やっと実施しても受診率は下がる一方でした。
田舎ほど生きづらい世の中になったなと思う。東京は感染者も多く、感染しても気にしない。自己責任、仕方がないみたいな雰囲気諸侯とも行きやすい。子どもとの遊び場へいくのも自由な姿をよく感じる。もともと東京で働いていて、元同僚や友人から話を聞くとそう感じる。東京では、立ち合い分婉可、面会okのことも増えているが岩手はいつまでも厳しすぎる気がする。マスクをしたまま分婉は何の意味があるのか。なぜコロナになったら症状がなくても帝王切開になるのか、県外の人と会ったら、健診に2週間いけない等、根拠のないルールが多すぎる。市内にいてもリスクは同じでは？と思う。医療従事者(看護師や医師)が一番大変なのに一番行動制限されているものなんだかなと思う。深夜明けで院内保育園に預けず家でみてと言われるようです・(子ども元気なのに、休みの日は家でという謎の圧力)
日々感染予防の重要性を感じていましたが、コロナ禍でより、感染対策の徹底を意識し、感染等が健診の中で起こらないよう、従事する側も予防意識が必要であると思って業務にあたっています
以前からケース対応は苦悩しながら行いましたが、コロナ禍でもっと複雑になったのかな…とうすうす感じています。(コロナによる面会控えて会いづらさUP) また、孤立感を感じながら子育てしている人が多くなったような気がしています。
調査内容について、調査の意味と質問内容が一致しているのか、何を聞かれているのか分かりにくく、回答できませんでした。
異動してきてばかりの者には記入しづらい調査でした。直接子育て世代へ調査したほうがよりリアルに分かることが多いのではないのでしょうか。
感染対策を徹底しながら、口腔衛生業務を行っている。マスク生活での口腔機能低下も考えながら親・子に対して指導を行っている。

調査に関する自由回答記述の内容
<p>多くの自治体の保健師が、<b>人員不足</b>を感じています。<b>有能な保健師が業務のストレスでどんどん退職</b>していきます。職場の労働組合でも必要な<b>人員の確保を呼びかけていますが改善せず</b>、むしろ悪化するばかりです。保健師も自分の家族や健康を守るため、必要最低限の支援しかしていない、正直、私から見ると、すでに支援が不十分になっていて、住民の不利益となっていると思います。<b>国等、しかるべき機関が保健師が充分確保されるよう働きかけるべき</b>だと思います。(具体的に住民〇万人に保健師〇人と基準を示す等) このアンケートについて、自由記述が多いもので、パソコンでも回答できるようにしていただけると良かったです。(手書きが大変…)どうかこの声が少しでも改善につながるよう願っております。どうぞよろしくお願いいたします。乱筆失礼しました。</p>
<p>コロナ関連の特にワクチン接種や、相談対応(苦情含)におわれ、<b>人的体制は変わらないため、通常業務の上、コロナ業務が追加で、とにかく大変</b>でした。<b>”災害と違って対応しろ”と上司から言われても、終わりの見えない状況に苦しかった</b>と記憶します。</p>
<p>時々、「コロナワクチンの接種をこんなに市職員、医療従事者、シルバー人材センターの皆さん、スポーツ協会の皆さんと一丸になって頑張ってきたのに、なぜ感染者が減らないのか?」と<b>むなしい不安全感</b>に襲われることがあります。一応保健師なので、行楽地にもできるだけ遊びに行かないようにしていますが、友人(医療従事者ではない)が遠方に遊びに行っていることなどを聞くと「<b>なぜ自分ばかり我慢しているのか。こっちはこんなに我慢しているのに、ヘラヘラ遊び歩いている人たちが許せない</b>」と、醜い思いに駆られてしまうことがあります。コロナが爆発的に増える前の2020年1月～2022年6月まで全く県外に出ない生活を送ってまいりました。今年に入ってようやく山形県と宮城県に行きましたが、中部地方にある祖父母の墓参りに3年いけておりません。<b>コロナウイルスにかかる前にメンタルを病んで体をこわす方が先ではないか?と不安に感じる日々</b>を過ごしております。まとまりのない文章となってしまう、失礼いたしました。</p>
<p><b>相談対応の場面ではコロナ関連(ワクチン接種など)にあたる相談が多い印象であり、“コロナ”を理由とした子供との関わりや夫婦関係などの相談は表立ったものはあまりない</b>気がする。ただ、通常相談を受けている内容が本当はコロナが絡んでいたということもあるのかもしれないが、そこまでの把握は難しい気がする。乳児健診等で保護者と会う機会・時間は限られており、保育所の先生などのほうが、コロナ禍の置ける子育ての大変さなどの相談を受けているかもしれない。正直、コロナ禍＝困難世帯の増加かどうか分からない。支援者としての相談対応はコロナ禍前と変わることなく続けており、相談対応の基本は変わらないと思っている。</p>
<p>コロナ感染、濃厚接触者となった場合、第三者の支援が届きにくくなる不安はある。園や学校が行っていた健康状態の変化や虐待の有無など生命にかかわるところが確認できず、期間を過ぎてしまうことになるのでは…と思う。</p> <p>また、学校を欠席している間、学習補償がうまくできていない地域とそうでない地域に分かれているのではないかと。小規模校であれば可能、大規模校であれば不可能となっていないか。欠席理由がコロナに関するものなのか、そうでないのか、感染したからか、濃厚接触者なのか把握ができていない学校もあると聞くので、情報の管理について工夫も必要であると考えます。</p>
<p><b>はじめはコロナの感染対策をどのようにして業務を行うか不安や迷い</b>がありました。沢山の人が集まる健診会場、家庭訪問等、自分の体調には今までと違い<b>常に気を配って業務を行っています</b>。手洗い、消毒、アクリル板活用、換気、検温、体調確認、住民は少人数で呼ぶ等少しずつ感染対策にも慣れ、スムーズに動いています。職場内でも黙食、換気、それぞれワクチン接種を行う等、集団感染を防ぐため努力を続けています。今後も感染は続くでしょうが、今まで通りスタッフ間で対策を考え、その場に合った対応を協力して行っていきたいです。</p>
<p>コロナ禍で感じることは、母子と対面する時にマスクやフェイスシールド、消毒などの不自由さが、相談しにくい状況となっている。相手の思いや児の発達を観察するにあたり、とてもやりにくさを感じます。仕方のないことですが、<b>児とのふれ合いも最小限</b>にしています。</p>
<p>・現在コロナ禍により、コロナが園や保護者の職場で出た際には、乳幼児相談は次月の案内になる。→特に4か月の子たちは、状況把握が難しい。加えてEPDSが高い母や初産、そのほか新生児訪問で気になる家族へのアプローチが難しい</p>
<p>コロナ感染拡大への不安から、思うように保健事業を行えないのが現状です。このままでいいのか…という、<b>できないことへの専門職としての罪悪感のようなものもあり、フラストレーションが溜まります</b>。その分、ケース対応は今までと変わりなく行っておりますが、困難事例が多く、コロナ禍だから、ではなく、そもそもの家庭としての家族力の低さが目立つような気がしています。コロナ禍において、他人との接触の機会を最低限までに制限されていることから、そのような家庭が、目立たずに埋もれてしまっているのでは…というのも不安です。<b>自分自身も感染してしまったこともあり、保険分野の保健師、正職1名、会計年度1名(正職もう1名育休中、補完なし)で、回すのもギリギリの状態</b>と感じています。募集をかけても、保健師は全てを受けてくれない(申し込みすらない)状況が続いていますが、待遇の良い看護師へ人が流れてしまうこと、そもそも保健師という資格を取得する、できる人数も限られてきている現状に、不安と不満を感じております。「いつか保健師をしたい」「保健師を今すぐにしたい」と思ってくれる次世代が増えてくることを期待します。そのためにも、<b>保健師がもっと専門職らしい仕事ができるよう、「役場の事務の一人」となってしまうまいよう、市町村の保健師への待遇もよくしていく必要がある</b>と感じています。</p>
<p>・<b>”コロナ”が都合の良い理由になっている家庭もある</b>。コロナが大変だから 健診には行きません、HPに行きたくないで予防接種しません、相談会に行きません遊ばせません→フォローが難しい 個別対応等を行ってきたが…<b>通常業務+コロナ対応がいつ終わるのか分からない不安</b></p> <p>・<b>自身の生活にも制限があるので(コロナ対策で)そのつらさ</b></p>
<p>コロナにより親自身は大人数のいる場になかなか連れていけない、連れていく事に躊躇している。コロナ集団予防接種に休日は従事しているためなかなか<b>職員も普段の業務を行いながらで休みが取れていない</b>。また、今までのように外出や趣味が思うようにできずストレスを感じている。</p>
<p>「人に迷惑をかけないように」「うるさくしないように」と子育て中の方々は、気をつけている様子です。社会がもっと子育てに寛容で思いやりのある世の中になってほしいと思います</p>
<p>2年目であるため、保護者への声かけの仕方やつなげ方にまだまだ未熟さを感じる。分からないことは上司に相談するようにしているが、知識・技術不足である。今後、研修や経験を積み重ねることで、技術・知識を得ていきたい。</p>

## 5. まとめ

本調査では、自治体において子育て世帯への対応をしている相談専門職を対象とし、子育て中の保護者の相談内容と、相談専門職の対応状況を明らかにすることを目的とした。

まず初めに、コロナ禍における保護者の相談内容についてみていきたい。本調査では、2(2)でみてきたように、コロナ禍をⅠ期「発生当初から第三回緊急事態宣言解除前（～2021年9月30日）」とⅡ期「第三回緊急事態宣言解除後（2021年10月1日～）」に分け、更に未就学児と就学児に分けて保護者からの相談内容について複数回答にて尋ねた。

未就学児においても、就学児においても相談内容にⅠ期とⅡ期とでは大きな差はない。ただし、未就学児においても就学児においても、「コロナに関連することについて」の相談は多く、未就学児に関しては20ポイント以上もⅡ期において高い割合となっている。就学児において差はない（未就学児Ⅰ期：58.3%・Ⅱ期：70.0%、就学児Ⅰ期：40.6%・Ⅱ期：43.8%）。

コロナ感染症発覚当初、高齢者および基礎疾患を持っている人のリスクについて取りざたされることが多く、乳幼児の感染リスクについては背景に迫いやられていた。時間の経過とともに、乳幼児においても感染が拡がり、そういった中での相談割合の増加と考えられるだろう。自由記述欄には、「コロナ禍の有無関係なく、1～8の相談はあり、特化して増えたのはNo4（「コロナに関連することについて」）」とあり、業務負担の多くは、「コロナに関連することについて」の相談対応であるといえる。

ただし、相談専門職が捉えるコロナ禍における「子育ての大変さ」として見た場合、Ⅰ期とⅡ期での違いはないとした人が51.7%であったが、Ⅰ期とⅡ期に特徴を見出した人たちが26.7%いた。その人たちの記述を分析したところ、Ⅰ期は、感染の不安や予防接種への不安による保護者の疲弊が読み取れる。またⅠ期は、まだ、コロナウイルスが「未知なるウイルス」である状況だったこともあり、外出や行動の制限による生活の変化への疲弊が読み取られる。Ⅱ期では、Ⅰ期とは異なり、感染拡大をうけて自身が感染したり、接触者になったりして、保育所や仕事を休まなければならないことが読み取れる。仕事と子育ての負担のしかり、親族等にサポートを頼むことが難しい状況下で保護者の負担が大きくストレスとなると考えられる。

このような状況にある保護者に対し、本調査の回答者である相談専門職の人たちは、どのような対応をしてきたのであろうか。

まずは本調査に回答いただいた調査対象の属性についてみてみる。性別は女性が94.9%であり相談専門職はほぼ女性が担っている状況である（1-（1））。年齢においては「30-50歳未満」で全体の58.2%を占めるが、本報告書のメインテーマである子育てしている年齢層とも重なる世代である（1-（2））。相談専門職である回答者自身も、相談対応をする子育て世帯と同じ状況にあるといえる。コロナ禍における業務の負担について増加したと回答している人は、全体の75%であった（2-（1））。回答者について「女性」「30-50歳未満」「負担増」の3点からとらえると、表4-1でも見てきたように「自分自身、子育て中であり、我が子の通う園が休園時になった場合、出勤困難で休むことが多くあった。そのため、訪問予定等の変更を余儀なくされ迷惑をかけてしまったと感じている」といった、子

育てをしている自身の課題と組織との課題の板挟みに置かれている相談専門職の姿が見て取れる。こういった困難をもたらしている要因を克服するためには、市町村行政の体制改善が重要ではあるが（55.8%）、それを進めるうえでは国の政策的先導が求められといえよう（41.9%）。自身のスキルアップ（32.6%）を求める人たちもいるが、「できないことへの専門職としての罪悪感のようなものもあり、フラストレーションが溜まります。」というように、平常時とは違う状況の中で、人的資源の限界があり、自身の専門性の無さというよりは、構造的にそう感じざるを得ない状況が存在するものと考えられる。

このような中、現在の業務遂行上の困難感については、「とても感じている」「まあ感じている」を合わせると全体の 58.2%であり、半数以上が困難を抱えていることがわかる（2（6））。現在の業務遂行上の困難感について、クロス集計を行ったところ、子育て世代にあると思われる 50 歳未満の年齢層において困難感がある傾向がみられた（3（1））。また、コロナ禍以前とコロナ禍後の比較といった点においては、相談専門職としての、また現在の部署の勤務年数が長いほど、困難感を感じている傾向がみられた。そう考えると、このコロナ禍において入職をした若い世代の人たちは、「非常時」でのスタートと言え、人的限界の中で、平時に求められるスキルが得られないまま、時間が過ぎてしまっていることも考えられる。

2020 年の 4 月に発せられた緊急事態宣言を、コロナへの自治体対応のスタートとするならば、この 3 年間の間、自治体における相談専門職がおかれた状況はかなり過酷な状況にあったと言える。それは、平常時に行われていたような業務が遂行できなくなったことに加え、感染予防対策やその都度変更を余儀なくされる事業への対応が主であり、人的資源の限界に見られるものである。それは個別対応が増加したという大変さ（個別対応はそれなりに行われていたが、相手側からの拒否がみられたり、気にかけるべき世帯においては、より問題が深刻化したことによる寄り添う難しさがあったり）よりは、限られた人員の中で、自身も家族および自分の感染リスクを抱えながら、増える業務への対応が求められたことによる。そして、感染リスクによって生じる困難は人口の多い地域において認められる（3（5））ことから、人口規模に応じた対応が求められる。

現在、コロナ感染症については、2 類から 5 類への移行が予定されているが、それがすぐさま相談専門職の負担軽減につながるというものでもない。「保健師がもっと専門職らしい仕事ができるよう、「役場の事務の一人」となってしまわないよう、市町村の保健師への待遇もよくしていく必要がある」という自由記述にも見られるように、相談専門職としてのスキルを十分に発揮できる体制が求められよう。とはいえ、単純に人員を増やしましょう、待遇を良くしましょうというのは難しい。各自治体において、今回のパンデミックをどのように乗り越えたのか、構造的にどう対応してきたのかを明らかにし、次なるパンデミックへの対応を平時から整えておく必要があろう。本研究においても次なる課題となる。

本調査では、業務のお忙しい中、79 名もの相談専門職の皆様にご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。



## コロナ禍における子育て相談の内容の変化についての調査 —自治体における相談専門職の方を対象に— ご協力をお願い



本調査は「子育て中の保護者の相談や支援に役立つための要因」を知るために、（公財）いきいき岩手支援財団の企画により行われるものです。調査対象は、県内 33 市町村の乳児検診等の場で相談業務に対応されている相談専門職の方となっております。調査では、相談対応をする中で、子育て世帯の悩みについてコロナ禍前後の様子や、また、業務を遂行する上での困難などについてお聞きしております。昨年度に引き続き、コロナ禍における様々な活動制限などによって、子育てにどのような影響が起きているかという現状を子育て中の保護者の相談業務に対応している相談専門職の皆様にお聞きすることによって、子育て世帯にどのような支援が必要か、また、業務に関する改善についてどんな対応が必要かといった、今後の支援環境や計画などのヒントを得ることを目的としております。

調査・分析に関しては、（公財）いきいき岩手支援財団と岩手県立大学社会福祉学部・庄司知恵子研究室、瀧井美緒研究室と共同で実施いたします。調査は無記名で行います。調査結果は研究目的以外で使用されることはなく、統計的に処理され、回答者個人が特定されることはありません。お答えいただいた個々の情報が個人を特定する形で公表されることはありません。

お忙しいところ、誠に恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和 4 年 11 月

### 【ご回答にあたって】

- ◆ 乳児検診等の場で相談業務に対応されている相談専門職の方にご回答をお願いいたします。
- ◆ 本調査用紙は4ページ、17問で構成されています。
- ◆ 回答は、返信用封筒（切手は不要です）に入れて封をし、郵便ポストへ投函してください。
- ◆ お忙しいところ、誠に恐縮に存じますが、**令和 4 年 11 月 25 日（金）まで**にご回答ください。
- ◆ 本調査についてのお問い合わせは、下記問い合わせ先までご連絡ください。

庄司 知恵子  
岩手県立大学 社会福祉学部  
住所 〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52  
(研究室) tel  
(学部事務室) tel  
email



本調査用紙は 4 頁、17 問あります。回答は任意ですので、回答したくない質問には答えて頂かなくても結構です。また、「指示」が書かれているものがありますので、その指示に従い、ご回答をお願いいたします。

1) あなたの性別として、当てはまるものに○をつけて下さい。

1. 男      2. 女

2) あなたの年齢として、当はまるものに○をつけて下さい。

1. ~25 歳未満                      2. 25 歳以上 30 歳未満                      3. 30 歳以上 35 歳未満  
4. 35 歳以上 40 歳未満                      5. 40 歳以上 45 歳未満                      6. 45 歳以上 50 歳未満  
7. 50 歳以上 55 歳未満、                      8. 55 歳以上 60 歳未満                      9. 60 歳以上

3) あなたが、現在、業務をされている自治体名をお書きのうえ、当てはまる自治体区分（市・町・村）に○をつけてください。

--

市・町・村

4) あなたが、現在、業務されている部署名を、お書きください。

\_\_\_\_\_

5) あなたが保有している業務に関する資格について、あてはまるもの全てに○をつけて下さい。

1. 医師                  2. 看護師                  3. 保健師                  4. 助産師  
5. 社会福祉士        6. 児童指導員              7. 保育士                  8. 幼稚園教諭  
9. 言語聴覚士        10. 臨床心理士（公認心理師）  
11. その他（具体的に

6) 相談職としての勤務年数について、お書きください。

--

年目

7) 現在の部署での勤務年数について、お書きください。

--

年月

8) 現在の部署での、あなたの業務内容について、お書きください。

111



9) コロナ禍前（～2019 年度）とコロナ禍（2020 年度～）では、業務量の負担は増えましたか、減りましたか。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 増えた      2. 少し増えた      3. かわらない      4. 少し減った      5. 減った  
6. コロナ禍前に相談業務として勤務をしていなかったため、比較できない(→問12)へ)

10) コロナ禍における、保護者からの相談内容について、当てはまるもの全てに○をつけて下さい。その際、【未就学児】と【就学児】を分けて、また、コロナ禍前半（Ⅰ期）と後半（Ⅱ期）に分けてお考え下さい（第三回緊急事態宣言を境に分けました）。なお、【未就学児】【就学児】それぞれに業務上対応していない場合は、回答せずに、表上に大きく「×」をつけて下さい。

【未 就 学 児】			
Ⅰ期：発生当初から、第三回緊急事態宣言解除前 （～2021年9月30日）		Ⅱ期：第三回緊急事態宣言解除後 （2021年10月01日～）	
1	子どもとのかかわりについて	1	子どもとのかかわりについて
2	子ども自身の対人関係について	2	子ども自身の対人関係について
3	園生活について	3	園生活について
4	コロナに関連することについて （症状やワクチン接種、感染対策など）	4	コロナに関連することについて （症状やワクチン接種、感染対策など）
5	夫婦の関係性について	5	夫婦の関係性について
6	祖父母との関係性について	6	祖父母との関係性について
7	子どもの発達に関することについて	7	子どもの発達に関することについて
8	保護者の就労について	8	保護者の就労について
9	その他（具体的に）	9	その他（具体的に）

【就 学 児】			
Ⅰ期：発生当初から、第三回緊急事態宣言解除前 （～2021年9月30日）		Ⅱ期：第三回緊急事態宣言解除後 （2021年10月01日～）	
1	子どもとのかかわりについて	1	子どもとのかかわりについて
2	子ども自身の対人関係について	2	子ども自身の対人関係について
3	学校生活について	3	学校生活について
4	コロナに関連することについて （症状やワクチン接種、感染対策など）	4	コロナに関連することについて （症状やワクチン接種、感染対策など）
5	夫婦の関係性について	5	夫婦の関係性について
6	祖父母との関係性について	6	祖父母との関係性について
7	子どもの発達に関することについて	7	子どもの発達に関することについて
8	保護者の就労について	8	保護者の就労について
9	その他（具体的に）	9	その他（具体的に）

※「9. その他」の記述欄が足りない場合は、矢印などで関連する記述がわかるようにし、こちらのスペースにお書きください。

11) コロナ禍以前と比べ、コロナ禍の「子育ての大変さ」とはどのようなものだと思いますか。当てはまるもの1つに○を付け、それぞれの指示に従ってください。

1. コロナ禍前後で、大変さは変わらない。  
→問11)へ
2. コロナ禍において、大変な状況がみられるが、Ⅰ期とⅡ期とでは特に変わりはない。  
→Ⅰ期のみ記載
3. コロナ禍において、Ⅰ期・Ⅱ期においてそれぞれ異なった大変さがある。  
→Ⅰ期Ⅱ期それぞれ記載

Ⅰ期	
Ⅱ期	

12) コロナ禍において、相談者が困難な状況におかれていると、特に感じた相談内容について、可能な範囲で構いませんので、教えていただけますか。

13) コロナ禍の子育てにおいて、「最も困難を抱えている」と思う世帯に○をつけて下さい。また、その背景について、思うことがあれば教えて下さい。

1. 母子世帯                      2. 父子世帯                      3. 多子世帯                      4. 三・四世代同居世帯
5. 障害児のいる世帯                      6. 共働き世帯                      7. その他(具体的に )

背景として思うこと

14) あなたは現在、業務遂行上、困難を感じていますか。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。1. 2に○をつけた方は、困難だと思う理由を具体的にお書きください。

1. とても感じている (→理由)
2. まあ感じている (→理由)
3. あまり感じていない
4. 全く感じていない

理由



15) コロナ禍において、市町村として、困難を抱えている子育て世帯に十分に対応できていると思いますか。当てはまるもの1つに○をし、そう思う理由をお書きください。

1. 思う(→理由を書いた後、問17)へ)      2. まあ思う(→理由を書いた後、問17)へ)  
3. あまり思わない      4. 思わない

理由

16) 15) において3. 4に○をつけた方にお聞きします。どのような事が改善されれば、困っている世帯に対応が可能になると思いますか。当てはまるもの全てに○をつけ、具体的な内容について、該当番号を付けて、お書きください。

1. 自身のスキルアップ      2. 所属部署の体制改善      3. 市町村行政の体制改善  
4. 県の体制改善      5. 国の政策      6. その他

具体的な内容の記入例)      1. ○○の資格取得

17) 最後に、コロナに関すること、あなた自身のこと、業務に関すること、調査に関すること、何でも構いませんので、ご自由にお書きください。 (スペースが足りない場合は、別紙を添えて頂いて構いません)

☞ 調査は以上です。記入漏れが無いかご確認をお願いいたします。お忙しい中、ご回答頂きありがとうございました。